ワシントン 11月26日後発		前田君	海軍
	つき意見具申	徳川君	陸軍
状況打開のため大統領と天皇との親電交換に	状況打開のため	伊達君	外務大臣
		伊藤君	総理
- 在米国野村大使より	06 召116 手1 月26 日	サンフランシスコ	支那問題
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	シカゴ	無差別待遇問題
ナリ	官邸(銀座一〇二二)	ニューヨーク	三国条約問題
(三)大臣官邸(銀座三六一四)次官	加瀬課長(四谷四七九三)		ヘキ隠語左ノ通
ノ電話番号ハ山本局長(世田ケ谷四六一七)	尚為念本省以外ノ電話	電話ヲ以テ山本亜米利加局長ニ御通報相成度其ノ際使用ス	電話ヲ以テ山本亜米利
子供カ生レル	形勢急転スル	等ノ模様ハ簡単ナルモノニ限リ随時	今後ハ必要ニ応シ会談等ノ
山ハ売レヌ	譲歩セス	アル処電報ハ長時間ヲ要スルヲ以テ	情勢ハ逐日急迫シツツア
山ヲ売ル	譲歩スル	•	第八三六号 (館長符号)
商売	国内情勢	本 省 11月26日 発	
梅子サン	ハル	て使用すべき隠語について	電話連絡に際し
君子サン	大統領		F 7 1 1 1 2
縁談	日米交渉	東郷外務大臣より	05 昭和16年11月26日
	戦	・ノート」受領から開戦	八「ハル
		•)	第八四一号(館長符号)
		本 省 11月27日後3時発	
		前文の英文修正方訓令	「乙案」前文の
		- 在米国野村大使宛(電報)- 東郷外務大臣より	<b>404</b> 昭和16 年11 27日
		立場ニ変リツツアル事情ナリ	ノ主張ヲ弁護スルノ立
		*最近是等ノモノモ漸次「ハル」長官	ニ努メ居ル次第ナルカ最近是等ノ
		尚貴電後段ニ関シテハ当方トシテモ現ニ充分利用致シ説得	尚貴電後段ニ関シテハ
		1)	張ハ先方ニ徹底シ居レ
		苟且ニモ申シタルコトナク我方ノ主	サルヘク当方ニ於テハ苟且
		(ノ如キハ米国新聞記者ノ憶測ニ過キ	貴電冒頭仏印全部撤兵
			貴電第八三〇号ニ関シ
		2、極秘、館長符号)	第一一八三号(大至急、

八 「ハル・ノート」受領から開戦

185

乙案前文英文ハ左ノ通リ修正サレ度シ貴電第一一七一号ニ関シ

403

昭和16年11月26日

東郷外務大臣宛(電報)在米国野村大使より

「乙案」の貫徹につき回答

本 省 11月27日前着 11月26日後発

除 キ elucidating ヲ affirming ト シ agreed upon ヲ こ 案 fi マ peace ノ前ノ the(定冠詞)ヲ

reached トシ mutual understanding ノ mutual ヲ削除ス

セル左記要領ノ新案ヲ一案 (a plan) トシテ (tentative and	ワシントン 11月26日後発
侧六月二十一日案卜日本側九月二十1	米国国務長官との会談時間について
慎重協議セルモ遺憾乍ラ之ニ同意出来スニ付米国政府ニ於テ各方面ヨリ検討スル	臣大 宣     信
>茲数日間本月二十日日本側提出ノ暫定	
「ハル」長官ト会談ス	タル趣ナリ為念
二十六日午後四時四十五分ヨリ約二時間本使及来栖大使	ヲ為セルモ大体本日中ニハ会見ノ運ニ至ルヘキ印象ヲ受ケ
第一一八九号(極秘、館長符号)	ナリト述ヘタルカ更ニ念ノ為長官ト連絡ノ後同趣旨ノ回答
本 省 11月27日後着	暇ナキ実状ニテ会見予定時間ハ今尚確定致シ兼ネオル次第
ワシントン 11月26日後発	早朝ヨリ本件ニ関シ審議研究中ニシテ殆ント他事ヲ顧ミル
要旨報告	予定時間ヲ質サシメタル処「バ」ハ「ハル」長官ハ今日モ
米国国務長官との会談の際提示された米国案	今朝更ニ寺崎ヲシテ「バレンタイン」ヲ往訪セシメ会見ノ
410 昭和16年11月26日 東郷外務大臣宛(電報)	往電第一一七八号ニ関シ第一一八四号(極秘、館長符号)
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	本 省 11月27日前着
官ト会談ノ予定ナリ	ワシントン 11月26日後発
本使来栖大使同伴本二十六日午後四時四十五分「ハル」長	
	見新夕澄ノ呂ダ(雪
	10 昭和16年11月26日 東部下第六百位(電報)
	シテ且日支事変ノ解決ハ少ナクトモ今次世界戦ノ終局迄持
	対シ独逸カ条約第三条ノ義務発動ヲ肯スルヤハ頗ル疑問ニ
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	ラレ結局我方ノ攻撃ニ依ル対英米衝突不可避ナルヘク右ニ
コトトスヘシ	存スヘキモ決裂後ハ前述ノ如ク英米側ノ蘭印進駐モ予想セ
時)ニ制限アル為緊急電報ニ依ル方早キ場合ハ電話セサル	今回交渉ノ決裂カ必スシモ日米開戦ヲ意味セサルヤノ観測
乃至十時及午前十一時乃至午後一時、午後二時乃至午後四	リ)ヲ提議スルコト可然ト思考ス
早速実行スヘキモ日米間電話連絡時間(東京時間午前七時	大統領カ仏印、「タイ」国中立ヲ提議セルハ御承知ノ通リナ
貴電第八三六号ニ関シ	印、蘭印、「タイ」国ヲ包含スル中立圏設立(本年九月「ロ」
第一一八一号(至急、極秘、館長符号)	占領ニ出テ来ル可能性ヲモ考慮シ我方ヨリ先手ヲ打チ仏
本 省 11月27日前着	スルト同時ニ今少シク時機ノ御猶予ヲ得英米側カ蘭印保護
ワシントン 11月26日後発	テ極力交渉ス)之ニ対シ御親電ヲ仰キ奉リ以テ空気ヲ一新
電話連絡の時間について	目的トスル日米両国協力ノ希望ヲ電信セシメ(御内意ヲ俟
40 昭和10年11月20日 東郷外務大臣宛(電報)	「ロ」大統領ヨリ至尊ニ対シ奉リ太平洋平和維
215111、5 在米国野村大吏と	愧ニ堪ヘス此ノ際唯一ノ打開策トシテハ甚タ恐懼ニ堪ヘサ
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	時日ハ切迫此ノ儘ニテハ遺憾乍ラ交渉打切ノ外ナク微力慙
ス	累次往電ノ通乙案全部ヲ容認セシムル見込殆ント無ク一方

187

八 「ハル・ノート」受領から開戦

スモホ戸内大臣迄御示シノ上至急折返ヘシ何分ノ御回電切望年木戸内大臣迄御示シノ上至急折返ヘシ何分ノ御回電切望年電ハ或ハ本使トシテ最後ノ意見具申タルヘキニ付少クト 186

第一一八〇号(極秘、館長符号)

本

省

11月27日前着

野村来栖ヨリ

対する米国側対案につい 別 電 ____ ----一月二七日付在米国野村大使より東郷外 τ

189

米国国務長官より提示され た我が 方最終案に

昭 和 16 年 11 月 27 Η 東在 郷米 外国 務野 37村臣大 宛使 (電り 報

413

能性云々トアル処右ハ事頗ル重大ニシテ当方トシテ 貴電第一一八〇号中段ニ米側カ蘭印保護占領ニ出テ来 タル根拠等当方参考トナル シク的確ナル事情ヲ承知シ度キニ付右可能性ニ言及セラレ 第八四二号(館長符号) ヘキ事 項ト共 三御 П 電 ラ乞フ ハ 令少 N न

本 省 11月27日後3 時 発

米国による蘭印 保護占領の可能性につき照会

412 昭 和 16 年 11 月 27 日 在東 米郷 国外 野務 村大 大臣 使より 電報

アラハ折 尚大統領ト会見ノ都合モアル 申入ルコト 返ヘシ御 ト致シ度 回 示 \geq 小ヲ請 7 Ξ 付 此 ノ際尚 ホ 心得 ヘキ点チ

思表示 玉 words ト云ヘルカ如キ事態ニモ鑑ミ若シ我方ニ於テ現下 密ノ関係アルヘキヲ以テ政府ノ御裁量ニ依リ東京ニ於テ米 用 駐 任ヲ我方ニ転嫁セントスルノ惧アルコト現ニ再三我 ニ予定ノ行動ヲ開始シタルモノノ如ク宣伝シ交渉破綻ノ責 キスリ之カ用意成リタルヲ以テ会談継続中ニモ拘ラス勝手 モ利用シ反ツテ我方カ所期ノ行動準備ノ為メ本件会談 動ニ出ツル場合ニハ米側ハ目下関係諸国ト折衝中ナル 対シ急速妥結ヲ迫リタル ニ依リ今次交渉ノ区切リヲ明カニセラルルコト得策ナル 慮ヲ要スル次第ナルカ而モ斯ノ サスシテ突如自由行動ニ出ツルコト ニ存セラル 、交渉ニ何トカ区切ヲ付ケスシテ期日後ニ於テ何等自 セラル いセラル 大使ニ対スル通告又ハ中外ニ対スル声明等然ル ノ為メ会談停止サレタル旨ヲ言及セル事例ニ依リテモ観 ササルモ我方ニ於テハ御訓令ノ次第モアリ今日迄先方ニ ヲ為シタルコトナク又十七日大統領モ no ルヲ以テ我方カ何等本件交渉打切ノ意思表示ヲ為 ル惧アル 尤モ其) ノミナラス大国ト 場合ニハ予 ノミニテ其ノ為未夕最後通牒的意 メ当方 如キ意思表示ハ我軍機ト シテノ信義上ヨリモ考 ハ右ノ如キ逆宣伝ニ利 へ御内報 1 上同 へキ方法 74印進 いヲ引 古由行 事 時 last ヤ 緊 実 Ξ

コト 右 二対 スラ考慮セサ シ我方ヨリ 案 モ本件協定及太平洋平和維持 解 米両国カ第三国ト セラレサルヘキコト ルヲ得ストテ強硬応酬ヲ重ネタル 全然従来ヨリ /間ニ締結 ノ話合ニ悖リ東京ニ取 -ヲ約ス ノ目的ニ反スル (三国協定骨 ī 如 何ナル 力 次ク モ 協定 抜 一 7 ラ

妥協派 倒演説我対泰国国防全面的委任要求説等ニ影響サ 依ル外援蔣行為停止ノ我方要求ト数日来我国要人ノ英米打 米側ニテ斯ル強硬案ヲ提示スル N L_-ハ到底譲ル気色ナシ カ強硬派ニ圧 倒 セラレタル ニ至 為 \mathcal{V} カト推察ス N ハ英蘭支 V ラ 米側 策 動 1 Ξ 188

甲

所謂四原則ノ承認ヲ求メタル

モノ

結

N

ニ至レリトテ左ノ二案ヲ提出セリ without commitment ト肩書ス)

提出

ス

ル

1

已ムヲ得サ

ル

Ź

(--)

(二)

日米英蘭支泰国間ノ仏印不可侵並ニ仏印ニ於ケ 日米英「ソ」蘭支泰国間ノ相互不可侵条約締

経済上ノ均等待遇ニ対スル協定取極

昭 和 16 年 11 月 27 H 東在 郷米 外国 務野 大村臣大 宛使 () 電り 報

交渉打切 ij の 際 Ø 処置につき意見具申

ワシントン 11 万 27日 発

本 省 着

第 今次日米交渉 ____ 九 ○号

(八) (七)

ドル」

為替安定

日

米相互凍結令解除

(九)

Η

1

セ

(六)

最恵国待遇ヲ基礎ト

スル

Н

米間互恵通商条約締結

(五)

支那ニ於ケル治外法権及租界ノ撤廃

支持セサル確約

(四) (三)

支那及全仏印ヨリ

ノ日本軍ノ全面撤

兵

日米両国ニ於テ支那ニ於ケル蔣政権以外

1

政

権ヲ

411

本二十六日米側提案(別電第一一八九号)ニ徴スル 主張懸隔著シク御来示ノ期日内ニ当方主張ヲ受諾 ハ遺憾乍ラ到底見込ナキニ至レル次第ナリ ノ経過ハ累次電報ニ依 リ御承知 ゴノ通 ij そ彼我 ,ニシテ ス N コ

然ルニ米側ニ於テハ子テノ主張並ニ我方ヨリ 為スニ至リタル次第ナル 同意取付ヲ求メタル関係上尚ホ諸国ト カ其ノ企図スル所ハ素ヨリ ·協議 ノ上右提案ヲ 本件関係各国

油断ヲ

「ハル・ノート」受領から開戦 Л

八 「ハル・ノート」受領から開戦

	客義スレヲ 导ナレニモノ
オーラル・ステートメント	二、当方ヨリ「オーラル」中六月二十一日米案ト九月二十〕近幡~いるミーク濯書フノジネキノニヨル!
二 一一月二七日付在米国野村大使より東郷外	トノ懸隔調和
務大臣宛第一一九三号	ル旨ヲ指摘セ
米国対案(ハル・ノート)前段	ハ右ハ当方指摘ノ「パラグラフ」ノ直前ノ「パラグラフ」
三 一一月二七日付在米国野村大使より東郷外	ト併読アリタク当方トシテハ前記日米両案調節ノ一案ナ
務大臣宛第一一九四号	リト述へ何分会談開始以来其ノ内容ヲ秘シ来レル為メ民
米国対案(ハル・ノート)後段	論ヲ重ンスヘキ当国ニ於テ種々ノ憶測ヲ生シ殊ニ支那ヲ
付記一 右別電一訳文	見殺シニスルカ如キ浮説モ頻リニ伝ヘラレ自分モ当惑シ
二 右別電二、三訳文	オル一方日本側ハ二十二日会談ノ際申上ケオキタル次第
ワシントン 11月27日前発	ニモ拘ラス各要人ハ相変ラス非平和的議論ヲ高調セラレ
本 省 11月27日後着	オル関係モ有之自分トシテハ諸般ノ事情上本案提示ノ已
第一一九一号(極秘、館長符号)	タリ
二十六日「ハル」長官ノ求メニ依リ本使来栖大使ト共ニ会	三、先方提案「セクション」一ニ付テハ先ツ四原則中第四
見シタル処先方ハ先ツ別電第一一九二号及第一一九三号及	カ従来ノ所謂「スチムソン・ドクトリン」ト変化セルヲ
第一一九四号ノ文書ヲ手交セルヲ以テ一読ノ上種々質問応	指摘セルニ対シテ別段返答ナク無差別待遇主義ニ対シテ
答ヲ重ネタルカ其ノ要領左ノ通	ハ従来ノ我方主張ヲ「レマインド」スルト共ニ例ヘハ右
一、二十日当方提出ノ提案(乙案但シ六及七ヲ除ク)ニ付	原則ヲ直ニ支那ニ適用シ現在経済ノ運営ニ急激苛酷ナル
テハ五日間ニ亘リ審議研究シ且関係諸国トモ協議セルモ	変革ヲ加フルノ不合理不可能ヲ指摘セルニ対シテハ右ノ
如キハ十分理解シオリ原則ハ原則トシテ必スシモ急速実	限リノ譲歩ヲ為サシメンコトヲ希望セラレツツアル一方
現ヲ予想シオル次第ニアラスト答へタリ	前述ノ如キ支那問題ニ対シテハ殆ント当方ヲシテ重慶ニ
四、同提案「セクション」第二ノ⑴ニ関シ其ノ趣旨ハ兎ニ	謝罪セヨト称セラルルニ等シク苟クモ米国大統領カ過般
角トシ日本カ華府会議以来此ノ種集団的機構ニ付テハ頗	「紹介」ヲ云々セラレタルハマサカ右ノ如キ趣旨ニ出テ
ル苦キ経験ヲ有シ居り本案カ九国条約的機構ヲ復活セン	ラレタル次第ニハアラサルヘシト述ヘタルニ対シ「ハル」
トスルモノナルニ於テハ我国トシテハ四年間ノ今次事変	ハ別段答フル所ナシ
カ全ク無益ニ帰スルコトトナル次第ニシテ到底容認シ得	七、兎ニ角単ニ一読シタルノミニテモ甚タ承服シ難キ御提
サル所以ヲ強調セルニ対シテハ何等力アル反駁ヲ為サス	案ニテ殊ニ支那問題ニ関シ絶対受諾不可能ナル条項ヲ含
五、更ニ同「セクション」三及四ニ至リテハ全ク出来ナイ	ミオルニ鑑ミ此ノ儘之ヲ帝国政府ニ伝達スルハ誠意日米
相談ニシテ四ノ重慶政府承認ノ如キ米国カ恰モ支那即チ	両国ノ妥結ヲ念願トスル本使等トシテ採ルヘキ措置ナリ
蔣政権ヲ見殺シニスルヲ得スト称セラルルカ如ク我国ト	ヤ否ヤニモ深キ疑問アリ何レ両人ニ於テ更ニ熟読熟議ノ
シテハ断シテ南京政府ヲ見殺シニスルヲ得ストキツパリ	上決定スルコトト致シ度シト述へオキタリ
云ヒ切リタルニ対シ「ハル」ハ仨ノ撤兵ハ要スルニ交渉	八、最後ニ本使ヨリ米国トシテハ本案ノ外考慮ノ余地ナシ
シテ必スシモ即時実現ヲ主張シオル次第	トセラルル意ナリヤ及過般大統領カ友人間ニハ「最後ノ
アラス南京政府ニ関シテハ米国ノ有スル情報ニ依レハ到	言葉ナシ」ト称セラレタル経緯ニモ鑑ミ会見方ヲ取計フ
底支那ヲ統治スルノ能力ナシト見ルノ外ナシト述へタル	ヲ得ヘキヤト質シタルニ対シ前者ニ対シテハ右ハ要スル
ヲ以テ右ハ過去ニ於テ支那ニ幾多ノ政府カ興亡セル経緯	ニー案ナリト答へ後者ニ対シテハ余リ進マサル様子ナリ
ヲ無視セラレタル議論ナリト応酬シオキタリ	シモ取計ヒ方承諾セリ
六、三国条約ノ問題ニ至リテハ米国ハ日本ヲシテ出来得ル	

ムヲ得サルニ至レル次第ナリト述へタリ	オル関係モ有之自分トシテハ諸般ノ事情上本案提示ノ已	ニモ拘ラス各要人ハ相変ラス非平和的議論ヲ高調セラレ	オル一方日本側ハ二十二日会談ノ際申上ケオキタル次第	見殺シニスルカ如キ浮説モ頻リニ伝ヘラレ自分モ当惑シ	論ヲ重ンスヘキ当国ニ於テ種々ノ憶測ヲ生シ殊ニ支那ヲ	リト述へ何分会談開始以来其ノ内容ヲ秘シ来レル為メ民	ト併読アリタク当方トシテハ前記日米両案調節ノ一案ナ	ハ右ハ当方指摘ノ「パラグラフ」ノ直前ノ「パラグラフ」	レノ案トモ著シク異リオル旨ヲ指摘セルニ対シ「ハル」	五日日本案トノ懸隔調和ヲ云々セラレ居ルモ本案ハ右何	一、当方ヨリ「オーラル」中六月二十一日米案ト九月二十 19	
											19	0

第一一九二号(極秘、館長符号) 本 省 11月27日後着 ワシントン 11月27日前発

Oral

Strictly Confidential

November 26, 1941. The representatives of the Government of the United States and of the Government of Japan have been carrying on during the past several months informal and exploratory conversations for the purpose of arriving at a settlement if possible of questions relating to the entire Pacific area based upon the principles of peace, law and order and fair dealing among nations. These principles include the principle of inviolability of territorial integrity and sovereignty of each and all nations ; the principle of non-interference in the internal affairs of other countries ; the principle of

> equality, including equality of commercial opportunity and treatment; and the principle of reliance upon international cooperation and conciliation for the prevention and pacific settlement of controversies and for improvement of international conditions by peaceful methods and processes.

continuing. looking to a peaceful settlement in the Pacific agreed upon conversations if a temporary "modus vivendi" could be atmosphere favorable to the successful outcome of the area; that it would be helpful toward creating a comprehensive and peaceful settlement in the Pacific desirous of continuing the conversations directed toward Ambassador has stated that the Japanese Government is covering the entire Pacific area. Recently the Japanese which constitute the basis of has been made in reference to the general principles It is believed that in our discussions some progress to be in effect while the conversations a peaceful settlement were an

On Novermber 20 the Japanese Ambassador communicated to the Secretary of State proposals in regard to temporary measures to be taken respectively by the Government of Japan and by the Government of the United States, which measures are understood to have been designed to accomplish the purposes above indicated.

consideration and to which each Government which form a part of the general settlement under earnestly desires to contribute to the promotion and Government, conflict with the fundamental principles contain some features which, presented by the Japanese Ambassador on November 20 throughout the Pacific area. The proposals which were toward working out a broad-gauge program of peace discussions with the and to afford every opportunity for the continuance of maintenance of peace and stability in the Pacific area, The Government of the United States most Japanese Government directed in the opinion of this has

> declared that it is committed. The Government of the United States believes that the adoption of such proposals would not be likely to contribute to the ultimate objectives of ensuring peace under law, order and justice in the Pacific area, and it suggests that further effort be made to resolve our divergences of views in regard to the practical application of the fundamental principles already mentioned.

With this object in view the Government of the United States offers for the consideration of the Japanese Government a plan of a broad but simple settlement covering the entire Pacific area as one practical exemplification of a program which this Government envisages as something to be worked out during our further conversations.

The plan therein suggested represents an effort to bridge the gap between our draft of June 21, 1941 and the Japanese draft of September 25 by making a new approach to the essential problems underlying a

conversations constitute the only sound basis for fundamental principles which we have agreed in our provisions dealing with the practical application of the comprehensive Pacific settlement. This plan contains between our two Governments may be expedited. way progress toward reaching a meeting of minds worthwhile international relations. We hope that in this

劎 電二)

本 ワシントン 省 11 11 月 27 27 日後着

第一一九三号(極秘、 館長符号)

Tentative and Without Commitment Strictly Confidential.

November 26, 1941.

Outline of proposed basis for agreement

between the United States and Japan

Section 1

Draft Mutual Declaration of Policy

and with all other governments are based : principles upon which their relations with each other give practical application to the following fundamental their national policies they will actively support and against any neighboring nation, and that, accordingly, in other countries or of using military force aggressively that area, that they have no intention of threatening the Pacific area, that they have no territorial design in directed toward lasting and extensive peace throughout of the Pacific affirm that their national policies Government of Japan both being solicitous for the peace The Government of the United States and the are

Ξ integrity and sovereignty of each and all nations. The principle of inviolability of territorial

(2)affairs of other countries The principle of non-interference in the internal

<u></u> commercial opportunity and treatment The principle of equality, including equality of

(4)The principle of reliance upon international

peaceful methods and processes improvement pacific cooperation and conciliation for the prevention and settlement of controversies and of international conditions for by

> operation of international commodity agreements. consuming countries and populations as regards the

chronic will actively support and practically apply the following economic collapse, and providing a basis for peace, they and with other nations and peoples : principles in their economic relations with each other the United States have agreed that toward eliminating The Government of Japan and the Government of political instability, preventing recurrent

(1) The international commercial relations. principle of non-discrimination 'n

(2)expressed in excessive trade restrictions cooperation and abolition of extreme nationalism as The principle of international economic

Section 2.

第一一九四号

(極秘、

館長符号

省

States and by the Government of Japan. Steps to be Taken by the Government

of

the United

The Government of the United States

and the

ω nations to raw material supplies. The principle of non-discriminatory access by all

4 The principle of full protection of the interests of

> <u>ତ</u> consonant with the welfare of all countries. may permit payments through processes of and the continuous development of all countries and finance as may lend aid to the essential enterprises institutions and arrangements of international The principle of establishment of trade such

劎 電三)

ワシント シ 11 11 月 27 27 日 後 着

Government of Japan propose to take steps as follows : 1. The Government of the United States and the

2. Both Governments will endeavor to conclude among the American, British, Chinese, Japanese, the Netherlands and Thai Governments an agreement whereunder each of the Governments would pledge itself to respect the territorial integrity of French Indo-China and, in the event that there should develop a threat to the territorial integrity of Indo-China, to enter into immediate consultation with a view to taking such measures as may be deemed necessary and advisable to meet the threat in question.

Such agreement would provide also that each of the Governments party to the agreement would not seek or accept preferential treatment in its trade or economic relations with Indo-China and would use its influence to obtain for each of the signatories equality of treatment

in trade and commerce with French Indo-China.

3. The Government of Japan will withdraw all military, naval, air and police forces from China and from Indo-China.

4. The Government of the United States and the Government of Japan will not support-militarily, politically, economically-any Government or regime in China other than the National Government of the Republic of China with capital temporarily at Chungking.

5. Both Governments will give up all extraterritorial rights in China, including rights and interests in and with regard to international settlements and concessions, and rights under the Boxer Protocol of 1901.

Both Governments will endeavor to obtain the agreement of the British and other Governments to give up extraterritorial rights in China, including rights in international settlements and in concessions and under

the Boxer Protocol of 1901.

6. The Government of the United States and the Government of Japan will enter into negotiations for the conclusion between the United States and Japan of a trade agreement, based upon reciprocal most-favorednation treatment and reduction of trade barriers by both countries, icluding an undertaking by the United states to bind raw silk on the free list.

7. The Government of the United States and the Government of Japan will, respectively, remove the freezing restrictions on Japanese funds in the United States and on American funds in Japan.

8. Both Governments will agree upon a plan for the stabilization of the dollar-yen rate, with the allocation of funds adequate for this purpose, half to be supplied by Japan and half by the United States.

9. Both Governments will agree that no agreement which either has concluded with any third powers shall be interpreted by it in such a way as to conflict with the

> fundamental purpose of this agreement, the establishment and preservation of peace throughout the Pacific area.

10. Both Governments will use their influence to cause other Governments to adhere to and to give practical application to the basic political and economic principles set forth in this agreement.

(付 記一)

頭 一九四一年一一月二六日

厳 口

秘

情勢改善ノ為メ国際協力及国際調停遵拠ノ原則ヲ含ムモノノ領土保全及主権不可侵ノ原則、他国ノ国内問題ニ対スル非公式予備的会談ヲ継続シ来レリ之等諸原則ハ一切ノ国家非公式予備的会談ヲ継続シ来レリ之等諸原則ハ一切ノ国家理和、法及秩序並ニ公正ナル処理ノ諸原則ニ基キ太平洋全平和、法及秩序並ニ政府代表ハ過去数ケ月ニ亘リ諸国間ノ

含袂国女守を日本国女守ノ采レノチ普重	<u></u> 「」
第二項	
ムルカ如キ国際金融機構及取極樹立ノ原則	ヲ実際的ニ適
国家ノ福祉ニ合致スル貿易手続ニ依ル支払ヲ許容セシ	間ノ関係ノ基
缶 一切ノ国家ノ主要企業及連続的発展ニ資シ且一切ノ	ノ意図ナク又
ノ充分ナル保護ノ原則	ス他国ヲ脅威
四 国際的商品協定ノ運用ニ関シ消費国家及民衆ノ利益	平和ヲ目的ト
臼 一切ノ国家ニ依ル無差別的ナル原料物資獲得ノ原則	ヲ欲シ其ノ国

ル経済的崩壊ノ防止及平和ノ基礎設定ノ為相互間並ニ他国 シ且実際的ニ適用スへキコトニ合意セリ 国際通商関係ニ於ケル無差別待遇 ノ間ノ経済関係ニ於テ左記諸原 ラ原 厠 則 マ積極 的 Ξ

家及他国民ト 日 本国政府及合衆国政府ハ慢性的政治不安定ノ根絶頻繁ナ

3 一礎概 略 -----九 四 ----年 ____ 月二六日 支持 (\Box)

厳 秘 ____ 時 的且拘束力ナ

付

記二

Ē

1衆国及 本国 |間協定ノ基

合

第一項 政

い策ニ関

スル相互宣言

案

+

ル

国家主義撤廃

ノ原則

国際的経済協力及過度ノ通商制限

ニ現ハ

 \mathcal{V}

9

ル

極端

策ハ太平洋地域全般ニ亘ル永続的且広汎ナル平和ヲ目 シ両国ハ右地域ニ於テ何等領土的企図ヲ有セス他国ヲ シ又ハ隣接国ニ対シ侵略的ニ武力ヲ行使スル

合

衆国政府及日

口本国政府

ハ共ニ太平洋ノ平和ヲ欲シ其

用ニ関スル両国見解ノ相違ヲ解決スル為メ更ニ努力セラル 的ニ寄与シ得サルヘシト信シ且既述ノ基本原則ノ実際的適 平洋地域ニ於ケル法秩序及正義ニ基ケル平和確保ノ究極目 若干ノ点ヲ包含シ居レリ合衆国政府ハ斯ル提案ノ採択ハ太 成 へキ旨示唆スルモノナリ シ且各政府カ遵奉スル旨言明シタル基本原則ト矛盾スル

証トシテ太平洋全地域ニ亘ル広汎乍ラ簡単ナル解決ノー 立案セラルヘキモノト予見スル 右目的ニ鑑ミ合衆国政府ハ同国 にプログラム」 政 |今後ノ ノ実際的例 、会談ノ 案

国案及九月二十五日付日本案ノ懸隔ヲ調整セントノ ヲ更メテ審議スルコトニ依リ一九四一年六月二十一日付米 ヲ提出シ日本国政府ノ考慮ニ供スルモノナリ 1 示スモノナリ、 右ニ示唆セル案ハ包括的ナル太平洋解決ノ基礎的主要問題 本案ハ吾人ノ会談ニ於テ良好ナル国際関係 / 努力ヲ

タル

モノ

ト了解セラル

十一月二十日

日本国大使ニ依リ

提出セラレ

タル

、提案ハ

本

政

進シ得 ル

ヘキモ

ス

コトニヨリ

É

米両国政府間 期待

ノ意見ノ

合致ニ導ク進

展ヲ促

為メ凡有

ル機会ヲ供与セン

コトヲ最モ真 日本国政府ト

兵摯ニ希望シ居ルモ∽ノ会談ヲ継続スル

t

í)

グラム」立案ヲ目的

トスル

ニ寄与シ且太平洋地域全般

ノ平和ニ関スル広汎ナル

ア

口持

合衆国政府ハ太平洋地域ニ於ケル平和及安定ノ促進及維

ヲ通告セラレタル処右措置ハ前記諸目的達成ヲ企

衆国政府ニ依

一月二十日日本国大使ハ国務長官ニ対シ日本国政

リ夫々採択セラルヘキ暫定措置ニ

関スル

(府及合

 $\overline{\mathbb{X}}$

セラ 提案

Ĺ

ラレ

・タリ

談

(ノ妥結ニ好都合ナル雰囲気ノ

醸成ヲ助長

スヘキ旨陳 ルニ於テハ同会

述

セ

続中有効ナル

へキ暫定的取極カ合意セラル

旨及ヒ若シ太平洋ニ於ケル平和的解決ヲ目的トスル会談継

ル包括的且平和的解決ヲ目的トスル会談ノ継続ヲ希望スル ラル最近日本国大使ハ日本国政府ニ於テ太平洋地域ニ於ケ

和 199

日

本国、

198

ヲ

府ノ見解ニ依レハ目下考慮セラレ居 ル 一般的解決ノー部

1 実際的適用ニ関スル諸規定ヲ含ムモノナリ吾人 唯一且健全ナル基礎ヲ為スモノト意見一致セル基本原則 ハ斯クス

八 「ハル・ノート」受領から開戦

(三) (二) (一)

(四)

紛争

)

防止及平

和的解決並ニ平和的方法及手続ニ依

通商上ノ機会及待遇ノ平等ヲ含ム平等原

!ノ諸国ノ国内問題ニ対スル不干与ノ

/ 原則

合衆国政

府及日本国政

府

ハ左ノ如キ措

置ヲ採ル

コトヲ提案

鴚

ス

合衆国政府及日本国政府ハ英帝国、支那、

N

国際情勢改善ノ

為国際協力及国際調停遵拠ノ

「原則

蘭

蘇

連邦、

泰国及合衆国間多辺的不可侵条約

1

締結

用

ス

へキ旨闡明ス

一切ノ国家ノ領土保全及主権ノ不可侵原則

礎タル左記根本諸原則ヲ積

版極的

三支持

シ且之ヲ実際

1

間

其国策ニ於テハ相互間及一切ノ他国政府ト

ス

右討議ニ於テ太平洋全地域ニ亘ル平和的 キー般的諸原則ニ関シテハ若干ノ進展ヲ見タル

|解決

ノ基礎タ

ÍV

 \sim

モノ

ト信

も

Ξ
努
ム
\sim
シ

_ 保全ニ対スル脅威発生スルカ如キ場合斯ル脅威ニ対 両国政府ハ米、 \mathcal{L} スルニ必要且適当ナリト看做サルヘキ措置ヲ講 カ 目的ヲ以テ即時協議スル旨誓約スヘキ協定ノ締結 ヘシ 仏領印度支那ノ領土主権ヲ尊重シ且印度支那ノ 英 支、 Н 蘭及泰政府間ニ各国 ドスル 領 政 ニ努 1 処 £ 府

通 ケサルヘク且各締約国ノ為メ仏領印度支那トノ貿易及 貿易若ハ経済関係ニ於テ特恵的待遇ヲ求メ又ハ之ヲ受 斯 規定スヘキモノトス |商ニ於ケル平等待遇ヲ確保スルカ為メ尽力スへキ旨 ル協定ハ又協定締約国タル各国政府カ印度支那ト 1

- Ξ 日本国政府ハ支那及印度支那 兵力及警察力ヲ撤収スヘシ E ŋ ------切ノ 陸 海 空 蟗
- 四 ク 合 中 ハ 華民国国民政府以外ノ支那ニ於ケル 衆国政府及日本国政府ハ臨時ニ首都 政権ヲモ 軍 事的、 政治的、 経済的ニ支持 ラ重慶ニ置 如何ナル政府若 パセサ ーケル ル \sim
- 五 両国政府 ニ 外 国租界及居留地内及之ニ関連セ ñ 諸権益

並 ム支那ニ在ル 三一九〇一年ノ 切ノ 団匪事件議定書ニ依 治外法権ヲ抛棄スヘシ N 諸 権利ヲモ 含

意ヲ取付クヘク努力スヘシ ○一年ノ団匪事件議定書ニヨル諸権利ヲ含ム支那ニ於 両国政府ハ外国租界及居留地ニ於ケル諸権利並ニー九 ケル治外法権抛棄方ニ付英国政府及其他ノ諸政府 1 同

- 六 協議ヲ開始スヘシ 側企図ニ基キ合衆国及日本国 壁ノ低減並ニ生糸ヲ自由品目トシテ据置カントスル米 合衆国政府及日本国政府ハ互恵的最恵国待遇及通商障 間 ニ通商協定締結 ノ為メ
- ť 2 及日本国ニ在ル米国資金ニ 合衆国政府及日 日本国政府ハ 対 夫 パスル マ · 合衆国 凍結措置ヲ | 三 在 ル 撤 日 「廃スへ 本資金
- 八 ヲ合衆国ヨリ供給セラル 両国政府ハ円弗為替ノ安定ニ関 的ノ為メ適当ナル資金ノ割当 ヘキコトニ同意スヘシ ハ半額ヲ日本国ヨリ スル案ニ付協定シ右目 半額
- 九 何ナル協定モ同国ニ依リ本協定ノ根本目的即チ太平洋 両国政府ハ其ノ何 地域全般 ノ平和確立及保持ニ矛盾スル レカノ一方カ第三国 カ如ク解釈セラ ト締結シ居 N 如

V サル ヘキコトヲ同意スヘ シ

415

昭

和16年11

月 27 日

東在

御外務

お大臣宛()

電り

報

- 0 両国 2 ル 政 ム 谷的、 N 政府ハ他国政府ヲシテ本協定ニ規定セル基本的 為メ其ノ勢力ヲ行使スヘ 経済的 原則ヲ遵守シ且之ヲ実際的ニ適用 シ + セ
- 414 昭 和 16 年 11 月 27 H 東在 和米国 務野 大村 臣大 宛使 よ (電り 報

米国大統領と軍部首脳との秘密会談につい τ

ワシントン 本 省 11 月 28 11月27日後発 Η 前着

長官ノ外陸海軍長官「スターク」海軍作戦部長及「マーシャ 新聞報道ニ依レ 二 一 九 五号 ハ大統領ハ二十五日正午白亜館ニ「 ハ ル

第*

416 能性について 電り 報

の

米国による蘭印保護進駐の可

昭 和 16 年 11 月 27 Η 東在 郷米 外国 務野 35村臣大 宛使

ノ予定 二十七日午後五時半本使来栖大使ト

第一一九 六号 (極秘、 館長符号) 共ニ大統領ニ公然会見

本 省 11 11 月 28 27 日 前 着 発

米国大統領との 会見予定について ワシントン

主題ニ含

7

レタルモノト見做サレ恰モ右カ日米交渉

1

経

调

第

一二〇四号

極

秘

館長符号

貴電第八四二号ニ関

シ

何等

カ

、関係ア

N

力

如

シャンション

 ν

居

 \mathcal{V}

1)

9

ル蘭ト

モ協議中ナル折柄本月二十四日

「ホワイ

 \mathbf{F}

ハ

ウ

協議内容ニ付テハ一切発表ヲ避ケ居ルモ極東問題カ討議

ル」陸軍参謀総長ヲ招致シ何事カ極秘裡ニ協議セル

白ニテ

ワシ

 $\boldsymbol{\mathcal{V}}$

ŀ

 $\boldsymbol{\Sigma}$

本

省

11 11 月 28 27 日 後

着 発

1

米側ニ於テハ予テヨリノ主張並ニ我方ノ要求ニ依リ関係国

	ミュノ 言名利义 ごぞんご インノン・シー オン夏コ	4.ラ数2.7月に方に下て、孔戸戸社ど馬に化す 多一回、ど
20	トレテハ当然重マノ留呆ヲ寸スレコトトナリ右カ更ニ呉遅	以来数ケ月間ニペテヨ本ノム印有邪進注ニ衣)第一可ノ令
)3	ノ経済状態ニ急激ナル変革ヲ与フルコトヲ考慮スル時日本	到レルニ対シ大ナル失望ヲ感セサルヲ得ス然シ本会談開始
	本側ハ主義トシテ異存ナキモ之ヲ直ニ支那ニ適用シテ現実	セシムヘシト言ヒタルニ対シ大統領ハ実ハ自分モ事態茲ニ
	挙クレハ米側カ通商無差別ノ原則ヲ主張セラルルニ対シ日	スト述ヘタリ本使ヨリ今回ノ御提案ハ日本政府ヲ痛ク失望
	ラスシテ之カ実際的通用ニ関スル問題ナリ簡単ナル一例ヲ	猶日米関係カ平和的妥結ニ達スルコトニ付大ナル希望ヲ有
	リ観ルニ日米両国ノ意見ノ相違ハ根本的主義ノ問題ニハア	本トノ平和的関係維持ヲ希望シ居ルコト明カナリ自分ハ今
	タル次第ナリト述へタルヲ以テ来栖ヨリ従来ノ交渉経過ヨ	タルヲ承知シ欣快ニ感シ居タリ又米国民大多数ノ意向モ日
	方ノ根本的方針一致シ且何ヲ協定スヘキヤ予メ判明シ居リ	以来日本側ニ於テモ平和ヲ愛好スル人々ノ種々尽力セラレ
	ル如ク思ハルト述へ「チャーチル」トノ洋上会見ノ如キ双	シ日米共ニ種々経験シタル所ナリト述へタル上本会談開始
	本的主義方針カー致セサレハー時的解決モ結局無効ニ帰ス	タルカ当時独逸カ如何ニモ他国ノ心理ヲ把握セサル点ニ関
	ル案モ若シ終局ニ於テ国際関係処理ニ関スル日米両国ノ根	大統領ハ先ツ前回大戦ニハ日米ハ共ニ連合国側ニ立チ居り
	ニシテ一体「モダスビベンジ」ニ依リ現状ヲ打開セントス	会談要領左ノ通り
	辞ヲ聞キ得サリシハ本件交渉ヲ頗ル困難ナラシメタル次第	二十七日本使来栖大使ト共ニ大統領(「ハル」長官列席)ト
	官ト貴大使等トノ会談中日本ノ指導者側ヨリ何等平和的言	第一二〇六号(極秘、館長符号)
	テ律シ得サルコトハ充分了解シ得ルモサリトテ「ハル」長	本 省 11月28日後着
	カ四年間ノ戦争ニ依リ一般民心カ平和ナル米国ノ現状ヲ以	ワシントン 11月27日後発
	進駐ヲ意味セルカ如シ)(往電第一二〇五号参照)更ニ日本	米国大統領との会見要旨報告
	ル懸念モアルヤニ考ヘラルト述へ(右ハ仏印ヘノ増兵ト泰	41 时汞141月2日 東郷外務大臣宛(電報)
	水ヲ浴セラレ最近モ情報ニ依レハ第二回ノ冷水ヲ浴セラル	召口6年1月7日 在米国野村大使よ

言及セル 来等ノ 議セル 進駐ノ如ク蘭 行フヲ得サルヲ以テ米国陸軍ヲ以テ同地ノ「アルミニュー ヲ主 入 シテ之カ保護進駐ノ手段ニ出 ニ伴フ情勢如何ニ依リテハ英米カ前記米伯ノ蘭領「ギアナ」 蘭国外相カ蘭印訪問 伯剌西爾モ之ニ参加セル次第ヲ明カニシ居ルニ鑑ミ又曩ニ ム」鉱山ヲ保護スルモノニシテ同時ニ蘭政府ノ招請ニ スヘキ筈ナル 駐ハ米国国防資源トシテ必要ナル アナ」保護進 ス」発表ノ如ク米国 レ置 王眼トシ而 / 事実並 ク 以来米ノ対蘭印軍需品 シ要ア モ 右ノ趣旨ニ他ナラス 記ヨッ断 印ニ於ケル護 モ西南太平洋ニ於ケル現在ノ情勢ノ下ニ之ヲ ニ蘭印ノ歴史ニモ徴シ日米交渉ノ決裂ノ結果 モ平常時ナラハ蘭国政府カ蘭印ノ兵力ヲ派遣 ル 次第ニシテ往電第 行シタルカ右発表 「ハ在英国ノ蘭政府 ノ途次当地ニ立寄リ米国政府当局ト協 〔謨、 マル ノ供給及技師ノ米蘭印間ノ往 錫等ノ コト 「アル 一一八〇号ニ此 国防資源確保ヲ名ト アリ得ヘキヲ考慮ニ 二明記 ł シミニュ -協定ノ セ Ŀ 1 N -ム」確保 如ク同 一蘭領 1 点ニ 依リ 「ギ 進

第一二〇五号 日本軍ノ 行 ス ヤト看ラレ居ル旨ノ公報入リ居ル 其 日来仏印内ニ多量ノ武器ト共 二十七日当地夕刊各紙 ハ二十六日付米政府ノ対日覚書ニ対スル日本ノ拒否ヲ予示 (ノ総数七万ニ上ル見込ナルカ右大軍ノ移 動カ来栖大使ノ遣米ニ拘ハラス日本側当初ヨリノ ルモノト信セラレ居ル旨ヲ第一面ニ特報シ中ニハ右軍事 「タイ」侵入ハ近々数日中ニ決行 (大至急 い官辺 ニ大軍ヲ集中 Э 本 ワシントン ij コト並ニ右日 1 新聞報道について 、情報ト 省 11 11 月 28 27 日後着 セラルル 動状況 ・シテ ÷ 本軍 P Э 本

千カ茲数 ij. 既ニ

ナノ行動 ニ非ス ニリ見テ

1] 原 ナリシナラント

信

セラレ居ル旨並右カ米側

対日

硬 化

ノ重大 真意図

因ナ

'n

如ク

付

言シ居ル

モ 1 アリ

·各方面

Ż

注目ヲ惹キ居

 \mathcal{V}

八 「ハル・ノート」受領から開戦

202

417

昭和16年11

月 27 日

東在 郷米 外国

務大臣大臣大

H宛(電報) 入使より

日本の

9

イ 侵

入説に関する

ラ方法 猶右 統領ノ ル 本使ヨリ 問題等ニ於テ之ト同様ノ種々ナル経験ヲ有スル 問題トシテ甚タ困難ナル セラルルコトヲ必要トスト言ヘルヲ以テ斯カル 主問題ニ関スルモノナリト述へ置キタリ更ニ本使等ヨリ H 題ノ解決ハ極メテ困難ナル 第三国人トノ関係ニ於テ種々ナル問題ヲ惹起シオル 五万人ノ商人入り込ミ各種ノ営業ヲ為シ居リ **|本側ノ主張ハ斯カル些々タル問題ニハアラスシテ大ナル** バ 原 カ斯カル 聞ク所ニ依 因 ノ考ヘヲ棄テ居ラス但シ右ハ日支双方ヨリ同 ル」ヨリ御趣旨ハ度々ノ御説明ニテ了解シ居ルモ自分 ハアル 「紹介」云々ニ言及セルニ対シ大統領ヨリ自分ハ今 \mathbf{F} 今回ノ御提案ニ付テ ナリ 人 V ヘシト答 マノ利益ヲモ問題ト シュトアリ ハ現在支那ニハ日本軍隊ニ随伴シテ約二十 ニタリ ヘシト述ヘタル ヘシト言ヒタルヲ以テ来 モ考ヘラルト述ヘタ -セラル 二彼 ル御趣旨ナラハ問 ,此等ノ ハ自分ハ内政 カ其 コトハ 実際 同時ニ希望 ル ル模様ナ 二対 X 栖 1 訚 、マカ Э 自 大 IJ シ

打開 有シオ セサ ルモ自分トシテハ三十年来ノ交誼 途カ見出サ N 貴大統領ノ Ĺ ンコト 「ステーツマンシップ」ニ依り何等カ ヲ希望シ居ル旨述へタル ハ東京ヨリ未夕何等訓 ニ依リ多大ノ尊敬ヲ 令 二対 -ニ 接 5

> 力 機会ヲ得度キ希望ナルカ其ノ間若シ何等局面 内問題及来栖大使ノ来米ニ依リ今日迄延期シオリタル 金曜日午後出発田舎ニ赴キ静養(過労ノ如ク見受ケタリ) 大統領ハ実ハ先週末静養旅行ニ赴ク筈ナリシモ緊急ナ ノ上来週水曜日帰華スルヲ以テ其ノ上ニテ貴使等ト面接ノ 如キ事態ノ発生ヲ見ハ結構ナリ ト述ヘタ í). 打開 ニ資 モ明 ス ル国 ル

> > 204

ナ 序 論議シオルニ対シ日本側首相外相其他ノ要人ヨリ之カ促進 於テモ申上ケタル通リ折角我々カ日米問題ノ平 米国ニ石油ノ供給ヲ求メラルルニ対シ日本ノ希望ニ応スル ヲ仏印ニ増駐シ ニ終リ ヲ容易ナラシムル ハ到底米国民衆ヲ承服セシメ得ル所ニアラス前回ノ会談ニ ニ片手ニハ三国同盟条約他ノ片手ニハ防共協定ヲ提ケツツ 尚会談途中ニテ「ハル」ヨリ ij. 建設ヲ主張セラル 操返 タル理由ニ言及シ前記大統領ノ説明ノ外日本カ大兵 シ述 \sim (不明)国ノ兵力ヲ同方面ニ牽制 居 カ如キ言辞 ルカ 9 1) 如 「キ言論 ナク却ッテカニ依 「モダスビベンジ」 1 ミアリ Z ル ル所謂新秩 和的解決ヲ ハ 頗ル カ 不 シ乍ラ更 遺 成 憾 功

419 昭 和 16 年 11 月 28 日 各在外公館長宛 n (電報

蘭及支等ノ関係国トモ協議ヲ行ヒ右ヲ審議

セ

N

模様ナ

ル

E |米交渉の近況につき通報

合第二四 二 四号 (大至急、 本 館長符号 省 11 月 28日 前 2 時 50 分

日米交渉近況

態度 十七日 回避スル ハ 府ノ平和 ル 臣ヨリ米英大使ニ対シ急速解決ノ要アル旨力説シツツア 大統領及「ハ」長官ト 9 処米側 事態ヲ緩和シ以テ目 サ 節 、ル新提案ヲ提出シ交渉ハ 『ニ対シ従来ノ我方案ニ新内閣成立後多少ノ修正 野村大使 デ 問 ル所甚シキニ依 依然理論的原則論ニ捉ハレ逐日急迫スル事態ニ副 題ニ付テモ予メ我方ノ約諾ヲ取付ケントスル等其 ヨリ参加セリ) 為 的意図ニ関スル確言ヲ求ムルト共ニ其ノ他ノ原 17.右案ニ対スル諾否ヲ明ニスルニ先立チ帝国政 Ż ハ 我方最終案ヲ提示シ \sim ル リ我方ハ二十日更ニ南西太平洋方面 国 オル 野 睫ニ迫リツツアル太平洋ノ 村大使間ニ行ハレ(来栖大使モ 務長官及 本月初旬以来華府ニ於テ「ル」 ノミナラス東京ニ於テモ本大 $\overline{\mathcal{N}}$ 其後米国側 1 ズベ ル バ F ^ 危機ヲ 英、 ラ加 」 大統 豪 \sim

> 満大、 英、米、 米ヨリ北米各公館長(含 420 香港ヨリ新喜坡、 本電宛先 へ転電アリ度 -, 合局面 テ二十日ノ我方最終案ヲ受諾スル見込極メテ少ク然 カ近ク何等ノ回答アル手筈トナリ居レリ 然レトモ今日迄ノ米側態度等ニ鑑ミ米側 昭 南京、 和 河 レノ収拾ハ ハ 16 内 ル 年 上海、 11 . 泰、 1 月 「マニラ」へ 頗 1 28 蘇、 香港 Η ル ۲ 困難 独 在東 ーホ に対する措置につき訓 七 米 郷 国外 F 伊、 1 電 ÷ ル 野務 報アリ N 「バタビヤ」、 村大 N 次第ナリ 大使より \subseteq 度 加 (電報 墨 カ此際猛省 豪州、 숚 伯

智

亜

北大、

ル場

シ

205

貴電第一一八九号等接受両大使段々ノ御努力ニモ拘ラス米

本

省

11 月 28 日

発

側カ今次ノ

如キ理不尽ナル対案ヲ提示セル

ハ頗

ル意外且遺

第八四四号

/

充分御 省カ昨二十六日ノ会談ニ付テハ自ラ進ンテ発表ヲ行ヒ各新 当地ニ於ケル日米会談ニ関シ従来沈黙ヲ守ル癖アリ 往電第一一九〇号ニ関 キ手段ニ出テ来ル可能性少ナカラスト観測 第一二〇四号申進メノ如ク防衛ヲ理由トスル蘭印進 シムル 平和 三日 シタルニ拘ラス米国側ハ之ニ対応セス交渉成立ヲ至難ナラ 従来帝国カ公正ナル主張ヲ為シタルコト特ニ帝国カ太平洋 「米国 合第二四 当ニアラスト 示ノ方面トモ連絡セルモ何レモ右ハ此ノ際ノ措置 尚右ノ如キ次第ナル シテ政府ノ意向ヲ詳カニセサル貴使限リノ意見ナリトシテ トヲ避ケルコトトシ度キニ付貴方ニ於テハ目下猶請訓 ナキ情勢ナルカ先方ニ対シテハ交渉決裂ノ印象ヲ与フル 「ハ之ニ応シ『「ハル」日本側ニ「ピースプラン」ヲ手交ス』 ス ノ共同防衛強化ノ方策ニ出テ其ノ一部トシテ例へハ往 一二 四号 ハス従ツテ今次交渉ハ右米案ニ対スル帝国政府見解 昭 昭 ノ為ニ屢々難キヲ忍ヒ犠牲ヲ敢テシテ協調的態度ヲ示 中ニ追電スヘシ)申入ヲ以テ実質的ニハ打切トス 研 和 ハ第二ノ「ミュンヘン」会議案ヲ斥ク』等ノ見出シ σ 米国側による 和 コトヲ御説明アリ度シ 16 年 11 第究ノコ 反響につい 16 一六号 ハ 年 11 ル ノ意向 (極秘、 ٠ 湏 \mathbf{F} 頁 1 (館長符号) 28 ŀ 1 28存スル テル τ -Η ニ付貴電第一一八〇号御稟申 本 ト Η V 館長符号) ハ ル 東在 に関し通 ニ付右御了承アリ 各東 っ大使宛(電気の外務大臣・ 郷米国 モ事 ٠ ワシント 本 1 省 務野 F態ノ Т 7村臣灾使 ŀ 報 11 月 28 日 重要性ニ鑑ミ 報よ 公表および 省 ン 、 (電 報 11 11 セラル右ハ既 度 後8時30分発 11月29日後着 1月28日後発 シ 、重ネテ Ŧ \overline{F} 1 仲御 シ国務 駐 シ 既ノニー 中二 、ル他 テ) (両 躗 電 適 来 コ 書キ振り 第五一〇号(極秘、 戦争カ平和カ何レヲ選フヤモ一ニ懸ツテ日本側ニ存リ ヲ強調シ米国側提案ヲ受入ル 行動ニ出スへキ旨予告シ居ル経緯並ニ最近当方面 於テ米側ハ我方カ仏印以外ニ進出シ来ル場合ニハ直ニ適当 観測或ハ存スヘキモ八月十七日付大統領ノ 第 422 立場ヲ無視セルモノナリ 日米交渉ニ関シニ十七日米側 貴電第八二八号ニ関 424 ニモ鑑ミ仮令英米側カ泰国ニ於テ軍事措置ヲ以テ対抗 コ ル行動ニ出テ来ルヘキヤハ帝国トシテ最モ戒心ヲ要スヘキ 皇軍ノ泰国進駐 ト勿論ニシテ右ハ直ニ英兵トノ正面衝突ヲ意味セストノ 7 Ξ スルモ米国ト 明シタルコトアルモ他方我方ヨリ米国ハ日支両国ノ和平 有セス単ニ日支間ノ橋渡シヲ為サントスル 支和平問題ニ付テハ米側ハ干渉又ハ調停ニ出スル 一二〇九号 ニ付何等態度ヲ変更セルコトナシ尚最近ノ交渉ニ於テ日 要求 関ス 日米交渉中支那問題ニ関スル 昭和 セル九項目ニ関スルモノナル 昭 可能性について 和 中国問題に関する 16 年 11 ル努力ニ支障ヲ与フルカ如キ行動ニ出テサル ナルコト 16 (之ニ依リ我方ハ米国ヲシテ援蔣行為ヲ停止 10 年 11 (極 月 シテハ関係国ヲ糾合援助シテ南西太平洋地 ノ場合米ヲ始メ英、 月 28 秘、 29 ハ注意ヲ要スル点ナリ 館長符号扱 Η 日 2 館長符号) Ø 場合米国による 東在 交渉状況汪主席に内報方訓 在東 **郷米** 外国 中郷 国外 ルヤ否ヤハ日 本 省 ワシントン |日高代理大使宛| 務野 <u></u> 大村 臣 大 使 カ我方ニ於テハ 部分ハ汪主席ニモ 11月29日前0 豪、 省 ((電り 蘭、 蘭印進 為念 11 11 月 29 28 日前着 本ノ勝手ナル 「オーラル」ニ 報 支等カ 如キ意向ヲ表 (電 駐 時50分発 ロノ新聞報 右九 の 報 如 意思ヲ 極 令 セス 項目 何 セシ コト 秘 ŀ ナ 内 1 カ

能 憾ト

スル所ニシテ我方トシテハ到底右ヲ交渉ノ基礎

ŀ

スル

very urgent

1

提示シ来レル対案ハ帝国

1

206

報

域

421

423

「ハル・ノート」受領から開戦 八

聞

7

(以テ

バ

ル

Ĺ

ノ四原則等抽象的ニハ何人ニモ確カナル

点

×

以テ東亜ノ

和平促進ヲ企図セル

次第ナリ)

シ

ž

N

二対

八 「ハル・ノート」受領から開戦

六、伊ニ対シテハ在独大使ヨリ独側ニ申入ヲ為シタル直後

レ度

関係処理ニ関スル其ノ伝統的理念即チ過般ノ英米洋上会	論ノ儀ニシテ右ニ付テハ独伊側ニモ特ニ厳重注意シ置カ
交渉ノ経緯ニ徴スレハ根本ノ難関ハ寧ロ米側ニ於テ国際	五、本件ハ作戦上ノ関係モアリ絶対機密ヲ要スルコトハ勿
ヲ要望ス)等ニ関スル彼我見解ノ対立モアリタルモ従来	ルコトハ差控へ度キ意向ナル旨説明セラレタシ
渉ノ主タル難点中ニハ撤兵問題(支那及仏印ヨリノ撤兵	点ヲ置キ北方ニ対シテ我方ヨリ進ンテ積極的行動ニ出ツ
擁護シツツ公正ナル基礎ニ於テ従来交渉ヲ継続セル処交	ハ断固之ヲ排撃スルノ用意ヲ有スルモ差当リハ南方ニ重
二、従ツテ現内閣ハ既電ノ通リ帝国ノ権威ト存立トヲ厳ニ	合作シテ我方ニ対スル敵対行為ニ出テ来ルカ如キ場合ニ
所期ノ目的タル米国ノ参戦牽制ニ努メタル次第ナリ	制ノ措置ヲ緩和スルカ如キコトナキハ勿論蘇側カ英米ト
於テ妥結ヲ期シ常ニ毅然タル態度ヲ以テ交渉ニ臨ミ条約	ニ申入ノ通リニシテ今次我方ノ対南方行動ニ依リ対蘇牽
国条約ヲ堅持シ日米国交調整モ厳密ニ同条約ノ範囲内ニ	シ質問アリタル際ニ於テハ我方ノ対蘇態度ハ嚮ニ独伊側
ルカ其ノ間帝国政府ハ終始一貫我国策不動ノ基調タル三	四、右申入ノ際独伊側ヨリ蘇連邦ニ対スル我方ノ態度ニ関
一、日米交渉ハ四月中旬ヨリ開始シ半歳有余ニ亘リ継続セ	是亦御尽力相成度
第九八六号(大至急、極秘、館長符号)	ルヘシト思考セラルルニ付右ニ付テモ急速成立ヲ見ル様
本 省 11月30日後3時30分発	従来明言セル戦争完遂ノ建前ヨリ云フモ歓迎スへキ所ナ
(別 電)	クコト諸般ノ考慮ヨリ適当ト認ムル処右ハ独伊トシテモ間及日伊間ニ別々ニ(独伊間ニハ既ニ存在ス)締結シ置
ルコトト致シ度	シテハ此ノ際単独不講和ニ関スル協定ヲ日
ニ於テ「ムッソリーニ」首相及「チ」外相ニ申入レラル	アリ)
外同趣旨ヲ敷衍セル在京独大使来翰ノ一項及貴電ノ次第	第九八五号
リ日米戦争ノ場合ニ関シテハ条約	本 省 11月30日 発
4年ノ場合ニ関シテハ客年三国条約	について
最善ノ努力ヲ払ハレタシ	大使宛第九八六号
ノナルニ付独伊側カ我方期待ニ背カサル様取運ヒ方ニ付	別 電 一一月三〇日付東郷外務大臣より在独国大島
条約ノ関係ヨリモ独伊ノ即時対米戦争参加ヲ期待スルモ	国側へ内報方訓令
二、帝国ト英米トノ間ニ戦争発生ノ場合帝国トシテハ三国	日米交渉決裂の場合の三国同盟発動につき独
ルヤモ	42、昭和16年11月30日(東海ケ務ノ目より)
時期ハ	夏邓卜安大豆こ
トノ間ニ戦争状態ノ発生ヲ見ルニ至ルノ虞レ極メ虞テ大	
シメラレ勢ヒノ赴ク所逐ニ武力衝突ヲ来シ我ト英米両国	御申入相成度
続シ居ルニ対抗シ我方トシテモ兵力ノ出動ヲ余儀ナクセ	後事態カ如何様ニ展開スルトモ我方ニ信頼協力スへキ様
国カ挑発的態度ニ出テ其ノ兵力カ東亜ノ各地ニ出動ヲ継	三、以上絶対極秘汪主席限リノ含迄ニ貴官ヨリ内報ノ上今
会セラレ右経過ノ要点ヲ内報セラルルト共ニ最近英米両	意ヲ打診シタルモノナルヤニ認メラル
ッペン」外相	ノ内容カ英、豪、蘭ト共ニ重慶ニモ関係アル為之等ノ内
態ニ直面シ重大ナル決意ヲ必要トスルニ至レリ就テハ貴	二、胡適カ二十二日「ハル」長官ト会見シタルハ日米交渉
リタル処(交渉経緯要点別電ノ通リ)帝国トシテハ右事	解決見込立タス旁日米交渉成立モ困難ナル実状ナリ
政府ノ誠意アル努力ニ不拘逐ニ決裂必至ノ事態ニ立チ至	橋渡シノ点トハ全然矛盾スル態度ヲ示シ為ニ和平問題モ
一、本年四月前前内閣当時開始セラレタル日米交渉ハ帝国	シテハ米側ハ援蔣行為ノ中止ニハ強キ反対ヲ表明シ前記

要スルニ米側ノ真意ハ日独伊ノ欧亜ニ於ケル新秩序建設 談ニ表ハレタルト同様ノ原則的理念ヲ固執セル点ニ在リ 的理念即チ過般ノ英米洋上会 見解ノ対立モアリタルモ従来 問題(支那及仏印ヨリノ撤兵 ノ難関ハ寧ロ米側ニ於テ国際 **於テ従来交渉ヲ継続セル処交** リ帝国ノ権威ト存立トヲ厳ニ 牽制ニ努メタル次第ナリ

209

	コトナキ様御配慮アリ度シ)
(邦文、英文)至急御送付相成度ニはスペキ恨アハニイロ系領土西本瓦ノーサニテキスー	執行ニ際シテハ右申入ニ依リ交渉ヲ直ニ決裂ニ導クカ如キメ国政府ニオシジ甚ナル反省ラオムルモンサリ(尚オ副イ
ニ共スハキ具アレニ寸可渋卸手記目戊レト共ニ「テキスト 子定ナル旨発表シ居り右演説ハ米国側ニ放ラ林当宣位ノ具	牧守ニ村~深善ナ レマ省ヲ ドムレモノト)目的 刑辺 ニ 在リタルヤヲ 疑ハシムルモノア
ヽ ヒ国川	り阝1:E17~7. E、~ハ七ヶ月ニ亘ル交渉ニ於テ米
グ」ニ休養中ノ大統領ニ対シ電話報告セル処大統領ハ急遽	理解ニ苦シム所ナリ殊ニ支那問題ニ付其ノ態度ヲ豹変セル
相ノ演説ニ付テハ「ハル」長官ハ直ニ「ワーム・スプリン	「威ニ関スル点少ナカラサル新提案ヲ為シタルハ帝国政府ノ
居レリー方新聞報ニ依レハ白亜館「セクレタリ」ハ東条首	礎トシ難シト為シ二十六日ノ東亜ノ現実ヲ無視シ帝国ノ権
be purged with vengeanceナル文句ヲ特ニ大キク取扱ヒ	張ヲ充分考慮ノ上作成セル二十日ノ我方新提案ヲ審議ノ基
シ居ル処右ノ内英米人ノ亜細亜民族 exploitation ハ must	米国政府カ我方ニ於テ公正ナル立場ニ立脚シ従来ノ彼我主
東条総理ノ演説ハ三十日ノ各紙何レモ大見出シヲ以テ掲載	今一応左記ノ趣旨ヲロ頭ヲ以テ御申入相成度不取敢
第一二二号(大至急、館長符号扱)	往電第八四四号ニ関シ
本 省 12月1日後着	第八五七号
記 一一月三〇日「東条首相演説」	
「東条首相演説」に対する米国側の反応について	「ハル・ノート」に関し米国側の反省申入れ方
428 昭和16年11月30日 東郷外務大臣宛(電報)	42 昭和16年11月30日 東郷外務大臣より
	今ヤ右諸国ト共ニ帝国ヲ独伊ト共ニ敵視スルモノナルコ
	蘭(支)等諸国ト協議ヲ重ネタル事実アリ従ツテ米国ハ
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	ト認メタリ尚米国政府ハ本案提示ニ先立チ頻リニ英、豪、
絡スル様手筈ヲシ置ク旨答ヘタリ	項ノミヲ見ルモ米側提案ハ交渉ノ基礎トスルコト能ハス
席ハ右内報ヲ謝シ緊急ノ御用アル際ハ何時ニテモ貴官ト連	ツルモノナルコト明瞭ニシテ他ノ諸問題ハ兎ニ角トシ本
ル旨ヲ仄メカシ今後共充分連絡ヲ計ルヘキ旨付言セル処主	場合帝国ヲシテ独伊援助ヲ差控ヘシメントスル企図ニ出
トシテハ和戦両様ノ準備ヲ固メツツアリトテ局面切迫シ居	約義務解釈ヲ拘束シ以テ米国カ不日欧州戦争ニ参入スル
共ニ本使ノ私見トシテ日米交渉成立ノ見込最早乏シク吾人	レサルヘキコトニ同意ス」云々トアリ右ハ帝国ノ三国条
三十日汪主席ト会見シ冒頭貴電ノ次第ヲ不取敢内報スルト	的即チ太平洋全域ノ平和確保ニ矛盾スルカ如ク解釈セラ
貴電第五一〇号ニ関シ	方カ第三国ト締結シ居ル如何ナル協定モ本協定ノ根本目
第八四六号(館長符号扱)	カニセルモノニシテ三国条約ニ関シテハ「両国政府ノー
本 省 11月30日夜着	三、二十六日米国政府ノ提示セル対案ハ前記態度ヲ更ニ明
南 京 11月30日後発	無益ナリト認メサルヲ得サルニ至レリ
いて	ルヲ以テ帝国ハ事茲ニ至リテハ此ノ上ノ交渉継続ハ殆ト
日米交渉の進捗状況につき汪主席に内報につ	
426 昭和16年11月30日 東郷外務大臣宛(電報)	ヲ要求スルカノ態度ヲ示スニ至リタルカ右ハ交渉最後ノナリト罴シ此ノ見れヨリ逐ニハドモ帝国ノ三国条系離断
	^ ト
ト察知セラル	『唐、/艮
・ そ日 こう レ	ノヨカシアは忍方导にノン次スレモ

210

八 「ハル・ノート」受領から開戦

行 記

「東条首相演説

- $\bigcirc$  E ちこれが真諦を世に闡明したものである。 年本月本日、公にされた日満華三国共同宣言は、 喙すべからざる最も厳粛なる事実でなくてはならぬ、 諸条件が然らしむる必然的帰結である、 としく担ふ最も光栄ある宿命であり、何人もがこれに容 に地縁的にあるひは歴史的に文化的に、 一大生命力に渾然融合しつつあることは、 満華三国が大東亜共栄圏の中核として新世界史創造 これこそ血縁的 日満華三国がひ けだし天与 すなは 昨 ňõ
- ○惟ふに日満華三国共同宣言の示す大経綸は、 する、 寧と繁栄とを企図し、これがための新秩序を建設せんと 亜諸国民の共存共栄を図るとともに、進んで全人類の康 ぞれ本然の特質を発揚しつつ、互に協心戮力、以て大東 家が、 の禍中に昏迷し彷徨する全人類を翻然覚醒せしめ、 て申すに及ばぬ、 その歴史的適性とその自然的環境とにより、 雄渾なる大理想を具現せんとするに在ることは改 しかるにこの大理想たる今や大動乱 各人、 それ 各国 全人

か。 である、 炬火を揚げつつ、 が、これまさしく世紀の一大功栄に非ず き千障万難を突いて早くも一年の成果を示すに至った 類明日の進路を照破する不動の指導原理となってゐる わが日満華三国が、何の幸か、かかる大理想の ともに手をとりあらゆる荆棘を切り開 して何であらう  $\mathcal{O}$ 

212

○しかしながら周辺を展望すれば幾多の敵性国家が 依然としてその蠢動を熄めないのである、いないよいよ n る くのごときは由来英米両国の常套手段とするところであ がアジア制覇の野心を逞うせんとするものであって、 亜諸民族をして相喰ましめ、その間隙に乗じ、英米両国 前途有為の青壮年を空しく犬死せしめつつあるは、 いるのである、蔣政権があるひは英米の煽動に左右 において独り彼等のみがその私利私欲を充たさんとして 略の悪夢を追はんとし、 を妨害し、もってあくまで多年これを恣にしたる搾取劫 執拗極りなき術策を弄してわが大東亜共栄圏確立の大業 あるひは共産党の宣伝に躍り、 我等は人類の名誉のために、 十億のわが大東亜諸民族の犠 人類の矜持のために断 猥りに抗戦を叫んで ~今なほ 大東 せら か 牲

じてこれを徹底的に排撃しなければならぬ。

○幸ひ貴国民各位は、日夜、第一線に在って、

直接、共産

党の残忍極まる破壊工作を防遏することにあらゆる苦心

С b こそは、 に深甚なる感謝の念を捧げるとともに、この大理想具現 国共同宣言の大理想完遂の聖戦にたふれたる幾多の英霊 とせられてゐるのである、これこそ、真に日満華三国共 大することによって遍く全人類にこれが恵沢を及ぼさん る地上資源と無尽蔵なる埋蔵資源との開発をより一層増 してゐられるのである、しかもなほ加ふるにその豊沃な に嬉々として安居楽業せしむる解放の黎明を招来せんと ながらのこの呪ふべき鉄鎖を断ち切って、そこに全民族 芟除せんがため、 を重ねられつつ、 同宣言の具体的実践であり、これが実践に挺身する人々 衷心より讃嘆措く能はざるところである。 れ等はここに本日の記念日を迎へるに当り、 とりもなほさず崇高なる人道の戦士として我等 あらゆる努力を傾注せられ、 しかも欧米諸国家の搾取劫略の魔手を 物心両つ 日満華三

429

昭和

16 年 11 月

30

Η

東在 郷米 外国

**戸務大臣宛(三** 野村大使より

( 電 報

米国国務長官との会談申入れについて

「ハル・ノート」受領から開戦

本大会に対する同志としての祝辞とする。 正義の陣営に高く凱歌の挙がる日を切に祈念し、 を鞏靱ならしめ、 この歴史的大業完成のための共同戦線が、愈々その紐帯 注 『東京朝日新聞縮刷版 一日も速かに赫々たる成果を収めて、 昭和十六年
重十二月』より もつ 採録 7

ナル等ノ為未夕時間ノ打合付カサル処時機ヲ失スル惧アル ー」大使ニ至急御申入相成様致度

早速「ハル」ニ会見方申入中ナルモ大統領明朝帰華ノ予定

貴電第八五七号ニ関シ 第一二二四号(大至急、

極秘、

館長符号)

本

省

白後

着

ワシントン

11月30日後 12 月 1

(欄外記入) 午後七時半

Л

転の

決意を一層固うする次第であるが、

われ等はここに

 $\mathcal{O}$ 

ためには、

先人の屍を越えて勇往邁進せんとする不退

シ

ニ付貴方ニ於テモ「グル

於テハ右カ支那ニモ適用セラルルコトニ異議ナキコトト別原則ニ付テハ右原則カ全世界ニ適用セラルルモノナルニ其ノ場合我方ニ於テモ同様ノ言明ヲナスコトトシ、口無差	フレール型の正
米側カ自衛権ノ観念ヲ不当ニ拡大セサルコトヲ言明セシメ十五日第ラ総末シ(二国余糸ニ基ノ百省林毘是ニ作ラノ	ノ四原則ヲ堅持シ之カ適用ヲ強要セムトシ、尚帝国ノ平和四、当承ヨ阜ニなパノタ大ヨ洋ニ族ケノヨ七ノオ変夏
崔男툀ニ寸テレー	四、平田手受ニ农レノト太平羊ニやテレ見犬ノ下変更三、通商上ノ無差別待遇
シ三国条約ニ基ク自衛権ノ解釈、通商無差別原則並ニ支那	二、他国ノ内政不干渉
ノテアリマス。即チ右ノ見地ヨリ当時交渉ノ主要難点タリ	一、一切ノ国家ノ領土保全及主権尊重
試ミ以テ日米衝突回避ニ最後ノ努力ヲ傾ケルコトニ致シタ	関係ノ基礎トシテ
テ能フ限リノ譲	ル交渉ノ状況ヲ極メテ簡単ニ要約致シマスルト米側ハ国際
然シ乍ラ現内閣トシマシテモ公正ナル基礎ニ於ケル日米国	ノ経過ニ付御説明申上ケマスカ其レ以前即チ十月末ニ於ケ
難ナリト認メタノテアリマス。	本日ハ主トシテ十一月五日御前会議以後ニ於ケル日米交渉
右ノ態度ヲ改善セサルニ於テハ、本交渉ノ妥結ハ極メテ困	十二月一日御前会議ニ於ケル外務大臣説明
> 主張シ居ルコトニ起因スルモノテ、	
ニ固執シ、東亜ノ実情ヲ顧ミス之ヲ其ノ儘支那其他ニ適用	
国際関係処理ニ付其ノ伝統的ニ堅持スル原則的理念ヲ強硬	管大臣及統師部側等ヨリ御説明申上ケマス
斯ノ如ク両国ノ見解対立ヲ来シタル所以ノモノハ、米国カ	尚外交交渉、作戦事項其他ノ事項ニ関シマシテハ、夫々所
第テアツタノテアリマス。	審議ヲ願ヒ度イト存シマス
コトヲ求メ、交渉ハ之カ為メ難関ニ逢著シ遂ニ停頓セル次	ハヌ所テコサイマス、就イテハ別紙本日ノ議題ニ付テ、御
挙国一体一死奉公、国難突破ヲ期スヘキハ私ノ確信シテ疑	ミナラス、更ニ米英蘭支連合ノ下ニ支那ヨリ無条件全面撤
て旺盛	シテ参リマシタカ、米国ハ従来ノ主張ヲ一歩モ譲ラサルノ
ナカラ熟々	傾注シテ、対米国交調整ノ成立ニ
懼ノ至リニ堪エヌ次第テコサイマス	一於キマシテハ
ニ突入致スコトト相成リ、宸襟ヲ悩マシ奉ルコトハ洵ニ恐	十一月五日御前会議決定ニ基キマシテ、陸海軍ニ於テハ作
支那事変モ既ニ四年有余ニ亘リマシタル今日、更ニ大戦争	当リマス
リマス	御許シヲ得タルニ依リマシテ本日ノ議事ノ進行ハ私カ之ニ
米英蘭ニ対シ開戦ノ止ムナキニ立チ至リマシタル次第テア	十二月一日御前会議ニ於ケル総理大臣説明
テハ帝国ハ現下ノ危局ヲ打開シ、自存自衛ヲ完ウスル為メ	
移スルヲ許ササル状態ニ立チ至リマシタ、事茲ニ至リマシ	3
地ヨリスルモ、又作戦上ノ観点ヨリスルモ、到底此ノ儘推	帝国ハ米英蘭ニ対シ開戦ス
的、軍事的圧迫ヲ益々強化シテ参リマシテ、我国力上ノ見	立スルニ至ラス
トカ明カトナリマシタ、一方米英蘭支等ノ諸国ハ其ノ経済	十一月五日決定ノ帝国々策遂行要領ニ基ク対米交渉遂ニ成
テ、外交手段ニ依リテハ到底帝国ノ主張ヲ貫徹シ得サルコ	十二月一日御前会議決定
存立ヲモ危殆ニ陥ラシムル結果ト相成ル次第テアリマシ	御前会議における外務大臣説明
シ支那事変ノ完遂ヲ期シ得サルノミナラス、遂ニハ帝国ノ	付 記一 御前会議における総理大臣説明
マシタ、若シ帝国ニシテ之ニ屈従センカ帝国ノ権威ヲ失墜	開戦に関する御前会議決定
加シ帝国ノー方的譲歩ヲ強要シテ参	<b>430</b> 昭和16年12月1日 御前会議決定
兵、南京政府ノ否認、日独伊三国条約ノ死文化ヲ要求スル	

214

-, 日米両国政 府 ハ 蘭領 印度ニ於テ其ノ必要ト 、スル 物 資

217

洋地域ニ武力的進出ヲ行 日米両国政府ハ 孰レモ コハサルコトヲ確約コートヲ確約コート ) 細 ス 亜及南 太平

トナリマシタノテ、二十日ニ至リ我方ハ従来交渉ノ基礎タ然トシテ三国条約、無差別原則及支那問題ニ在ルコト明カスル必要アリト縷々力説シ、双方論議ヲ尽セルモ難関ハ依リ日米交渉ハ至難ナルヲ以テ、先ツ此ノ根本的困難ヲ除去リト言ヒ、他方「ハル」長官ハ帝国カ獨逸ト提携シ居ル限 除去シ、 然 IJ 斡旋モスル意図ナク単ニ「紹介者」タラント 題ハ先方ヨリノ提案ニ俟ツ趣旨ヲ以テ是又一応我提案 易ニー致セサル ス ŋ ハ テアリマス。然ルニ十七、十八両日ノ会見ニ於テハ大統領 十二日、二十六日 ハ左ノ通リテアリ ル ノ趣旨ヲ以テ米側ニ於テハ単ニ日 日米平和ヲ希望スル旨ヲ述へ、支那問題ニ付テ コト シ案文カ宣伝的色彩ニ満チ居タルヲ簡略化 ŀ スル新提案ヲ提出致サ 尚又支那問題ハ主トシテ之ヲ日支直接交渉ニ移 無差別原則 マス。 ト引続キ「ハル 問題ヲ除去シ、 セ 7 支和平妨碍ヲ差控 」長官ト会見ヲ重 2 · タ。 即 更ニ三国条約問 チ同案ノ 欲 シ、 ベスル 且 ハ干渉 立意見容 モノナ ネタ ヘシム Ê 内 1 Ŧ ス IJ

ツテ現内 係ヲ回 両 現 望スル点ハ九月二十五 月二十八日ノ帝国ノ平和的意図闡明ニ関シ米側 又支那 ニ支那 通 渉周旋ノ用意アル次第ヲ申出テマシタ。 カ、帝国カ平和政策ヲ採ルニ於テハ米国ニ於テ日 久乃至不確定期 ル完全ナル統制権ヲ支那政府ニ回収スへキコト 味合ナル 大使 ハ異議 ル 厠 商 段階ニ於テ交渉ニ参画セルモノテアリマシテ、 ニ順応シテ支那ニ対シテモ同原 ヲ以テ受諾 ニ支那共同開発ノ提案ハ支那国際管理ノ端緒ト (カ全世界ニー律ニ適用 上ノ無差別原則ニ付条件ヲ付シタル ヨリノ撤兵問題ニ付テハ特ニ深ク之ヲ論議 復 ハ十七日 ノ経済共同開発ヲ行フコト等ヲ提案致シ 1閣モ其 ナキ旨回答セシメタノテアリマ コト、共同宣言案ニ付テハ右カ支那ノ現実ヲ無視 スルコト 大統領 (ノ趣旨ニ於テ之カ確認ニ異議ナキコト、 間 シ難キコト、及米側 ノ駐兵ニ対シ難色ヲ示スニ止マリ ノ外、支那 日付我提案中ニ包含セラレ居 ŀ ロラル +റ ニ於テハ経済 日 鴚 ルヲ希望シ、右希望 <u>-</u>+ ノ日支和平周旋申入 ノ適用ヲ承認スト ス。 政府ハ右ニ対 Ė ハ我方ニ於テ 5財政通貨 <u>-</u>+ 来栖大使 カニ於テハ同
 カニ於テハ同
 、従
 説え希 マシタ。 列国 野 支直 戚セス -----Η 7村来栖 ナル |協同 三関 7 A シ 接 シ 唯 入 交 タ 永 八入レ 1 惧 意 尚下ス

ル此ノ際破綻ニ瀕セル日米国交ノ局面ヲ転換スル為ニハ政府ハ右ノ御決定ノ次第ニ基キ野村大使ニ対シ事態急迫 ニ於テモ右交渉ヲ促進スル意味ニ於テ本大臣 太平洋平和ノ為メ我方ト協調センコトヲ切望スル旨 案ニ依リ急速妥結スルノ外ナク、 ニ於テ御決定ヲ得マシタ次第テアリマス。 (ノ譲歩ヲ敢テシタルモノナルニ鑑ミ、米国側モ猛省 尊重ヲ約シ、仏印ニ派遣セラレ居ル軍 テ御決定ヲ导マノクにう、ヘシト修正スルコトトシ、右ハ十一月五日ノ御前会議カ又ハ公正ナル極東平和確立スルニ於テハ直ニ之ヲ撤 時ニ日支間協定ニ従ヒ撤去ヲ開始 ノ会見ヲ手初メトシ、十日 ニ撤兵ヲ完了スヘク、 ハ北支蒙疆ノ一定地域及海南島ニ関シテハ 爾後交渉ハ華府ニ於テ行ハレ ハ支那事変ノ為メ支那 「ハル」長官ト 屯スヘク、爾 而シテ野村大使ハ七日 、帝国ハ難キヲ忍ヒテ最大ノ局面ヲ転換スル為ニハ本野村大使ニ対シ事態急迫セ 又仏印ニ付テハ領 「ル 会談ヲ重ネ、 ٤ ب 余ノ 治安確 軍 ズ 二派 モ屢々在京米 レタルカ東京 、ヴェル +隊ハ平 遣 (土主権 鋭意交 立ト ラ セラ ŀ ロシテ 和 ル 日 共 成 V 案」ナル シマシタ。 覆 ナカルヘク右ハ消滅若クハ死文トナルコトヲ希望スル旨 条約トノ関係ニ於テ帝国ノ政策ニ対シ依然疑惑ヲ抱キ居リ 帝国ニ対シ武力政策ノ抛棄ヲ要求シテ居リマシタカ、三国 渉ハ当時既ニ酣 米国カ由来自由通商回復ノ為メ努力シ来レル次第ヲ強調致 N ŀ 十八日帝国政府 シモノノ如ク、今回モ帝国ノ平和的意図ニ付前述ノ八月二 シタ。米側ハ夙ニ所謂「ヒットラー」主義ノ打倒ヲ標榜シ、 ニ付質疑ヲ提出シ帝国ノ真意ヲ探ラントスル様子ヲ示シマ 大使ヲ米国ニ急派スルコトトシ、同大使ハ十五日華府到着 大ナルニ鑑ミ外交上十全ノ努力ヲ試ミンカ為メ、 ·共ニ、日米協定成立セハ帝国ハ三国条約ヲ保持スル 進捗ニ努力スル所カアリマシタ、 回復ヲ計 力説致シマシタ。通商無差別原則ニ付テハ我方ノ提案セ 七日ヨリ野村大使ヲ援助シテ交渉ニ参加致シマシタ。 「全世界ニ適用セラルルコト」云々ノ条件除去ヲ希望シ、 モノヲ提議越シ、 同時ニ米側ハ別ニ「経済政策ニ関スル共同宣言 N コト ノ平和的意図ノ声明ニ付再確認ヲ要求スル ニシテ米側ハ七日以来我方ニ対シ幾多ノ点 日米通商協定ノ締結ニ依リ 両国協力シテ全世界ニ通商自由 此 1 間 政府 正常通商関 ハ時局ノ重 五日 ノ要 来栖 交 反

国務長官ト 英大使

ĥ

折衝ヲ遂ケマシタ。

令致

シマシタ。

大統領十二日及十五日

立ト同

支間平和成立

後所要期間

駐

ル日本軍隊 (三撤兵問)

題ニ付テ

216

ニニ年以内

去スヘシト

ス

N

八 「ハル・ノート | 受領から開戦

八 「ハル・ノート」受領から開戦

219

三項)国民政府否認(第四項)三国条約否認(第九項)及	七、両国政府ハ相互ニ資産凍結令ヲ廃止ス
モ若干含マレテ居リマスカ、支那仏印関係事項(第1	
至支那治外法権撤廃(第五項)等我方トシテ容認シ得へキ	基ク通商条約締結ヲ商議スヘシ(生糸ハ自由品目ニ据置
然ルニ右米側提案中ニハ通商問題(第六、七、八各項)乃	六、両国政府ハ互恵的最恵国待遇及通商障壁低減ノ主義ニ
一時的解決モ結局無効ト思フ旨ヲ述ヘタ趣テアリマス。	スヘシ
依り局面打開ヲ計ルモ両国ノ根本主義方針カ一致セサレハ	ニ基ク権利ヲ含ム)ヲ抛棄シ他国ニモ同様ノ措置ヲ慫慂
ヲ浴セラルル懸念アルヤニ考ヘラルト云ヒ、暫定的方法ニ	五、両国政府ハ支那ニ於ケル治外法権(租界及団匪議定書
為メ冷水ヲ浴セラレタルカ、最近ノ情報ニ依レハ復々冷水	政治的、経済的ニ支持セス
ラモ去ル七月本交渉進行中日本軍ノ南部仏印進駐ヲ見タル	四、両国政府ハ重慶政府ヲ除ク如何ナル政権ヲモ軍事的、
セル際ニハ大統領ハ今猶日米交渉ノ妥結ヲ希望スト述ヘ乍	警察)ヲ撤収スヘシ
由テアリマス。越エテ二十七日両大使カ更ニ大統領ト会見	三、日本政府ハ支那及仏印ヨリ一切ノ軍隊(陸、海、空及
酬ヲナシマシタカ「ハル」長官ハ譲歩ノ色ヲ示サナカツタ	待遇ヲ排除シ平等ノ原則確保ニ努ム
シタ。右ニ付両大使ハ其ノ不当ナルヲ指摘シ、強硬ナル応	右協定締約国ハ仏印ニ於ケル貿易及経済関係ニ於テ特恵
等ノ各項ヲ包含セル案ヲ爾今交渉ノ基礎トシテ提案致シマ	Д
10、以上諸原則ヲ他国ニモ慫慂スルコト	場合必要ナル措置ニ関シ即時協議スヘキ協定ノ締結ニ努
ク解釈セラレサルコトニ付同意ス	ニ仏印ノ領土主権ヲ尊重シ仏印ノ領土主権カ脅威サルル
ノ根本目的即チ太平洋全地域ノ平和確保ニ矛盾スルカ如	二、日米両国政府ハ日、米、英、支、蘭、泰国政府トノ間
九、両国政府ハ第三国ト締結シ居ル如何ナル協定モ本協定	不可侵条約ノ締結ニ努ム
八、円弗為替安定ニ付協定シ両国夫々半額宛資金ヲ供給ス	一、日米両国政府ハ英帝国、蘭、支、蘇、泰ト共ニ多辺的
求ムルト共ニ第二別ニ両国政府ノ採ルヘキ措置トシテ	側ノ反省ヲ要望致シマシタ。然ルニ其ノ後モ米側ハ日米両
ハ紛争防止ノ為ノ国際協力及調停ニ変更セラル)ノ確認ヲ	行為ヲ継続シ、平和成立ヲ妨碍スルハ矛盾ナルヲ指摘シ米
月案トノ調節案ナリト称シテ第一所謂四原則(但シ第四項	開始セラルルニ於テハ、和平ノ周旋者タル米国カ依然援蔣
議セルモ遺憾乍ラ同意シ難シト述へ、米側六月案ト我方九	ハ米側申出ノ趣旨ニ基キ大統領ノ紹介ニ依リ日支直接交渉
シ二十日ノ我新提案ニ付テハ慎重研究ヲ加ヘ関係国トモ協	用ヲ前提トスルモノナル旨ヲ述ヘマシタカ、之ニ対シ我方
ツタノテアリマスカ、二十六日「ハル」長官ハ両大使ニ対	統領ノ所謂「紹介者」タラントノ提案モ日本ノ平和政策採
然ルニ米国政府ハ其ノ後モ右諸国代表ト協議ヲ重ネツツア	策採用ヲ確言スルニ非サレハ援蔣行為停止ハ困難ナリ、大
熟セスト思考スル旨ヲ洩スニ至リマシタ。	右ニ対シ米側ハ帝国カ三国条約トノ関係ヲ明カニシ平和政
居レリト述へ、更ニ大統領ノ日支間「橋渡シ」ハ時機未タ	アルコトヲ闡明ス
ハ南太平洋方面ノ急迫セル情勢ヲ緩和スルニ足ラストナシ	屯中ノ日本軍ハ之ヲ北部仏領印度支那ニ移駐スルノ用意
的ニ之ヲ行フ意図ノ如ク、又南部仏印ヨリノ撤兵ノミニテ	日本国政府ハ本了解成立セハ現ニ南部仏領印度支那ニ駐
明確トナラハ通商常態復帰ヲ実行シ得ヘキモ、差当リ漸進	遣セラレ居ル日本軍隊ヲ撤退スヘキ旨ヲ約ス
十二日「ハル」長官ハ右諸国ハ日本カ平和政策ヲ採ルコト	ニ仏領印度支那ニ
此ノ間米国政府ハ英豪蘭及重慶代表ト協議スル所アリ、二	五、日本国政府ハ日支間和平成立スルカ又ハ太平洋地域ニ
ツタノテアリマス。	ルカ如キ行動ニ出テサルヘシ
関スル従来ノ主張ヲ固執反覆シ、更ニ譲歩ノ色ヲ示サナカ	四、米国政府ハ日支両国ノ和平ニ関スル努力ニ支障ヲ与フ
ハ蔣介石援助打切リヲ応諾セサルノミナラス、三国条約ニ	復帰スヘシ米国政府ハ所要ノ石油ノ対日供給ヲ約ス
親善裡ニ太平洋協定ヲ結ヒ度シト述へ乍ラモ支那ニ付米国	三、日米両国政府ハ相互ニ通商関係ヲ資産凍結前ノ状態ニ
国カ夫々東亜及西半球ニ於テ指導的立場ニ立ツニ異議ナク	獲得カ保証セラルル様相互ニ協力スルモノトス

不当ナルモノト認メサルヲ得ヌノテアリマス。 著シキ退歩ニシテ且半歳ヲ越エル交渉経緯ヲ全然無視 意シ得サルモノ 多辺的不可侵条約 ~ニ属シ、 (第一項)等 本提案ハ米側従来ノ諸提案ニ ハ何レモ帝国トシテ到 比 底 セ ルシ同

持シテ一歩モ譲ラナカツタノテアリマス。 ル 強要セムトスルモノニシテ、我国カ屢々幾多ノ譲歩ヲ為 現実ヲ没却シ而モ自ラハ容易ニ実行セサル諸原則ヲ帝国 要之米国政府ハ終始其ノ伝統的理念及原則ヲ固執シ東 1.ニ拘ラス七ケ月余ニ亘ル今次交渉ヲ通シ当初ノ主張ヲ 亜 固 セ ミラ

更ニ低下シ、 ニ之ヲ受諾センカ帝国ノ国際的地位ハ満州事変以前 亜新秩序建設ヲ妨碍セントスルニ在リ、今次米側回 惟フニ米国ノ対日政策ハ終始一貫シテ我不動 メラレルノテアリマス。即チ 其ノ存立モ亦危殆ニ陥ラサル ヲ の米側回答ハ仮動ノ国是タル東 得 ヌモ ノト ヨリ 認モ

セラレ 如 国民政府ニ対スル信義ヲ失シ日支友誼亦将来永ク毀 結果満州国 蔣介石治下 ニシテ我支那事変完遂ノ 延テハ大陸ヨリ全面的ニ退却ヲ余儀ナクセラレ ノ地位モ必然動揺ヲ来スニ至ル ノ中国ハ愈々英米依存ノ傾向ヲ増大 方途ハ根底ヨリ ルヘク斯ク 覆没セラル 

ヌ

 $\sim$ ク

 、英米ハ此等地域ノ指導者ト 設ニ関スル我大業ハ中途ニシテ瓦解スルニ至ル 権威地ニ墜チテ安定勢力タル地位ヲ覆滅 シテ君臨ス シ東亜新秩序建 ルニ至リ ヘク 帝国 1

220

- 三、三国条約ハー片ノ シ 死文トナリテ帝国 ハ 信ヲ海外ニ失墜
- 四 セントスル 7 「連ヲモ ハ 代我北辺ノ /憂患ヲ増-、集団機構 大セシ 的 組 ニシムルコ トトナ 帝国 コヲ控制 Ń  $\sim$
- Ŧ 排除スヘキニ非スト雖モ之ヲ先ツ太平洋地域ニノミ適用 キスシテ我方ニ於テハ セントスル企図 通商無差別其他ノ諸原則 ハ結局英米ノ利己的政策遂行ノ方途ニ過 重要物資 1 如 キ Ź 獲得 ハ其ノ謂 三大ナ ラ所 N 支障ヲ 「必スシモ 来

トシテ此 コト 要スルニ右提案ハ ニ於テ其ノ提案ヲ全然撤去スルニ於テハ格別右提案ヲ基礎 スニ至ルヘク ハ殆ト不可能ト云フノ外ナシト申サナケレ ノ上交渉ヲ持続スルモ我カ主張ヲ充分ニ貫徹スル 到 底我方ニ於テ ハ容認シ難キモノテ米側 ハナリ 7 セ

#### 431 昭 和 16 年 12 月 1 Η 在東 米郷 国外 野務 対大臣より 電

蕔

432

昭

和

16 年 12 月

〔1 日

在東 米郷 国外

国野村大使宛

電報

「東条首相演説」

の新聞

発表経緯について

省

### 情勢緊迫の お ij 米国側動静に警戒方訓 숚

本 省 12 月 1日後8時 30 分発

第八六五号(極 秘 館 長 (符号)

very urgent

往電第八五七号ニ関

÷

ス P ルモ我方ハ此際不必要ニ米側 往電第八一二号ノ期日ヲ経過 ル見地ヨリ新聞其他ニ対シテハ彼我ノ主張ハ距 心シ情勢ハ ノ疑惑ヲ増ササ 益 一々進展 ル様警戒 離 2 大ナ .7 .7

N モノアルモ交渉ハ継続中ナリ ŕ ノ趣旨ヲ以テ指 導 2 · 居

 $\nu$ IJ (以上貴使限 リノ含迄)

7 ルニ付キ貴方ニ於テノミ御申入アリ度 貴電第一二二四号末段在京米大使へ 、ノ申入 Đ ハ 此 【際差 控

大統領急遽帰華セルハ三十日東条首 相 吉 明 1 · 影響 ナ N

モ 思惟 報道モア セラル N N モ右 処 真相 ハ極東情勢 御 「探求ア ij. ノ緊迫ヲ懸念セ 度 シ ル為カト

> 初 問 尚訳文中 For the honor and pride of mankind we 対シテハ必要ナル措置ヲ講シタル次第ナリ 局ノ査閲ヲ経サル中ニ同事務局ニ於テ新聞記者ノ請求 恰モ日曜日ニテタ刊発行ナキ為二十九日 亜同盟主催日華基本条約締結一周年記念祝賀会ノ為ノ祝辞 事実首相自身三十日ニハ何等演説シ居ラス又右原稿モ セ渡シタルモノカ其 第八六六号(大至急) シテ同同盟事務局カ自ラ起草シタルモノナル処三十日 題トナリタル東条首相ノ演説ナルモノハ十 メ政府当局ノ全然承知シ居ラサリシ次第ニテ興亜同 ノ儘新聞ニ発表セラレタル 本 12月1日後11 夜首相其他政 一月三十 モノ 時59分発 Ť must 府当 Ξ 盟 首 -ij 日 任 力 興 二相

ルモノ ナリ 為念

221

I

purge vengeance トアル ノ矜恃ノ為ニ断シテ之ヲ徹底的ニ排撃セネ this sort ot ハ原文ニ於テハ人類ノ名誉ノ為ニ人類 practice from East ハナラヌ Asia ŀ with アリ

再強調シ米国ヲ以テ東亜共栄圏確立上最大ノ障害物トナセ 裁 一日ノ各紙 往電第一二二二号ニ関シ ノ三十日演説ヲ掲ケ特ニ同副総裁カ独伊トノ同盟関係ヲ ハ今次東条首相 1 演説ニ引続 キ安藤翼賛会副総

223

第 二二二六号(大至急)

本 7 シント 省 シ 12 12 月 月 2 日 1日後 後

着 発

#### 「東条首相演説」 東在 等に対する米国側の反応に 細米国 務野 3大臣宛、 ( 電り 報

っ

いて

於テ先ツ言論改善等ニ依リ何トカ右打 シタルカ既ニ申述へタルカ如キ当面ノ情勢ニ鑑 テ避クヘキ所ニアラスヤト述ヘタルニ対シ長官ハ之ヲ首肯 玉 支那見殺シ云々ノ論議モ之レ有ルヤノ趣ナル  $\boldsymbol{\succ}$ ミ最近御提案ノ如キ基礎ニ於テハ日支和平 コ カ支那問題ノ為ニ各々自国ヲ見殺シニスル トヲ切望スル旨繰返シ申 述  $\sim$  $\overline{\mathcal{A}}$ í) 開 1 方途ニ出テラレ ハ到底望ミ難 カ如キ カ逆ニ日米 ユミ日本側 、八断 2 7 Ξ 両

提案 係各国 互 開 日 7 進 等カ問題ノ 最近ニ於ケル日本側ノ情勢及米国ノ 出 本使等ヨリ六月二十一日案及九月二十五日案モ折角アレ迄 テ長官及大統領ノ立場モ ヲ有シ居ルモ上述説明ノ如キ事情ニテ当国ノ コト ニシテ要スルニ日米戦争ハ建設的ニアラスシテ破壊的ナル 長官ハ日米ノ破局カ両国ノ為ハ勿論世界ノ為メ最大ノ不幸 N 了 解 ニ頗ル遺憾トスヘシト述へ大体同感ノ表情ヲ示シタル ノ為メ全ク手ノ下シ様モナキコト 本 援助スルコト ヘカラサルコトトナリ其 駐カ侵略的意図ニ出テオル 来上リ居リ (ニ復帰セサルヲ得サルニ至リタル次第ヲ述へ更ニ本使 · ノ 言 論、 セラルル所ナル ハ充分了解シ居り従ツテ本交渉成立ノ為メ不相変熱意 二何 背後ニハ常ニ支那問題存スルコトヲ指摘シ レモ海陸ノ兵力ヲ同方面ニ結集シテ之ニ備 ^此ノ際之ヲ全然無用ニ帰セシムルカ 行 1動共ニ叙上ノ有様ナル今日ニ於テハ局面打 ŀ ナリ居ル次第ニ付テハ繰返シ注意 ヘシト述へ累次説 頗ル困難ナルモノアルモノノ如 ノ結果間接ニ「ヒトラーズム」 モノニ非ストスルモ周囲 国論ニ鑑ミ今次ノ トナリ居ル旨 崩 ノ如ク右日本軍 如キ国 日力説 如キ シタク 柄 、本使 ジ関 如 、御御 二於 モリ へサ + モ 2 1

434

昭 和

16 年 12

月 1 Η

沈痛ナル表情ヲ以テ早速首 一部スラ通路ニ蝟集シ暗黙ノ間ニ和戦ノ危機直ニ決セラル ニ言及シ大統領モ急遽帰華セルモーハ之ニ基ク旨ヲ述ヘタ 長官ニ会見口頭申入ヲ了セリ長官ノ応答ハ要スルニ従来反 貴電第八五七号訓令ノ次第一日本使来栖大使ト共 モノト解スルカ如キ物々シキ光景ヲ呈セリ) 動向並仏印兵力増駐ノ二点ニ存ス「ハ」ハ会談冒頭ヨリ 「東条首相演説」 会談要旨報告 ノ声明カ歪曲且誇張セラレオルモノト (本使等ノ国務省ニ赴クヤ新聞記者ハ勿論省員 [ヲ出テスシテ其ノ力点ハ我方政府当局及輿論 (極 演説ト雖モ単ニ或一点ノミヲ挙ケ其 秘 館長符号) 等に関する米国国務長官と 相声明(往電第一二二二号参照) 本 ワ 5 ント 省 ン 12 月 2 日 12 月 本使等ヨリ 1日後 「信スル旨ヲ ハー「ハ 前 全文 着 発 ル 5 陸軍 テモ頗ル懸念シオル次第ニシテ右様事態ヲ前ニシ我国海陸 太平洋ノ諸地域ニ関シテモ懸念シオル如ク思ハ 本海陸兵力移動ノ模様各種兵器陸揚ノ状況運送船ノ動キ等 去数日ニ亘リ仏印及支那沿岸地方駐在ノ米国官憲等ヨリ日 タリ又仏印兵力増駐ノ問題ニ関シテハ米国政府トシテモ過 努力ニ声援ヲ与ヘラレンコトヲ切望シテ已マサル旨ヲ述ヘ 確立ヲ希望スルカ如シト敷衍反覆セラレ「ハ」ハ本使等ノ シテ之カ為メ「ハ」カ国内ヨリ種々非難攻撃ヲ受ケ頗ル窮地 ナラシムルカ如キ何等ノ言説ヲ聞クヲ得サル 交渉開始以来日本側要人ヨリ之ヲ支持シ且局面打開ヲ容易 9 N ニ関シ刻々電報ニ接シオリ其ノ行先 了承スルモ日本側ニ於テモ本交渉成立ニ依リ太平洋 ノ日支事変ヲ経テ我国民カ異状ノ緊張状態ニ在ル点ハ充分 ニ立チオル窮状ヲ打チアケ過般大統領所説 責任者 場合多々アルヲ指摘シ右声明ノ全文取寄中ナル旨ヲ述 ル処長官モ次第ニ沈静ノ色ヲ示シタルカ最近本使等ト ーカ同 _ カ如何ナル準備ヲ進ムヘキヤハ地ヲ換ヘテ日本海 情勢ニ臨メル場合ヲ仮想セラルルニ於テハ充分 (泰国ノミナラス南西

覆説

朔

ノ範囲

第

一二二五号

ブ如

ク四年有余

シ平和

ハ頗

ル

遺憾ニ

433

昭

和

16年12月

1

日

東在 **柳米** 外国

務大臣大臣大臣

宛使

、 ( 電 報

ヲ示ササルニ於テハ演説者ノ本意ト反対ノ趣旨ニ解

「セラル

222

1  $\sim$ 

σ

所謂首

相

N

N

ラ以テ

ル) 等ニ付

述へ本来何

人

「ハル・ノート」受領から開戦 八

等カ従来繰返シ申述

ヘタ

ル華府会議以来ノ

苦キ経験ニモ

鑑

	経緯及之カ我内政上ニ及ホセル影響ニモ鑑ミ或ハ米側ノ意
向ヲ確ムルノ必要アルノミナラス又之ニ依リ妥結ノ成否モ	鈴木両閣員ノ演説カ英米打倒ヲ力点トセル排外演説ナルカ
未知数ナルヲ以テ慎重考慮ヲ要スルハ勿論ナルカ時局打開	ノ如ク伝ヘラレタル為メ一層強メラレ更ニ過般来仏印方面
ノ為ニハ此ノ際有ラユル可能ノ手段ヲ試ミルコト無益ナラ	兵力増強ノ報ニ依リ益々日本ノ真意ヲ疑ヒ居リタル矢先今
スト存セラルル処政府ノ名ニ於テ右ニ関スル米側意向ヲ確	次東条首相演説カ東亜ヨリ英米ヲ駆逐スヘシトノ趣旨ヲ伝
ムルコト最モ有効ナルヘキモ我内政上等ノ都合ニテ面白カ	ヘラレタル為メ二十六日付対日公文書手交後ノ我方回答ヲ
ラストセハ一応本使限リノ思付トシテ先方ノ意向ヲ打診シ	緊張待機中ノ米側トシテハ同演説ヲ特ニ重大視セルモノト
米側カ之ニ応スル場合ニハ政府ノ名ニ於テ之ヲ提議シ差支	認メラル(或ハ米政府ニテハ愈々日本カ米側条件ヲ拒否シ
ナキヤ否ヤ何分ノ儀御意向折返シ御回電請フ	何等カノ軍事行動ニ出ツル前提ナラスヤト看做セルヤモ知
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	レス一部新聞ハ同演説ヲ文字通リ解釈セハ戦争ヲ意味スト
	スラ極論セリ)
43 昭禾141月1日 東郷外務大臣宛(電報)	尚当国ニ於テハ外交問題ニ関スル大統領ノ演説ニハ慎重ヲ
首相演説等に関し意見具申	期シ居リ又右ハ国策ノ動向ヲ示スモノトシテ常ニ重要視セ
ワシントン 12月1日後発	ラレ居ルコト御承知ノ通リニシテ斯カル頭ニテ首相ノ演説
本 省 12月2日後着	ヲ読メル当国民トシテ右様印象ヲ抱クニ至レルハ寧ロ当然
第一二三〇号 (極秘、館長符号)	ト言フヘシ
貴電第八六五号ニ関シ	就テハ既ニ充分ノ手配済ノコトトハ存スルモ刻下ノ重大時
大統領帰華ノ直接ノ理由ニ付テハ往電第一二二二号等報告	機ニ当り首相又ハ内閣員ニ於テ外交問題ニ関シ何等意思表
ノ通リナルカ元来米側ノ我方ニ対スル猜疑ハ東条首相ノ議	示セラルル場合ニハ其ノ辺充分御留意ヲ得度ク最悪ノ場合
会演説ヲ始メ大政翼賛会、地方長官会議等ニ於ケル賀屋、	ニ於テモ我方主張ノ公正ナルヲ中外ニ印象セシムル様今日

否的態度ヲ表示スルモノトシテ日本カ愈同会談ニ物言ヲツ右演説カ二十六日付米側対日公文書ニ対スル日本政府ノ拒ルモノ多ク又政府部内ニ於テモ格別ノ批評ハ差控へ居ルモノ強硬言辞ヲ伝へ極東情勢ノ急迫ヲ報セルニ依ルモノトス ケ何等強硬手段ニ出ツル前提ナラスヤト解セラレ居 定セルハ三十日「ハル」長官ヨリ電話ニテ東条首相演説中 報道振リヲ総合スルニ大統領カ特ニ休暇ヲ切上ケ帰華ニ決 英大使トノ会見続行ト共ニ一般ノ注目ヲ惹キ居ル処各紙 ノ急遽帰華決定及二十九日及三十日ニ亘ル コトヲ特報シ右ハ大統領ノ ーウ オ 4 ニスプリ I) 「ハル」長官 回答ニ ング」ヨ N 力 5 F 1) 如

ルヲ以テ此ノ種申出 ヲ与へ居ルカ一部新聞ハ日 辺ノ談話ナルモノヲ報シ右首相ノ演説内容ニ照シ異様ノ感 満足ナルモ更ニ少クトモ二週間交渉延長ノ希望アリ 尚一日ノ各紙ハ又東京発UPヲ以テ我方カ米側 キ報道ヲ為シ一般ニ多大ノ反影ヲ与ヘ居レ 一遷延策 ニ外ナラ Ť Ň モ結局欧州情勢ト睨ミ合 \sim シト 一本ノ 観 測 「タイ」侵略ハ既定計 シ居 \mathcal{V} 1] 1セタル日 ŀ 本 画ナ ノ ハ 官 不 側

> 435 昭和16年12月 1 日 東郷外務大臣宛(電報)在米国野村大使より

224

局面打開の ため首脳会談再検討方意見具申

ワシントン 12月1日後発

本 省 12月2日後着

戦 大統領「ウォレス」又ハ「ホプキンス」我方ニテハ「ロ」 困難ナラハ其ノ最モ信頼スル代表者(例ヘハ米側ニテハ副 米 対案ヲ議題ノ基礎トシテ最終的妥結ノ努力ヲ試ミル X 石井枢密顧問官ノ如キ)ニ両国陸海軍ノ首脳者ヲ随行セシ 大統領ノ相識ノ間柄ニシテ敬意ヲ払ヒ居ル近衛前首 リ政治的打開ノ道ヲ講スル為此ノ際両国政府首脳者ノ出馬 ハ到底今日以上ノ進展ヲ期シ難キヲ以テ更ニ大局的見地ヨ シタキ希望ナル処従来ノ如ク理論ヤ行懸リニ 第一二二七号 側意向 何 「ホノルル」ノ如キ中間地点ニ於テ会見ノ上彼我最近ノ レカニ決スル為ニモ有利ナル一案ト存 ハ依然トシテ原則的主張ヲ固執ス (極 秘 館長符号) セラル ル 一捉ハレ モ 交渉 コト 自相又ハ 居リテ シ 継続 和

尤モ右ハ曩ニ近衛総理 経緯及之力我内政上ニ及ホセル影響ニモ艦ミ或ハ米側 「ロ」大統領会見カ不成立ト -ナレル 1

「ハル・ノート|受領から開戦 八

It was my clear understanding that by the terms of	八 ニ出テタルモノナル旨ヲ応酬シタル上右御意見ニ関シテハ
Indo-China.	内情勢ニモ鑑ミ一応米国ノ根本的建前ヲ明カニシ置ク必
increase in the forces of all kinds stationed by Japan in	ハ 多大ノ注意ヲ払ヒ二十六日ノ米国提案ハ要スルニ米国ノ国
China. These reports indicate a very rapid and material	・ ニ解消スヘキ筋合ニアラサルヤト述ヘタルニ対シ同次官ハ
continuing Japanese troop movements to southern Indo-	- 本問題解決ヲ見ルニ於テハ本日御申入ノ問題ノ如キハ自然
I have received reports during the past days of	受 和確立ノ場合ハ仏印ヨリ撤兵スヘキ旨提議シ居ルニ鑑ミ根
第一二三三号(極秘、館長符号)	頁 か シト説キ本来我方ハ日支事変ノ解決又ハ東亜ニ公正ナル平
本 省 12月3日後着	ら キハ決シテ交渉ノ円満且急速ニ解決スル所以ニアラサルヘ 単
ワシントン 12月2日後発	战 ルニ拘ラス之ヲ一擲シ今更新提案ニ依ル審議ヲ試ミルカ如
	取入レタル九月二十五日案存在シ双方ノ合意モ相当進ミ居
	ヘシト力説シ既ニ折角六月二十一日案及右ヲ出来得ル限リ
詮議ニ際シテハ此ノ点充分御考慮ニ加ヘラルル様致シ度シ	クトモ其ノ儘審議ノ基礎トシテ受諾スルハ到底不可能ナル
提案ニ対スル回答及別電第一二三三号覚書ニ対スル回答御	ルニ対シ充分之ヲ了解シ本使等カ我方トシテ右新提案ヲ少
妥結ヲ計リタキ希望ナルコト充分観取セラルルニ付米国新	重大問題トシテ本件慎重審議ヲ重ネツツアル次第ヲ述ヘタ
モ現下難局ノ平和的収拾ヲ希望シ居ルコト明カニシテ急速	更ニ話題ヲ最近ノ米国提案ニ転シ帝国政府カ国運ニ関スル
一日ノ「ハル」長官トノ会見及本日ノ会見ニ依レハ米国側	ラレ度シト述へ置キタルカ
カ如キロ吻ヲ洩ラシタリ	四年ニ亘ル事変ヲ続ケタル我国一般民心ノ状態ト併セ考へ
提案ニ対スル回答等ニ於テ右様ノ余地ヲ存セラルルヲ望ム	ルコトハ充分御了解ヲ得度ク過般大統領モ理解セラレタル
早速長官トモ相談スヘシト答へ且日本側カ二十六日ノ米国	カ二者其ノーヲ選ハサルヘカラサル立場ニ在ルヲ痛感シ居
シテハ右経済圧迫ニ直面シ之ニ屈スルカ又ハ之ヲ突破スル	米国側覚書
ノヌニ言言にノ甲盾ミオ	
「二関ノテヽ弦ニ侖義スレ寺間ヲ」;	臣范甫一二三一寻
来縷々応酬シ置キタリ)ヲ加フル	別 電 一二月二日付在米国野村大使より東郷外務大
リー	国側覚
本使等ハ米国其ノ他カ我国ニ対シ経済的圧力(経済戦争モ	ウェルズ国務次官との会談の際手交された仏
	43 昭和16年12月2日 東郷外務大臣宛(電報)
界ノ如何ナル部分ニ於テモ侵略ニ反対スルコトヲ建前ト為	仁一) : 一字
種事態ヲ考慮シタモノナル所以ヲ述ヘタルニ対シ次官ハ世	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
ル上本来我方カ十一月二十日ノ提案ヲ為シタルハ全ク此ノ	為登庁困難ナリトノコトナリ)
ルニ付御申入ノ趣旨ハ早速本国政府へ転達スヘシト述ヘタ	「ウェルズ」次官ト会見ノ子定ナリ(「ハル」長官ハ風邪ノ
等ヨリ仏印進駐ニ関シテハ何等政府ヨリ通報ヲ受ケ居ラサ	先方ノ求ニヨリ本使来栖大使ト共ニ明二日午前十時十五分
電第一二三三号ノ覚書ヲ読上ケ之ヲ手交シタルヲ以テ本使	第一二三一号(極秘、館長符号)
処次官ハ先ス大統領直接ノ命ニ依ルモノナル旨ヲ前置シ別	本 省 12月2日後着
二日本使来栖大使ト共ニ「ウェルズ」国務次官ト会見セル	ワシントン 12月1日後発
往電第一二三一号ニ関シ	ウェルズ国務次官との会談予定について
第一二三二号(極秘、館長符号)	43 昭和11年11月1日 東郷外務大臣宛(電報)
本 省 12月3日前着	召口6三211 在米国野村大使
ワシントン 12月2日前発	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
付記 右別電訳文	ヨリ周到ノ注意ヲ払ヒ置クコト然ルヘキヤニ思考セラル

already there considerably less than the total amount of the forces agreement to Japanese French Government at Vichy that the total number of the nature of that agreement-between Japan and the the agreement-and there is no present need to discuss forces be permitted stationed in Indo-China by the terms was of very that

since these forces by Japan for purposes of further aggression, required for the policing of that region. in Indo-China would seem to imply the utilization The stationing of these increased Japanese no such number of forces could possibly forces tion of be

purpose of undertaking the occupation of Thailand coercion or through the actual use of force for Indies; against Burma; against Malaya or either through Philippine Islands; against the many islands of the East Such aggression could conceivably be against the the

additional to the acts of aggression already undertaken Such new aggression would, of course, be

> intention of the Japanese Government for that reason and because of the broad problem of utilization of military steps of the same character. It is and rights of free and independent peoples through the constant and steady encroachment upon the territory part of the German Government which has involved has seen in the last few years in Europe a policy on the concentration of troops in Indo-China. This Government Government as demonstrated by this recent and rapid what I am to consider is the policy of the actual reasons may be for the steps already taken, and inquire at once of the Japanese Government what the Japanese Government. Please be known, and has been repeatedly stated to the Japanese against China, our attitude towards which is well American defense that I should like Ambassador and Ambassador Kurusu to good enough to ð request know Japanese the the ھ 228

何 記

態度

い周

知

ノ所ニシテ且日本国政府ニ対

シ屢次申入レ

、置済

瞭ニ諒解シ居タル所ナリ 同地ニ在ル軍隊ノ総数ヨリ遙カニ少数ナリシコト リテ印度支那ニ駐屯ヲ認メラレ居ル日本軍隊ノ総数ハ既ニ 政府間協定ノ性質ヲ論スル 著シキ増加ヲ物語ルモノナリ今此処ニ日本国及「ヴィシイ」 キ移動シツツアリトノ報告(複数)ヲ接受シ居レリ右報告 余ハ過去数日間ニ亘リ南部印度支那ニ対シ日本軍隊カ引 ハ印度支那駐屯ノ凡有ユル種類ノ日本軍隊ノ極メテ急速且 ノ要ナキモ同協定ノ諸条項ニヨ -ハ 余 Ĵ 明 続

印度支那ニ対スル前記ノ如 i ノ使用ヲ意味スルモノノ如シ 隊カ同地域ノ治安維持ノ為ニ必要トセラル ヘキニ鑑ミ更ニ侵略ノ目的ノ為ニ日 キ日本軍隊 ノ増駐 本国 三依ル N ン 、斯ル多数ノ コトアリ 之等 寅 得

斯ル シ又ハ強制若ハ武力行使ノ何レカニヨリ 侵略ハ比島、 蘭印諸島、「ビルマ」、 リ泰国占領企図ヲ目、馬来半島ヲ目的ト

的 F -スル モ ノト想像シ得ヘシ

既ニ支那ニ対シ行

ハレ居ル侵略行為ニ加フルニ更ニ今次新

シツツアリ然モ支那ニ対スル吾人ノ

ニ侵略行為行

ハレ

ント

439 につい 「東条首相演説」 τ

の経緯に関し米国側へ 説明

昭 和 16年12月 2 日 東在 郑米国 務野 7村臣大 (電り報

ナリ 力 断ニ且著々ト侵略シ来レル独逸国政府ノ政策ヲ観来レリ余 軍事的措置ニ依リ自由且独立ナル諸民族ノ領土及権利ヲ不 請 理由如何並ニ余ハ モノト考フへキカニ付至急日本国政府ニ照会アリ度キ旨要 ル軍隊集結ニヨリ示サレタル 日本国大使及来栖大使ニ対シ既ニ採ラレタル諸措置ノ真ノ シテ且米国国防テフ広汎ナル 日本国政府ノ意図ヲ知ラントスルハ右理由ニ依ル セラレタシ当政府 右ノ如キ印度支那ニ於ケル最近ノ急速ナ ハ過去数年間ニ亘リ欧州ニ於テ同様ノ 問題 日本国政府 ノ故ナリ ノ政策カ如何ナル モノニ

第一二三四号 (大至急、 館長符号扱

ワ シント 省 2 12月3日前着 12月2日後発

「ハル・ノート」受領から開戦 八

月二十	very urgent
二、米英等ノ諸国ハ最近ニ至リ益々対日軍備ヲ増強シ我方	第八七八号(大至急、館長符号)
ハ不当ト云フヘシ	本 省 12月3日後9時発
処米側カ自己ノ非ヲ顧ミスシテ我方ノミヲ責メントスル	我が方方針米国側へ徹底方訓令
ニ非サレハ此ノ種放送ハ不可能ト認ムル外	443 昭和16年12月3日 在米国野村大使宛(電報)
ヲ牧送シソツア)旨、月ケニ交歩ノ肖息ニ通シタレ皆と港短波放送顕著ナリ)ノ如キハ連日交渉ノ機微ナル内容	
「ラヂオ」放送(特ニ	案ニシテ九月案ハ右ニ依リ代位セラレタルモノナリ為念
ル次第ナリ然ルニ米側最近ノ新聞論調ニハ頗ル不穏ナル	モナク現在我方ノ
電第一一四八号所載ノ通リ改善ヲ認メ満足ノ意ヲ表シタ	貴方御折衝中米側六月案ト我方九月案トニ言及セラレ居ル
ヨリモ国務省ニ報告シ居ル筈ニテ現ニ「ハル」長官モ貴	貴電第一二二五号ニ関シ
臣ニ於テモ特ニ苦心セル処ニシテ此ノ点ハ在京米国大使	very urgent
ノト認メラルル次第ナルカ一般輿論指導ニ関シテハ本大	第八七七号(大至急、館長符号)
ル由)甚シク不適当ナリシ為メ意外ノ反響ヲ招キタルモ	本 省 12月3日後9時発
往電第八六六号ノ通リニテ英訳(同盟通信社ニテ作成セ	我が方最終提案につき確認
ル我方ノ誠意ニ疑惑ヲ表シ居ル処東条首相声明ノ真相ハ力移動ヲ頻リニ問題トシ右ヲ口実トシテ交渉妥結ニ対ス	44 昭和1年12月3日 在米国野村大使宛(電報)
一、米側ハ我政府当局声明並ニ輿論ノ動向及我方ノ南方兵	·····
貴電第一二二五号ニ関シ	承知アリ度シ
度之ヲ申出ツルコトハ適当ナラストノ意向ナルニ付右ニ御	本 省 12月3日 発
ヨリ提議シ不成功ニ終リタル経緯モアリ此ノ際我方ヨリ再	つき訓令
両国首脳者会見ニ付テハ御承知ノ通リ前内閣時代ニモ我方	仏印兵力増強に関する米国側覚書への回答に
貴電第一二二七号ニ関シ	44 昭和11年11月31日 在米国野村大使宛(電報)
第八七六号(大至急、館長符号)	召口6三2333 東郷外務大臣より
本 省 12月3日後9時発	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
首脳会談の再提議は不適当の旨訓令	上トモ御指導アリタキ旨付言シ置ケル由ナリ
44 昭和10年11月3日 在米国野村大使宛(電報)	カ此ノ際両国新聞ハ御互ニ冷静ナルヲ要スヘク此ノ点此ノ
2116~20~ 東郷外務大臣よ	釈明ニ来レルニアラス唯事実ノ真相ヲ御伝ヘシタル迄ナル
	尚寺崎ヨリ騒キ立テタルハ米国新聞ナルヲ以テ自分ハ何等
何等逸脱シ居ラサル次第ナリ	険ナルカ御話ヲ伺ヒ非常ニ安堵セリト述ヘタル趣ナリ
ルモノト認メラルル処我方ハ日仏共同防衛議定書ノ範囲ヲ	伝ヘラレ米朝野ニ多大ノ衝動ヲ与ヘタルハ甚タ不幸且ツ危
面部隊ノ移動モ行ハレタルコト誇大ニ報道セラレタルニ依	イコロジカル・モーメント」ニ
為北部仏印ニ於テ一部ノ増強ヲ行ヒ右ト関連シ自然南部方	説明セシメ置キタル処其ノ際「バ」ハ日米関係緊張ノ此ノ
於テ支那軍カ頻ニ蠢動シ居ルニ鑑ミ主トシテ之ニ備ヘンカ	ランタイン」ヲ国務省ニ往訪セシメ冒頭貴電ノ趣旨ヲ適宜
仏印ニ於ケル我軍増強ニ関スル風説ハ最近仏支国境付近ニ	二日午前本使「ウェルズ」ニ会見ニ先立チ寺崎ヲシテ「バ
米側ニハ左ノ趣旨ヲ以テ応酬セラレ度シ	コトハ交渉継続ニ悪影響アルヘシト思料セラレタルヲ以テ
貴電第一二三二号ニ関シ	本件演説原稿発表上ノ手違ニ付テハ之ヲ此ノ儘放置シ置ク
第八七五号(大至急、館長符号)	貴電第八六九号ニ関シ(東条首相演説ノ件)

八 「ハル・ノート」受領から開戦

231

	臣ノク、ヲ木フ化ノヲウ、厚シ育木「諸名治害」
	国、七ノस西大吏ノ将长」,東を宣目ノ義会寅兑、ケ台
	レルモノニテ今次交歩ニ於テ彼ヲ怒ラセタルコニアデオニシュ言臣ノ目是一フリンショヨ
	「両国モクヲ希望ノ(崩叩ヽヨ
状態ニハ何等変更ナキモノト観測シ居レリ	ニ関スル限リ当初ヨリ日米妥結ノ強キ考ヲ有シ最近ハ又英
テハ依然戦争回避ノ希望アリ英豪亦之ヲ希望シ居ル基礎的	要ナル要素ナルコト御承知ノ通リナルカ「ロ」ハ日米交渉
リタルモ自分トシテハ本交渉ノ立役者タル米国及日本ニ於	ルメント」トナリ居ルヲ以テ彼ノ感情ハ内外国策決定上重
謂東条首相ノ演説ニテ日米関係ハ最モ緊迫セル関頭ニ立到	現政府ハ現在「ローズベルト」ノ「パーソナル・インスツ
尽セル実情ナリ尚右米側空気ニ拍車ヲ掛ケタルハ今次ノ所	二日夜「フライシャー」ノ寺崎ニ語ル所左ノ通リ
案ナリ)繫カレタルモ最早ヤ「ハ」自身殆ト精力ヲ消耗シ	第一二五三号(館長符号扱)
何等カノ交渉妥結ニ努メ一時相当ノ希望(所謂局部的諒解	本 省 12月4日後着
ニ依ルモノナリ此ノ間「ハル」ハ非常ナ労力ト忍耐ヲ以テ	ワシントン 12月3日後発
支那側ノ外交的勝利ニ帰シタル感アルモ右ハ全然「ラック」	せる旨のフライシャーの談話
「ハル」長官ヨリ米側条件ノ提出トナリタルモノニテ表面	「東条首相演説」により日米関係は最も緊迫
支那側ヨリハ胡適及宋子文ヨリ求ムル所アリ遂ニ二十六日	44 昭利11年11月31日 東郷外務大臣宛(電報)
ニ誠意ナシト思ヘル「サイコロジカル・モーメント」ニ偶々	四口6三2月2日 在米国野村大使い
日本軍仏印増強ノ報告続々ト入リ来タリ「ロ」ヲシテ日本	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~
ノ強硬態度トモ相俟ツテ頗ル「ロ」ヲ興奮セシメタル所へ	ノ軍事行動ニ出ツルコトハ必至ト認メラル
強硬言辞アリ右ハ「ロ」ヲ取捲ク所謂「ウオー・パーチー」	宣戦ノ有無ハ別トシテ米側ニ於テハ英側ト協同直ニ何等カ
レタルノミナラス議会開会中一二世	ノ情報ヲ総合スルニ我方ノ タイ」進駐起リタル場
第一二四二号(大至急、館長符号扱)	大統領の記者会見について
本 省 12月4日前着	日米交渉の経緯と仏印兵力増強に関する米国
ワシントン 12月3日後発	44 昭禾1年1月三日 東郷外務大臣宛(電報)
米・英両国共同軍事行動についての観測	召口6月2月3日 在米国野村大使より
44 昭和16年12月3日 東郷外務大臣宛(電報)	ルニ付右含ミ置カレ度シ)
~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~	モノニシテ米側ノ所謂原則的立場ト何等矛盾セサル儀ナ
レ居ル点ニ於テ注目ヲ惹キ居レリ	ノ運ヒニ至リタル上ハ援蔣行為ヲ停止スヘシト主張スル
ヨリ帰華後最初ノ会見ニモアリ且相当率直ニ交渉内容ニ触	ハ屢次申入ノ通り大統領ノ紹介ニ依リ日支和平交渉開始
(二日付華府特情参照)右ハ大統領ノ「ワームスプリング」	和平ヲ妨碍セストノ規定ヲ指スモノト解セラルル処我方
何レモ交渉進行中ニ行ハレタルコトニ簡単ニ言及セルカ	案ヲ以テ一般的原則ト両立セスト称スルハ第四項ノ日支
ノ経緯並ニ我方南部仏印進駐及伝ヘラルル今次仏印増兵カ	ル所以ヲ此ノ上トモ米側ニ御説示アリ度シ(米側カ我対
表スルト共ニ始メテ自己ノ意見トシテ今春以来ノ日米交渉	案セルモノニシテ此ノ際難局打開ノ最善ノ方策ト思考ス
シ仏印ヘノ今次兵力増強ノ意図ニ関シ照会ヲ発セル旨ヲ発	三、尚十一月二十日ノ我方対案ハ公正ナル立場ニ立脚シ提
こうお谷を討ち世 ミーンカンシロアンドージン・グ	

第ナリ

ナルニ鑑ミ英米側ニ於テ抑制方ヲ要望セサルヲ得サル次 出テタルコト一再ニ止マラス此ノ点ニ付テモ状勢ノ機微 日在京米国大使ニ抗議済ミ)其他英米側カ類似ノ行動ニ ハ台湾南部鵞鑾鼻上空ヲ偵察飛行セルコトアリ(二十七

往電第一二三二号ニ関シ

第一二三九号(極秘、館長符号)

本

省

12月3日後着 12月3日前発

232

ワシントン

シ仏印ヘノ今次兵力増強ノ意図ニ関シ照会ヲ発セル旨ヲ発二日大統領ハ記者団トノ会見ニ於テ米政府カ同日我方ニ対

八 「ハル・ノート」受領から開戦

│ 側カ国境ニ兵力ヲ結集シ攻勢ニ出テ来ル惧アルトモ解セラ	八 第一四二一号 (極秘、館長符号)
ヲ為念書物トシ手交シタル処「ハル」ハ御説明ハ宛モ支那	「ハート・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション・ション
五日本使来栖大使ト共ニ「ハル」長官ヲ往訪御訓令ノ趣旨	Nル ベルリン 12月5日後発
貴電第八九一号ニ関シ	、交渉経緯を独・伊両国へ率直に通報方意見具申
第一二六一号(極秘、館長符号)	- ▶ 45 昭利10年11月5日 東郷外務大臣宛(電報)
本 省 12月6日前着	10 FT口 6 = 2 ] ; } 在独国大島大使
ワシントン 12月5日後発	
談要旨報告	
仏印兵力増強等に関する米国国務長官との会	战 回答シ置カレ度
451 昭和16年12月5日 東郷外務大臣宛(電報)	ル結果ヲ招来スル惧アルニ付此ノ際ハ右往電ノ趣旨ニヨリ言則ションノニーノ機役サノ関侵モフーまいラ面白メミナ
Ś	覚月2チフレコ、へ幾改」レ룅系ミネ )印ノテ 可自力ラナ豊富 /征趙旨一応力モナハモ 止 / 際往賀第7七王专以上ニ
語 ノ者 そこ 宿り ラノ 石 支犯 信 ノ信 ラ 近 ミぞ ハ レッシ	/ 即赵宇一公亡ミーレミヒターニュアチュ 厚ミ
	一二五六子二周
交歩ノ圣韋ヲ虫尹ニ通報ノ置	<b>館</b> 長守号)
首相「メッセージーノ如キモノハ	本 省 12月4日後11時59分発
用スル公算少カラサルニ依リ例へハ当時世界ニ伝ヘラレタ	つき訓令
今後日独離間等ノ見地ヨリ詳細ナル発表ヲ為シ悪宣伝ニ利	仏印兵力増強に関する米国側覚書への回答に
日米交渉ノ経緯概要ハ当時直ニ独側ニ伝へ置キタル処米側	
貴電第九八六号ニ関シ	49 昭和6年2月4日 東郷外務大臣より
	つき意見具申
出来得レハ右趣旨ニテ御再考ノ上至急何分ノ御回電相煩シ	仏印兵力増強に関する米国側覚書への回答に
	東班夕泰ノ目ダ(冒
提示セル我方案ニモ明示シアル	44昭和16年12月3日(東部下第六百位(1111日) 「「「「「「」」) 「「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」、 「」、 「」、 「」」 「」、 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」」) 「」) 「
ト存セラルルニ付現ニ十	<
テシテハ先方ヲ納得セシメ又ハ前記ノ如キ米側ノ措置ヲ阻	人ヲ率ヒオル有力人物ナリ
交渉ヲ継続シオク御意向ノ場合ニ於テモ御来示ノ説明ヲ以	尚「ジョ」ハ「キリスト」信教ノ最長老ニシテ信徒四千万
処政府ニ於テ真ニ交渉妥結ヲ期セラルルニ於テハ勿論単ニ	外交的ニ何等カノ切抜ヲ要スル旨「ジョ」ハ力説セリ
テハ先方モ相当思ヒ切リタル措置ニ出ツルヤモ計ラレサル	平洋ニ於テハ依然平和ヲ欲シオル点明瞭トナリタリ但至急
ノ報道頻々トシテ伝ヘラレ居り我方ノ回答振り如何ニ依り	和戦ニ関スル大統領ノ意向ヲ打診セシメタル処大統領ハ太
来新聞方面ニ於テモ本件回答ハ日米和戦ヲ決スル鍵ナリト	ヲシテ「ロ」大統領ニ面会(極秘裡ニ二人限リノ会見ナリ)
要視シ居ルコト貴電ノ通リニテ殊ニ昨日ノ大統領ノ声明以	三日午後寺崎ト密接ナル関係アル「スタンレー・ジョンズ」
タルモノト拝察スルモ米国側ニ於テハ本件回答ヲ極メテ重	第一二五五号(極秘、館長符号)
早速御回電ニ接セル処右ハ勿論廟議ノ慎重ナル御考慮ヲ経	本 省 12月4日前着
関シ	ワシントン 12月3日後発
貴電第八七五号(我仏印進駐軍増強ニ関スル風説ノ件)ニ	する大統領の意向打診について
第一二五六号(極秘、館長符号)	スタンレー・ジョーンズを通じての和戦に関
本 省 12月4日後着	44 昭和1(年1)月3日 東郷外務大臣宛(電報)
ワシントン 12月3日後発	召口6年2月3日

アルトモ解セラ

235

印進駐

チク」ノ問題ニシテ貴国ノ如キモ最良ノ防禦ハ攻撃ニ在

・セラレ殊ニ軍人ハ然ルヲ以テABCDノ兵備、

艦隊ノ増

×  $\overline{\mathbf{v}}$ ル

立テラレ閉口シオル次第ナリト述へタリ依テ本使等ハ右

ル次第ナルカ兎ニ角本件交渉ニ付最近連日新聞記者ニ攻

ニ依リ急速ニ局面打開ヲ計ルヲ最善ト信シ居ル次第ナリ

ノコトヲ繰返サルルカ是レ要スルニ「パワー

•

ポリ

14

ij

解及其他ノ頻発ヲ慮レハコソ我方トシテハ十 次テ本使等ヨリ抑々今回大統領質疑ノ如 明ハ大統領ニ伝達スヘシト述ヘタリ

キ事態ヨリ来

ル

×

ツツアル点ヲ指摘セルヲ以テ本使等ハ米国側一部新聞ノ

更ニ長官ヨリ我国新聞

論調其

ノ他カ日米妥協ヲ困

難

ニナラシ

案誤

- 月二十日

態度亦同様ナルヲ指摘シ貴電第八七八号ノ

一御説

記示ノ諸点

ヲ適宜引用シ更ニ三日「ハ」ノ新聞会見ニモ言及シオキタ

処「ハ」ハ右ハ単ニ米国ノ根本的政策ニ付述ヘタルニ止

テ聞キ及ヒ居ル所ナリト応酬セル処「ハ

那側カ広西方面ニ多数

ノ兵力ヲ集メ居ルコトハ本使等モ予

ル

ハ兎ニ角御

説

旨力説シオキタリ

ニ依リ局面ノ

打開ヲ期

スル

コト最モ実際的

ナリ

ト思考ス

N

ノ際先ツ我方十一月二十日案

第ナルカ支那側トシテハ攻撃ニ出テ来ル場合モアル

ヘク支

処之ニ到達スル道程トシテ此

ル次

的和協成立スルニ於テハ当然解消スヘキモノト信セラルル

ハ日米間ノ関係改善シ貴長官カ屢次御主張ノ

本使等トシテハ本訓令以外何等説明ヲ加フルヲ得サ

N

、情勢兵力ノ釣合等ニモ依

ルヘク現地ノ情勢ヲ明カニ

セ

サ

懸念ノ点

ト述

ヘタルニ付本使等ヨリ

何

レカ攻勢ニ出ツル

ヤ

ハ諸般

論ノ承服ヲ得ルヲ得サルヘシト述ヘタルニ付本使等

加

ニ対シ我陸海軍モ無関心ナルヲ得サルヘシト述へ貴電第

今日

情勢ニ於テ対

E

石油供給ヲ再開

ス

N

カ如キ

ハ

到

底輿

其他ニ於テ手酷シキ攻撃ヲ受ケ居

リタル様ノ事情ナル

た二付

IJ.

国カ石油

[ノ対日輸出ヲ許シ居タル

開始ヨリ七月二十四日ノ日本軍ノ

、七八号末段ノ趣旨ヲ再ヒ繰返セル処「ハ」ハ本春本交渉 事実ニ付自分ハ予テ上院 南部仏印進駐ニ至ル 迄米 辞 ト説キオキ 去ニ 際 シ — **-** -Z 쓴 í) ハ 今後何時 ニテモ会見スへ 打開益々必要トナル シ ŀ 述  $\sim$ 居 タ

二 十 日

案ニ依ル急速ナル

局面

452 昭 和 16年12月6日 在東 米郷 国外 国野村大使宛 (電報

(別

電

## 「対米覚書」 発電につい τ

別 電 一二月六日付東郷外務大臣より 在米国野村 大

第九○二号(館長符号) (1)

省

12 月 6

日

後8

○時30分発

MEMORANDUM

使宛第九〇二号 「対米覚書」

付 記 右別電訳文

本 省 12 月 6 Ħ

発

第九〇一号

政府ニ於テハ十 一月二十六日ノ米側提案ニ付 慎 重 廟 議

_____ ` ヲ尽シタル結果対米覚書 (文ナル (英文)ヲ決定セリ

P N ル様致サレ度シ 右覚書ハ長 ルニ付右御受領相 ナルヤモ知レサル 成 モ刻下ノ情勢ハ極メテ機微 関係モアリ全部接受セラル リタル コト ハ 差当り 厳 秘 に二付 オルハ モノ日

シ ヘキモ右別電接到ノ上ハ訓令次第何時ニテモ米側ニ手交、右覚書ヲ米側ニ提示スル時期ニ付テハ追テ別ニ電報ス 得ル様文書ノ整理其他子メ万端 右覚書ヲ米側ニ提示スル 1 手 配ヲ了シ置 力 V 度

シ

the adjustment with the Government of the United States regarding the peace of the Pacific area and thereby contribute toward the two countries by their joint efforts may secure the with the Government of the United States in order that genuine desire to come relations and the stabilization of the Pacific area negotiations with the utmost sincerity since Ŀ realization The Government and advancement of Japanese-American of world to an amicable understanding of peace, Japan, prompted by has April continued last

measures Government has persistently maintained as frankly its The Japanese the views concerning the claims United Government has the States and Great honor the American Britain well as the to have state

237

八 「ハル・ノート」受領から開戦

236

一般

六右御

taken toward Japan during these eight months

238

II. It is the immutable policy of the Japanese Government to insure the stability of East Asia and to promote world peace, and thereby to enable all nations to find each its proper place in the world.

Ever since the China Affair broke out owing to the failure on the part of China to comprehend Japan's true intentions, the Japanese Government has striven for the restoration of peace and it has consistently exerted its best efforts to prevent the extention of war-like disturbances. It was also to that end that in September last year Japan concluded the Tripartite Pact with Germany and Italy.

However, both the United States and Great Britain have resorted to every possible measure to assist the Chungking régime so as to obstruct the establishment of a general peace between Japan and China, interfering with Japan's constructive endeavours toward the stabilization of East Asia. Exerting pressure on the

> and the Empire about a situation which endangers the very existence perfecting an encirclement of Japan, and have brought countries have strengthened their military preparations manifesting thus an obviously hostile attitude, these severing suit, they enforced the assets freezing order, misinterpreted it as a threat to their own possessions measures of joint defence of French Indo-China, both Japan in accordance with its protocol with France took cooperation with these regions. Furthermore, when aspiration to realize the ideal of common prosperity in China, they American Netherlands East Indies, or menacing French Indoinducing the Netherlands Government to follow economic and British Governments, have attempted to frustrate Japan's relations with Japan. wilfully While thus of

Nevertheless, to facilitate a speedy settlement, the Premier of Japan proposed, in August last, to meet the President of the United States for a discussion of

important problems between the two countries covering the entire Pacific area. However, the American Government, while accepting in principle the Japanese proposal, insisted that the meeting should take place after an agreement of view had been reached on fundamental and essential questions.

the steadfastly to its original proposal, failed to display in proposed by the American Government, taking fully into settlement. consideration Government submitted a proposal based on the formula negotiation claims regarding the principal points of difficulty in the revised proposal, moderating still further the Japanese proved of no avail in producing readily an agreement of incorporating Japanese views. Repeated discussions slightest degree III. The prersent Cabinet, therefore, submitted Subsequently, on September 25th the Japanese But the American Government, adhering and endeavoured strenuously to reach past American claims ھ spirit of conciliation. and also The а മ

negotiation made no progress.

Thereupon, the Japanese Government, with a view to doing its utmost for averting a crisis in Japanese-American relations, submitted on November 20th still another proposal in order to arrive at an equitable solution of the more essential and urgent questions which, simplifying its previous proposal, stipulated the following points:

- The Governments of Japan and the United States undertake not to dispatch armed forces into any of the regions, excepting French Indo-China, in the Southeastern Asia and the Southern Pacific area.
- (2) Both Governments shall cooperate with a view to securing the acquisition in the Netherlands East Indies of those goods and commodities of which the two countries are in need.
- (3) Both Governments mutually undertake to

restore commercial relations to those prevailing prior to the freezing of assets.

The Government of the United States shall supply Japan the required quantity of oil.

- (4) The Government of the United States undertakes not to resort to measures and actions prejudicial to the endeavours for the restoration of general peace between Japan and China.
- (5) The Japanese Government undertakes to withdraw troops now stationed in French Indo-China upon either the restoration of peace between Japan and China or the establishment of an equitable peace in the Pacific area; and it is prepared to remove the Japanese troops in the southern part of French Indo-China to the northern part upon the conclusion of the present agreement.

As regards China, the Japanese Government, while

expressing its readiness to accept the offer of the President of the United States to act as "introducer" of peace between Japan and China as was previously suggested, asked for an undertaking on the part of the United States to do nothing prejudicial to the restoration of Sino-Japanese peace when the two parties have commenced direct negotiations.

The American Government not only rejected the above-mentioned new proposal, but made known its intention to continue its aid to Chiang Kai-shek; and in spite of its suggestion mentioned above, withdrew the offer of the President to act as the so-called "introducer" of peace between Japan and China, pleading that time was not yet ripe for it. Finally on November 26th, in an attitude to impose upon the Japanese Government those principles it has persistently maintained, the American Government made a proposal totally ignoring Japanese claims, which is a source of profound regret to the Japanese Government.

concessions often in spite of great difficulties. As for the reach a settlement, for which it made all possible attitude of fairness and moderation, and did its best to withdrawing non-discrimination in international of the negotiation, the Japanese Government showed a equitable basis. Furthermore, as regards the question of China economic activities of third Powers pursued on an clear that Japan had no intention of excluding from same in the Pacific area, including China, and made it the Japanese Government would endeavour to apply the with the actual practice of this principle in the world, applied throughout the world, and declared that along Government expressed its desire to see the said principle advocated by the American Government, the Japanese most conciliatory attitude. As for the principle of China question which constituted an important subject Japanese IV. From the beginning of the present negotiation the Government troops from French Indo-China, has always maintained an commerce, the

> Japanese Government even volunteered, as mentioned above, to carry out an immediate evacuation of troops from Southern French Indo-China as a measure of easing the situation.

It is presumed that the spirit of conciliation exhibited to the utmost degree by the Japanese Government in all these matters is fully appreciated by the American Government.

On the other hand, the American Government, always holding fast to theories in disregard of realities, and refusing to yield an inch on its impractical principles, caused undue delays in the negotiation. It is difficult to understand this attitude of the American Government and the Japanese Government desires to call the attention of the American Government especially to the following points:

 The American Government advocates in the name of world peace those principles favorable to it and urges upon the Japanese

Government the acceptance thereof. The peace of the world may be brought about only by discovering a mutually acceptable formula through recognition of the reality of the situation and mutual appreciation of one another's position. An attitude such as ignores realities and imposes one's selfish views upon others will scarcely serve the purpose of facilitating the consummation of negotiations.

Of the various principles put forward by the American Government as a basis of the Japanese-American agreement ; there are some which the Japanese Government is ready to accept in principle, but in view of the world's actual conditions, it seems only a utopian ideal,on the part of the American Government, to attempt to force their immediate adoption.

> Again, the proposal to conclude a multilateral non-aggression pact between Japan, the United States, Great Britain, China, the Soviet Union, the Netherlands, and Thailand, which is patterned after the old concept of collective security, is far removed from the realities of East Asia.

area." It is presumed that the above provision with Japan from fulfilling its obligations under the has been proposed with a view to restrain preservation of peace throughout the Pacific agreement, interpreted by it in such a way as to conflict concluded with any third powers, shall be that no which states: "Both Governments will agree Tripartite Pact when the United The American proposal contains a stipulation the agreement, fundamental the establishment and which either purpose of States has this

participates in the war in Europe, and, as such, it cannot be accepted by the Japanese Government.

The American Government, obsessed with its own views and opinions, may be said to be scheming for the extension of the war. While it seeks, on the one hand, to secure its rear by stabilizing the Pacific area, it is engaged, on the other hand, in aiding Great Britain and preparing to attack, in the name of selfdefense, Germany and Italy, two Powers that are striving to establish a new order in Europe. Such a policy is totally at variance with the many principles upon which the American Government proposes to found the stability of the Pacific area through peaceful means.

⁰⁰ . Whereas the American Government, under the principles it rigidly upholds, objects to

the prosperity of the two nations. exploitation and to sacrifice themselves to compelled to observe the status quo under the for the past hundred years or more have been China but in other areas of East Asia. It is a position it has hitherto occupied not only in Great Britain and other Powers, its dominant maintain and strengthen, in collusion with that the times more inhumane than military pressure. economic power. Recourse to such pressure Great Britain and other nations pressure by settling international issues through military Anglo-American policy fact of history that the countries of East Asia relations should be condemned as it is at pressure, it is exercising in conjunction with It is impossible not to reach the conclusion a means of dealing with international American Government desires of imperialistic The to

Japanese Government cannot tolerate the perpetuation of such a situation since it directly runs counter to Japan's fundamental policy to enable all nations to enjoy each its proper place in the world.

5 countries. Apart from the fact that such a guarantee in trade and commerce would be tantamount French Indo-China and equality of treatment territorial integrity and sovereignty of undertake among themselves to respect the countries,-Japan, the United States, Great mentioned American policy. Government relative to French Indo-China is Thailand,-excepting France, should Britain, The stipulation proposed by the American placing that good exemplification of the the of the Government of those six Netherlands, territory under the joint That the China aboveand six

> proposal totally ignores the position of France, it is unacceptable to the Japanese Government in that such an arrangement cannot but be considered as an extension to French Indo-China of a system similar to the Nine Power Treaty structure which is the chief factor responsible for the present predicament of East Asia.

> > 244

position as the stabilizing factor of East Asia. as politically or economically any régime other demanding Japan not to support militarily, China, and are calculated to destroy Japan's commerce ignore the actual conditions of non--discrimination unconditional application of the principle of The attitude of the American Government in American Government regarding China such All the items demanded of Japan by the wholesale evacuation in international of troops or

line restoration demonstrates clearly the intention of cease present negotiation. Government, shatters the very basis of the than the régime at Chungking, disregarding Japan and China and the return of peace to American Government American Government falling, as it does, thereby with its above-mentioned refusal to from aiding the Chungking régime, the of normal relations between existence of the Nanking This demand to obstruct the of the the 'n

⁽¹³⁾ V. In brief, the American proposal contains certain acceptable items such as those concerning commerce, including the conclusion of a trade agreement, mutual removal of the freezing restrictions, and stabilization of the yen and dollar exchange, or the abolition of extraterritorial rights in China. On the other hand, however, the proposal in question ignores Japan's sacrifices in the

> four years of the China Affair, menaces the Empire's existence itself and disparages its honour and prestige. Therefore, viewed in its entirety, the Japanese Government regrets that it cannot accept the proposal as a basis of negotiation.

VI. The Japanese Government, in its desire for an early conclusion of the negotiation, proposed that simultaneously with the conclusion of the Japanese-American negotiation, agreements be signed with Great Britain and other interested countries. The proposal was accepted by the American Government. However, since the American Government has made the proposal of November 26th as a result of frequent consultations with Great Britain, Australia, the Netherlands and Chungking, and presummably by catering to the wishes of the Chungking régime on the questions of China, it must be concluded that all these countries are at one with the United States in ignoring Japan's position.

East Asia.

promote the peace of the Pacific through cooperation Japanese-American earnest hope of the Japanese Government to adjust during the course of the present negotiation. Thus, American rights and interests by keeping Japan order in East Asia, and especially to preserve Angloestablishment of peace through the creation of a new with the American Government has finally been lost. China at war. This intention has been revealed clearly relations and to preserve and and , the

The Japanese Government regrets to have to notify hereby the American Government that in view of the attitude of the American Government it cannot but consider that it is impossible to reach an agreement through further negotiations.

(欄外記入) 以下発電留保

四時である旨記載されている。 このである旨記載されている。

246

#### (付 記)

- 府 解ヲ遂ケ両国共同ノ努力ニ依リ ヲ継続シ来リタル処過去八月ニ亘ル交渉ヲ通シ合衆国政 調整増進並太平洋地域ノ安定ニ関シ誠意ヲ傾倒 望ニ促サレ本年四月以来合衆国政府トノ間ニ両国国交ノ 確保シ以テ世界平 ノ光栄ヲ有ス  $\nu$ 帝国政府ハ ル措置ニ付茲ニ率直ニ其所信ヲ合衆国 ノ固持セル主張並ニ此間合衆国及英国 P 和ノ招来ニ貢献セントスル真摯ナル希 メリカ」合衆国政府トノ間 太平洋地域ニ於ル平和 レノ帝国 政府ニ開陳スル ニ友好的 『シテ交渉 三対 シ教 ヲ 諒
- リ客年九月帝国カ独伊両国トノ間ニ三国条約ヲ締結シタニ戦禍ノ拡大ヲ防止センカ為終始最善ノ努力ヲ致シ来レ生ヲ見ルニ至レルモ帝国ハ平和克復ノ方途ヲ講スルト共一、東亜ノ安定ヲ確保シ世界ノ平和ニ寄与シ以テ万邦ヲシ

ルモ亦右目的ヲ達成センカ為ニ外ナラス

度支那共同防衛ノ措置ヲ講スルヤ合衆国政府及英国政府 殊ニ帝国カ仏国トノ間ニ締結シタル議定書ニ基キ仏領 ヲ牽制 右 N シ帝国包囲ノ態勢ヲ整ヘ以テ帝国ノ存立ヲ危殆ナラシム 明 モ誘ヒ資産凍結令ヲ実施シテ帝国ト ハ之ヲ以テ自国領域ニ対スル脅威ナリ カ相携へテ共栄ノ理想ヲ実現セントスル企図ヲ阻害 N 援助シテ日支全面和平ノ ニカラス帝国総理大臣ハ本年八月事 カ如キ情勢ヲ誘致スルニ至レリ カニ敵対的態度ヲ示スト共ニ帝国ニ対スル 帝国ノ建設的努力ヲ控制セルノミナラス或ハ蘭領 ルニ合衆国及英帝国ハ有ラユル手段ヲ竭シ重慶政 シ或ハ仏領印度支那ヲ脅威シ帝国ト此等諸 、成立ヲ妨碍シ東亜ノ安定ニ対 -ノ経済断 態ノ急速収拾 ト曲解シ和蘭 軍備ヲ i 交 ヲ 敢 旧地域ト 国ヲ ムテシ Iセリ 印 権 ノ為 増 強 節 ス 7 度

譲ラス 選ラス フィックットものでは、「ものではない」、 1000 第200 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第 第

Ę 動 ヲ取入レタル ヲモ充分考慮ノ上米国案ヲ基礎トシ之ニ帝国政府 ハ 政府ハ所要ノ石油ノ対日供 国政府ニ於テ蘭領印度ニ於テ其ノ必要ト 太平洋地域ニ武力進出ヲ行ハサル旨ヲ確約スルコト口両 ヲ簡単化シ
一両国政府ニ
於テ
仏印以外ノ 枢要且緊急ノ問題ニ付公正ナル妥結ヲ図ル為メ前記提案 国交ノ破綻ヲ回避スル為メ最善ノ努力ヲ尽ス趣旨ヲ以テ 然渋滞セリ茲ニ於テ十一月二十日ニ至リ帝国政府ハ両国 タル修正案ヲ提示シ交渉ノ妥結ニ努メタルモ合衆国政府 主要難点タリシ諸問題ニ付帝国政府ノ主張ヲ更ニ緩和シ ハ ハ ニ通商関係ヲ資産凍結前 カ保障セラル 太平洋地域ニ於ケ ニ出テサル 日 終始当初ノ主張ヲ固執シ協調的 容易ニー致 仍テ帝国政府ハ九月二十五日従来ノ合衆国政府 支両国、 1 和平ニ関スル努力ニ支障ヲ与 ル様相互ニ協力スルコト三両国政府ハ相互 セサリシヲ以テ現内閣ニ於テハ従来交渉ノ コト国帝国政府ハ日 一案ヲ提示シ論議ヲ重ネタル ル公正ナ ノ状態ニ復帰ス 給ヲ約スルコト N 平 -和確立 古支間和平 態度ニ出テス交渉 え ル スル物質ノ獲得 南東亜細亜及南 Ž コト、 ル (四) カ双方ノ見解 成立スルカ又 F ル 合 ルカ如キ行 · 衆国政府 ハ現 ノ主張 合衆国 2 ~ 主張 い依 二仏

為ヲ継続スル意思ヲ表明シ次テ更ニ前記ノ言明ニ拘ラスハ右新提案ヲ受諾スルヲ得スト為セルノミナラス援蔣行平ヲ妨碍セサル旨ヲ約センコトヲ求メタルカ合衆国政府 主張ヲ無視セル提案ヲ為スニ至リタルカ右 カ従来固執セル原則ヲ強要スルノ態度ヲ以テ帝国政府ノ テ之ヲ撤回シ遂ニ十一月二十六日ニ至リ偏ニ合衆国政府 異議ナキモ日支直接交渉開始ノ上ハ合衆国ニ於テ日支和 容トスル新提案ヲ提示シ同時ニ支那問題ニ付テハ合衆国 之ヲ北部仏領印度支那ニ移駐スルノ用意アルコト等ヲ内 最モ遺憾トスル所ナリ 大統領ノ所謂日支間和平ノ紹介ヲ行フノ時機猶熟セスト 大統領カ曩ニ言明シタル通日支間和平ノ紹介者ト為 了解成立セハ現ニ南部仏領印度支那ニ駐屯中ノ日本軍 領印度支那 ニ派遣セラレ居 ル日本軍隊ヲ撤退スヘク又 い帝国 政 ルニ 府 本 ハ 1

上ノ無差別待遇原則遵守ニ付テハ本原則ノ世界各国ニ行シテモ協調的態度ヲ示シ合衆国政府ノ提唱セル国際通商譲歩ヲ敢テシタルカ交渉上重要事項タリシ支那問題ニ関リノ、抑本件交渉開始以来帝国政府ハ終始専ラ公正且謙抑ナ

(---) 含ム太平洋地域ニ適用スル様努力スヘキ旨ヲ表明シ尚支 セサルヲ得ス 所ナルカ特ニ左記諸点ニ付テハ合衆国政府 ス徒ラニ交渉ヲ遷延セシメタルハ帝国政府ノ諒解ニ苦ム 無視シ其ノ抱懐スル非実際的原則ヲ固執シテ何等譲歩セ ナリト信ス然ルニ合衆国政府ハ常ニ理論ニ拘泥シ現実ヲ 力妥協ノ精神ヲ発揮セルハ合衆国政府ノ夙ニ諒解スル所 南部仏領印度支那ヨリノ即時撤兵ヲ進ンテ提議スル等極 ヨリノ撤兵ニ付テモ情勢緩和ニ資スルカ為メ前述 那ニ於ケル第三国ノ公正ナル経済活動ハ何等之ヲ排除ス ン N モノニアラサルコトヲモ闡明セルカ更ニ仏領印度支那 レンコトヲ希望シ且其ノ実現ニ順応シテ之ヲ支那ヲモ ノ注意ヲ喚起 ビノ如ク

248

スル所以ノモノニアラス
スル所以ノモノニアラス
スル所以ノモノニアラス

モノト云フノ外ナシモノト云フノ外ナシ

ノ外ナシ旧構想ヲ追フノ結果東亜ノ実情ト遊離セルモノト云フ条約ヲ締結スルノ案ノ如キモ徒ラニ集団的平和機構ノ尚日、米、英、支、蘇、蘭、泰七国間ニ多辺的不可侵

(二)

結シ居ル如何ナル協定モ本取極ノ根本目的タル太平洋

合衆国政府今次ノ提案中ニ「両国政府カ第三国ト

締

武力圧迫以上ノ非人道的行為ニシテ国際関係処

(理ノ手

依ル圧迫ヲ加ヘツツアル処斯ル圧迫ハ場合ニ依リテハ

合ニ於ケル帝国ノ三国条約上ノ義務履行ヲ牽制セントニ付合意ス」トアルハ即チ合衆国カ欧州戦争参入ノ場全域ノ平和確保ニ矛盾スルカ如ク解釈セラレサルコト

衆国政府ハ一方太平洋地域ノ安定ヲ策シ自国ノ背後ヲレ自ラ戦争拡大ヲ企図シツツアリト謂ハサルヲ得ス合由来合衆国政府ハ其ノ自己ノ主張ト理念トニ眩惑セラ帝国政府ノ受諾シ得サル所ナリ

際関係処理ヲ排撃シツツ一方英帝国等ト共ニ経済力ニニ依リ安定ノ基礎ヲ築カントスル幾多ノ原則的主張トニ依リ安定ノ基礎ヲ築カントスル幾多ノ原則的主張トニなリ安定ノ基礎ヲ築カントスル幾多ノ原則的主張ト

安固ト為シツツ他方英帝国ヲ援ケ欧州新秩序建設

三邁

申ス迄モナキコト乍ラ本件覚書ヲ準備スルニ当リテハ 往電第九〇二号ニ関 第九〇四号 国政府 ピスト」等ハ絶対ニ使用セサル様機密保持ニハ此上共慎 衆国政 仍テ帝国政府ハ茲ニ合衆国政府 国政府ト相携へテ太平洋 |政府ト相携へテ太平洋ノ平和ヲ維持確立セントスル帝|シ明瞭ト為リタル所ナリ斯クテ日米国交ヲ調整シ合衆| 和 ス 重ヲ期セラレ度シ 「対米覚 府ニ通告 ルモ妥結ニ達スルヲ得スト認ムルノ外ナキ旨ヲ合 (ノ希望ハ遂ニ失ハレタリ 16 年 12 月 政治的且経済的ニ支持セサル 書」 6 スルヲ遺憾ト の 2 Η 共ニ合衆国政府カ日 ノ回復ヲ阻害スル 機密保持方訓 在東 米郷国外 本 野務村大 Ż ルモノナリ ノ態度ニ鑑ミ今後交渉 大臣使よ 슦 省 ノ意思アル 宛り 支間ニ平常状態ノ (電報 12 月 6 コトヲ要求シ南 コトヲ Ē 記援蔣行 9 発 実 7 (二)B工作 (−) A工作 閣僚又ハ同格ノ有力者ト 454 弋 アル処今日迄ノ進展大体左ノ通 大統領「ハ 第一二七二号(極 ト機微ノ関係アリ厳秘トセラレ度シ) 策ニ依 英米ノ ヲ 妨 内ニ全部包含セシメ十一月二十六日米案ノ我方ニ有利又 テ東亜ニ於ケル帝国 案ヲ為セルモノト認メラレ右諸国ハ何レモ合衆国ト同シ 特ニ支那問題ニ関シテハ重慶側ノ意見ニ迎合シ前記諸提 ス」ト会見「ストライキ」ヲ解決シタルモ右工作者 ハ右ハ大統領ノ常ニ採ル態度ニシテ過般大統領カ「ルイ 慫慂シタルモ大統領ハ意中ヲ明ニセス工作者 不可ヲ説キ大統領カ速ニ日支間ノ「紹介」ヲ為スコトヲ ク帝国ノ立場ヲ無視セントスルモノト ル処合衆国政府ハ英、豪、蘭、重慶等ト屢協議 方ヲ提議シ合衆国政府モ大体之ニ同意ヲ表示セル ハ無害ナル 昭和 惟フニ合衆国政府ノ意図ハ英帝国其ノ他ト 碍 局面打開 利益ヲ擁護セント ルモノナル由 16年12月6日 セントスルノミナラス日支両国ヲ相闘ハシメ以テ 工作者ハ我方十一月二十日案ヲ九月二十五 工作者ハ四日大統領ト午餐ヲ共ニシ日米戦争ノ ル」等ニ対スル正面交渉ノ外大統領 部分ヲ Ø 秘 ため 加ヘタルモノニ多少ノ修正ヲ施シ之ニ 館長符号) Ó ノ新秩序建設ニ依ル平和確立ノ努力 東郷外務 モ直接間接ニ連絡ヲ取リ(国務省 側面工作につき報告 スルモノナルコト 本 ワシントン 高大臣宛(電報) 側面運 省 断 12月6日後 セサ 12 月 7日 立動ヲ ハ今次交渉ヲ ・ルヲ得ス 荷合策動シ ノ言ニ依レ ト関係深キ ロセル結果 試 次第ア ミッ 後 日 1 着 発 案 献 **'**Y

条約類似ノ体制ヲ新ニ仏領印度支那ニ拡張セントスル モ東亜ノ事態ヲ紛糾ニ導キタル最大原因ノータル九国 ニ右態度ノ適例ト称スヘク仏領印度支那ニ関シ仏国ヲ ノト観ルヘキモノニシテ帝国政府トシテ容認 同地域ヲ六国政府ノ共同保障ノ下ニ立タシメントス 尊重並ニ貿易及通商ノ均等待遇ヲ約束セントスル 蘭、支、泰六国間ニ同地域ノ 立場ヲ全然無視セル点ハ暫ク措ク ~領土主 シ得 Ĥ 証スル 諾スルヲ得サルヲ遺憾トス 的ニ観テ帝国政府トシテハ交渉ノ基礎トシテ到底之ヲ受 シ帝国ノ生存ヲ脅威シ権威ヲ冒瀆スルモノアリ従テ全体

権

ハ

除キ日、米、

英、

N

モノニシテ仏国ノ

モ

六

交渉妥結ノ際ハ英帝国其他ノ関係国トノ間ニモ同

尚帝国政府ハ交渉ノ急速成立ヲ希望スル見地

ヨリ日

米

同時調印

(五) 軍事的、 為停止ノ拒否ト 府 京 9 適用ト云ヒ何レモ支那ノ現実ヲ無視シ東亜ノ安定勢力 ル 復帰及東亜平和 全面撤兵ノ要求ト云ヒ或ハ通商無差別原則ノ無条件合衆国政府カ支那問題ニ関シ帝国ニ要望セル所ハ或 所ナリ 基礎ヲ根底ヨリ覆スモノト云フヘク右ハ前記 政府ヲ否認シ去ラントスルノ態度ニ出テタルハ交渉 カ今次提案ニ於テ重慶政権ヲ除ク如何ナル政権ヲモ ル帝国ノ地位ヲ覆滅セントスルモノナル処合衆国政

> 五、要之今次合衆国政府ノ提案中ニハ通商条約締結、 凍結令ノ相互解除、 ニアラサルモ他方四年有余ニ亘ル支那事変ノ犠牲ヲ無視 ニ於ケル治外法権撤廃等本質的ニ不可ナラサル条項ナキ 円弗為替安定等ノ通商問

モノナリ

250

資産

題乃至支那

「ハル・ノート|受領から開戦 Л

重

三慎

251

453

昭

継続

通

メントシツツアリ対スル「ハル」ノ同意ヲ取付ケ新ニ米案トシテ提出セシ

タリ
(三以上両工作関係者ハ何レモ大統領カ日米妥協ヲ衷心ヨリ

以上何等御参考迄

455 昭和16年12月6日 東郷外務大臣宛 (電報

米国大統領より天皇陛下へ親電発出について

二 右訳文 一二月六日付天皇陛下宛米国大統領親電

付

(極秘、館長符号)(極秘、館長符号)

六日夜国務省ハ大統領カ天皇陛下ニ親電ヲ発セル旨公表ス第一二七五号(極秘、館長符号)

ラレ居レリルニ鑑ミ仏印増駐「タイ」進出ニ関連スルモノト一般ニ見ルニ鑑ミ仏印増駐「タイ」進出ニ関連スルモノト一般ニ見御軍団カ「シヤム」湾ニ向ヒツツアル由ナルコトヲ発表セ約十二万五千ノ日本軍既ニ仏印ニ在ル外今朝軍艦護送ノニ 252内容不明ナルモ同時ニ国務省ヨリ其ノ入手セル情報トシテ 252

シタル結果カト思ハル先年「パナイ」号事件ノ親電ニ対スル我方措置振リヲ考慮的大統領カ外交機関ヲ経由セス直接陛下宛親電ヲ発セルハ

(付 記一)

His Imperial Majesty

The Emperor of Japan.

Almost a century ago the President of the United States addressed to the Emperor of Japan a message extending an offer of friendship of the people of the United States to the people of Japan. That offer was accepted, and in the long period of unbroken peace and friendship which has followed, our respective nations, through the virtues of their peoples and the wisdom of

their rulers have prospered and have substantially helped humanity.

Only in situations of extraordinary importance to our two countries need I address to Your Majesty messages on matters of state. I feel I should now so address you because of the deep and far-reaching emergency which appears to be in formation.

Developments are occurring in the Pacific area which threaten to deprive each of our nations and all humanity of the beneficial influence of the long peace between our two countries. Those developments contain tragic possibilities. The people of the United States, believing in peace and in the right of nations to live and let live, have eagerly watched the conversations between our two Governments during these past months. We have hoped for a termination of the present conflict between Japan and China. We have hoped that a peace of the Pacific could be consummated in such a way that nationalities of many diverse peoples could exist side by

> side without fear of invasion; that unbearable burdens of armaments could be lifted for them all; and that all peoples would resume commerce without discrimination against or in favor of any nation.

I am certain that it will be clear to Your Majesty, as it is to me, that in seeking these great objectives both Japan and the United States should agree to eliminate any form of military threat. This seemed essential to the attainment of the high objectives.

Indo-China. I think I am correct in saying that no attack Indo-China Japanese military forces to enter into Southern Frence Summer the Vichy Government permitted against China further north. the protection of Japanese troops which were operating permitted to enter into Northern French Indo-China for which five or six concluded an agreement with the Vichy Government by More than a year ago Your Majesty's Government for the thousand Japanese troops common And this defense of Spring and French further were

other have been sent to Southern Indo-China in such large numbers as to create a reasonable doubt on the part of the world that Japanese military, naval and air forces Indo-China is not defensive in its character. During the past few weeks it has become clear to nations that this continuing concentration Ξ.

preparing or intending to make attack in one or more of asking themselves whether these forces of Japan people of the Philippines, of the hundreds of Islands of these many directions the East Indies, of Malaya and of Thailand itself are corners of that Peninsula, it is only reasonable that the they extend now to the China have reached such large proportions and because Because these continuing southeast and the southwest concentrations in Indoare

the fear of I am sure that Your Majesty will understand that all these peoples is a legitimate fear in as

> why much as it involves their peace and their national offense to constitute armed forces capable of measures of naval and air bases manned and equipped so greatly as numbers look askance at the establishment of military, existence. I am sure that Your Majesty will understand the people of the United States in such large

> > 254

unthinkable. It is clear that a continuance of such a situation <u>1</u>3:

dynamite can sit either indefinitely or permanently on a keg None of the peoples whom I have spoken of above of

soldier or sailor were to be withdrawn therefrom United States of invading Indo-China if every Japanese There is absolutely no thought on the part of the

undertake to ask for the same assurance on the part of Malaya and the Government of Thailand. I would even the Governments of the East Indies, the Governments of I think that we can obtain the same assurance from

Pacific area assurance of peace throughout the whole of the the Government of China. Thus a withdrawal of the Japanese forces from Indo-China would result in the South

world us, for the sake of the peoples not only of our own great countries but for the sake of humanity in neighboring dispelling the dark clouds. I am confident that both of give thought the fervent hope that Your Majesty may, as I am doing, amity and prevent further death and destruction in territories, have a sacred duty I address myself to Your Majesty at this moment in in this definite emergency to ways to restore traditional the of

FRANKLIN D. ROOSEVELT.

Washington

December 6, 1941

行 記二

日本国天皇陛下

H 刻且広汎ナル非常事態ニ鑑ミ茲ニー書ヲ呈スヘキモノト 重大ナル場合ニ於テノミナルカ現ニ醸成セラレツツアル深 陛下ニ対シ余カ国務ニ関シ親書ヲ呈スルハ両国ニ取リ特ニ 者ノ叡智ニヨリテ繁栄シ人類ニ対シ偉大ナル貢献ヲ為セリ 来不断ノ平和ト友好ノ長期間ニ亘リ両国民ハ其ノ徳ト指導 スル次第ナリ 約一世紀前米国大統領ハ日本国天皇ニ対シ書ヲ致シ米国 ノ日本国々民ニ対スル友好ヲ申出タル処右ハ受諾セラレ爾 福祉 民 感

目的ヲ達成センカ為ニハ陛下ニ於カレテモ余ト同シク日米 各国民カ如何ナル国家ヲモ排撃シ若クハ之ニ特恵ヲ与フル 現セラレンコトヲ希望シ且堪へ難キ軍備ノ負担ヲ除去シ又 ヲ喪失セシメントスルカ如キ事態カ現ニ太平洋地域ニ発生 両国ハ如何ナル形式ノ軍事的脅威ヲモ除去スルコト カ如キ差別ヲ設ケサル通商ヲ復活センコトヲ念願セリ右大 於テ侵略ノ恐怖ナクシテ共存シ得 心ニ注視シ来レリ吾人ハ支那事変ノ終息ヲ祈念シ諸国民ニ 国家ノ共存ノ権利 シツツアリ右情勢ハ悲劇ヲ孕ムモノナリ米国民ハ平和ト諸 米両国民及全人類ヲシテ両国間ノ長年ニ亘ル平和 トヲ信シ過去数ケ月ニ亘ル日米交渉ヲ熱 ルカ如キ太平洋平和 ニ同意 ) カ実
ス
斯ル事態ノ継続ハ到底考へ及ハサル所ナルコト明カナリ余
カ前述シタル諸国民ハ何レモ無限ニ若クハ恒久ニ「ダイナ
マイト」樽ノ上ニ坐シ得ルモノニ非ス
若シ日本兵カ全面的ニ仏領印度支那ヨリ撤去スルニ於テハ
合衆国ハ同地ニ侵入スルノ意図毫モナシ
余ハ東印度政府、馬来諸政府及泰国政府ヨリ同様ノ保障ヲ
求メ得ルモノト思考シ且支那政府ニ対シテスラ同様保障ヲ
求ムル用意アリ斯クシテ日本軍ノ仏印ヨリノ撤去ハ全南太
平洋地域ニ於ケル平和ノ保障ヲ招来スヘシ
余カ陛下ニ書ヲ致スハ此ノ危局ニ際シ陛下ニ於カレテモ余
ト同様暗雲ヲ一掃スルノ方法ニ関シ考慮セラレンコトヲ希
望スルカ為ナリ余ハ陛下ト共ニ日米両国民ノミナラス隣接
諸国ノ住民ノ為メ両国民間ノ伝統的友誼ヲ恢復シ世界ニ於
ケル此ノ上ノ死滅ト破壊トヲ防止スルノ神聖ナル責務ヲ有
本牛村米覚書貴也寺刻七日干後一寺ヲ胡ン米則ニ(戊ル可の。。。。
ヨリ直接御
458 昭和16年12月7日 在米国野村大使宛(電報)
両大使以下館員に対する慰労の意伝達
· · · 本 省 12月7日 発
貴両大使カ心血ヲ注カレタル御尽力ニモ不拘日米国交ノ調第九〇戸号
レチェーク日ノ事態ニ立到リタルハ共ニ頗ル遺憾トス
此ノ機会ニ両大使ノ御努力ト御労苦ニ対シ深甚ノ謝意ヲ表ハヲナリ
スルト共ニ貴館館員御一同ノ御奮闘ヲ感謝ス
459 昭和16年12月7日 在米国野村大使宛(電報)
「対米覚書」の一部修正方訓令
本 省 12月7日後7時20分発

動シ居リタル日本軍保護ノ為ニ五、六千ノ軍隊ヲ進駐セシニ基キ北部仏領印度支那ニ同地北方ニ於テ支那軍ニ対シ行約一年前陛下ノ政府ハ「ヴィシー」政府ト協定ヲ締結シ之スヘキコト明瞭ナリト信ス

向クルカヲ陛下ニ於カセラレテハ御諒解相成ルヘシト思惟陸、海及空軍基地ニ対シ米国民ノ多クカ何故ニ猜疑ノ眼ヲス余ハ攻撃措置ヲ執リ得ル程度ニ人員ト装備トヲ為セルルコトハ陛下ニ於カレテモ御諒解アラセラルル所ナリト信

256

八 「ハル・ノート」受領から開戦

457

ヲ A 第

第

257

460 ヲ assertions ニ訂正アリ度 ~ 御承知 キタリ事態茲ニ立至レルハ本大臣ノ最モ遺憾ト テ華府時間七日午後本覚書ヲ米国政府ニ提出方取計 渉ヲ継続スルモ成立ノ見込ナシトノ結論ニ達シタルヲ以 渉妥結ノ為メ全力ヲ傾倒シ本大臣亦熱心ニ努力セル 意ヲ述ヘマシタ 趣旨ヲ答ヘマシタ処同大使 即チ聖上陛下ニ於カセラレテハ貴大使ヲ通シ「ローズベ 右ニ対スル聖上陛下 統領ノ聖上陛下ニ対スル親電ニ関シテハ貴大使ト会見後 N (尚同大使ノ求メニ依リ後刻右申入レ 次テ本大臣ヨリ対米覚書写ヲ手交シ帝国政府ハ日 (別添甲号) ト述へタル 本大臣ヨリ昨 ト」大統領ニ左記趣旨ヲ伝達方御下命相成リ 昭 ての 和 16 米国大統領親電への天皇陛下回答伝達に際し ノ通ナルモ米国政府ノ態度ニ鑑ミ遺憾乍ラ今後交 12年12月 駐日米国大使との会談要旨 記 Ξ = ヲ送付シ置キマシタ) ニ同大使ハ文書ハ帰館 夜 8 米国大統領親電に関する経緯 右回答英訳文 天皇陛下の米国大統領宛回答 Ĥ 御持参相成リタル ノ御思召ヲ拝承スル機会ヲ得マシタ 昭和十六年十二月八日午前七時半 在東 本細邦外 ハ極メテ満足ナル様子ニテ謝 米務国大 国大使会談 1 「ローズベルト」大 上拝見スヘク唯今 ノ趣旨ノ英文仮訳 -スル所ナ マシタト

ニ付加言上スへキコトモアラハ勿論考慮ニ吝ナラスト

ニ対 仏印ニ日本軍隊集結セル事情ニ付テ過般米国大統領 、シ日本政府ニ於テ回答セシメタリ 1 、照会

尚仏印ヨリノ撤兵ハ日米交渉ニ於ケル一項目ヲ為セル ニシテ右ニ付テモ日本政府ヲシテ意思表示ヲ為サシメタ モ N Ì

> ヲ信 タルコトハ大統領ニ於テモ夙ニ了承セラレ居ル所タル 素志ニシテ之カ為メ朕ノ政府ヲシテ今日迄努力セシ 而シテ太平洋牽テ世界ノ平和康寧ヲ招来セント 記二 ス ・スル × ハ ・来り 朕 へキ

ニヨリ右ニヨリ御承知相成度シ

1

何

コト 一米交

reply to the latter's message Minister to convey the following to the President as a appreciation for the cordial message of He has graciously let known his wishes to the Foreign His Majesty has expressed his gratefulness and the President.

日と置

American negotiations. His Majesty has commanded the constitutes one of the subject matters of the Japanese-Withdrawal of Japanese forces from French Indo-China Majesty Japanese regarding the circumstances of the augmentation of "Some has forces days ago, directed in French Indo-China, to the President made inquires the Government which His ť reply.

259

何

記こ

何

1等意見ヲ申述フル

コト

ハ差控フヘシト述へ辞去

セ

1)

編

注

付記二参照

テ

貴大使ノ御希望ヲ阻止スル意図ナク貴大使カ右親電ノ外 ルニ付其必要ナキヤニ考ヘラル カ単ニ右親電捧呈ノミナルニ於テハ御思召 ヤト申出テマシタノテ本大臣ハ若シ貴大使ノ拝謁ノ目的 直面致シ居ル際ニモアリ拝謁方特ニ御取計ヲ願ヘマシキ ク右親電ヲ捧呈スヘシト 有スル訓令ニ依レハ本使ニ於テ拝謁ヲ御願シタル上親シ 御思召ノ程ハ早速大統領ニ伝達致スヘシト答へ尚自分ノ ノ次第ヲ申述ヘマシタ処同大使ハ之ヲ恐懼拝聴シタル上 為朕ノ 統領ニ於テモ夙ニ了承セラレ居ル所タルヘキヲ信ス」 界ノ平和康寧ヲ招来セントスル ル シテ右ニ付テモ日本政府ヲシテ意思表示ヲ為サシメタ 領ノ照会ニ対シ日本政府ヲシテ回答セシメタリ ヨリノ撤兵ハ日米交渉ニ於ケル 「仏印ニ日本軍隊集結セル事情ニ付テハ過般米国大統 ニヨリ右ニヨリ御承知相成度シ而シテ太平洋牽テ世 、政府ヲシテ今日迄努力セシメ来リタルコトハ大 アル処両国関係目下重大危局ニ ルモ本大臣ニ於テハ何等 ハ朕ノ素志ニシテ之カ 一項目ヲ為セルモ ハ既述ノ通ナ ,尚仏印 ラニ

adhering steadfastly to its original proposal  $\sim$  proposal 対米覚書中Ⅲノ初メノ方 But the American Government. 往電第九〇二号ニ関シ

第九一一号(緊急、館長符号)

desired that the President will kindly refer to this reply. Government also on this question. It is, Government to state its views to the therefore, American

consequently of the world has been the cherished desire aware of this fact." endeavors. His Majesty trusts that the President is fully hitherto made of His Majesty, for the realization of which He has Establishment of peace in the Pacific the Government continue its earnest and

## 何 記 三)

「ルーズベルト」大統領ノ親電ニ関スル経緯

- 所アリ依テ外務当局ニ於テハ直ニ関係方面ト連絡シ右 務長官カ聖上陛下ニ対スル「ルーズベルト」大統領ノ 「メッセージ」到着ヲ待機シ居リタリ 「メッセージ」発送セラレタル旨ヲ公表セル由報道スル 客年十二月七日早朝当地ニ入電セルUP通信ハ米国 国
- 夜十時過キニ至リテ初メテ在京米国大使ヨリ外務大臣ニ 然ルニ右「メッセージ」ハ相当延着セルモノノ如ク同

以テ後刻会見致シ度キ旨申越シタルカ同夜半(零時十五 臣ヲ官邸ニ来訪セリ 対シ重要緊急案件ニ付キ訓令接到シ電文解読中ナル 分)「グルー」大使ハ右「メッセージ」ヲ携ヘ東郷外務大 趣ヲ 260

- 三、会談ハ十数分ニテ終了セルカ其際「グ」大使ハ「ル 特別ノ御配慮ヲ願フト述へ再会ヲ約シ辞去シタリ 使ハ右ヲ親シク拝謁ノ上闕下ニ捧呈方特ニ訓令セラレ居 態頗ル重大ナル際ナルニ付キ是非共拝謁致シ度ク重ネテ 大使ハ用意ノ親電写(甲号)ヲ非公式ニ大臣ニ手交シ事 内容ニモ依ルコトナルヘシトノ意味合ヲ応酬セル処「グ」 続モ致シ兼ヌルモ貴使ノ希望通リ拝謁適フヘキヤハ親電 対シ拝謁ノ儀ハ夜中ノコトニモアリ明朝ニ至ラサレハ手 ルコトヲ述へ外務大臣ノ斡旋ヲ求メタリ外務大臣ハ右ニ 大統領ヨリ聖上陛下ニ対スル親電接到セルコト並ニ同大 L.....
- Щ 委曲ヲ伏奏セリ 前二時半参内 ト緊急協議ノ結果本件取扱振ノ腹案ヲ大体決定シ同夜午 外務大臣ハ右親電要訳ヲ携ヘ総理官邸ニ赴キ首相以下 (陛下ニハ海軍正装ニテ出御遊ハサル)シ

Ŧ 外務大臣ハ午前三時半過キ帰邸シタルヲ以テ予定ノ通

大統領親電ニ対スル聖上陛下ノ御思召トシテ通報スル リ八日午前六時ヲ期シ在京英米大使ニ対シ日米交渉打切 トトシ手配ヲ進メタリ 、通告ヲ行フト共ニ其際「グ」大使ニ対シ左記ヲ「ル」 -

記

状

仏

ΕD

「ハル・ノート」受領から開戦 Л

六

トノ間ニハ要旨別紙(乙号)ノ如キ会談行ハレタリナリシニ依ル)米英大使ヲ接見シタルカ其際「グ」大使 電話ヲ以テ真珠湾ノ奇襲奏功セル旨通報越シタリ 八日朝外務大臣ハ予定ヨリ稍々遅レテ(電話連絡困難 |後幾許モナク(四時過キ)岡海軍々務局長ヨリ大臣 所タルヘキヲ信ス メ来リタルコトハ大統領ニ於テモ夙ニ了承セラレ 朕ノ素志ニシテ之カ為朕ノ政府ヲシテ今日迄努力 モノニシテ右ニ付テモ日本政府ヲシテ意思表示ヲ為 尚仏印ヨリノ撤兵ハ日米交渉ニ於ケル一項目ヲ為 照会ニ対シ日本政府ニ於テ回答セシメタリ シテ太平洋牽テ世界ノ平和康寧ヲ招来セントスル メタルニヨリ右ニヨリ御承知相成度シ ニ日本軍隊集結セル事情ニ付テ過般米国大統領 ノ如キ会談行ハレタリ 居 セシ 為セル Ξ N ン 1 交渉ニ甚大ナル関係ヲ有シ居リ英米関係ハ事実上不可分ナ 至レル旨ヲ述ヘ対米覚書写ヲ手交シ右ハ写ナルモ英国ハ本 米国大使ニ対スルト同様簡単ニ日米交渉打切ノ已ムナキニ 461 ルニ鑑ミ最近ノ日英間諸問題ニ関スル帝国政府ノ 米国大使ト 註 三、八日朝会見ノ際ハ英米大使何レモ右ニ先チ交戦 -, 昭和16年12月 注一 態発生セルコトヲ知リ居ラサリシモノナリ ノ公表ハ事実ト相違ス 国大使との会談要旨 日米交渉決裂に関する東郷外務大臣と駐日英 親電ハ結局捧呈セラレサリシモノナリ此点情報局 本件会談ニハ加瀬書記官立会通訳セ ノ会見ニ引続キ在京英国大使ヲ引見致シマシテ 455文書付記一 460 文書参照 8 日 昭和十六年十二月八日午前八時 在東 本郷 邦外 参照 英務国大 大臣 使 会談

Π ≥

見解ヲ表

「ハル・ノート」受領から開戦 八

慶ニ 濫二 殆 スル 屈 テ此 **閲クヲ悛メス米英両国** 執 テ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシメムトシ隠忍久シキニ彌リ 交ヲ敢テシ帝国ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシ 助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセ ルアリ リ豈朕カ志ナラムヤ中華民国政府曩ニ帝国ノ真意ヲ解 シテ米英両国ト釁端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモ ス 力 ルモ彼ハ毫モ交譲 シ更ニ帝国ノ平和的通商ニ有ラユル妨害ヲ与へ遂ニ経済断 ニ瀕セリ 従 サル へ与国ヲ誘ヒ帝国ノ周辺ニ於テ武備ヲ増強シテ我ニ挑戦 ルニ至ラシメ茲ニ四年有余ヲ経タリ幸ニ国民政府更新ス ル 帝国積 ジ間 にセシメ 残存スル政権ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尚未タ牆ニ相 事ヲ構ヘテ東亜ノ平和ヲ攪乱シ遂ニ帝国ヲシテ干弋ヲ ハ之亦帝国カ常ニ国交ノ要義ト為ス所ナリ今ヤ不幸ニ ~帝国 所而シテ列国トノ交誼ヲ篤クシ万邦共栄ノ楽ヲ偕 却ツテ益々経済上軍事 事 年ノ努力 ムトス斯ノ ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相提携スルニ至レル 蔇 三此 ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメ ニ至 ハ悉ク水泡ニ帰シ帝国ノ存立亦正 如クニシテ推移セムカ東亜安定ニ関 ハ残存政権ヲ支援シテ東亜ノ ル帝国ハ 上ノ脅威ヲ増大シ以テ我ヲ 今ヤ - 自存自 衛 為蹶 〜禍乱ヲ ムト <u></u> 然起 そ重 「セス シア 一二危 ģ ス Ξ

已ニ十 之ト善隣ノ 悉ク我手ニ帰シ、 御稜威ノ下、 ヲ図ルハ、 動 抑 帝国ニ挑戦シ来リ、 曩ニ中華民国ハ、我真意ヲ解セズ、 恭シク宣 ノ国是ニシテ、列国トノ友誼ヲ敦クシ、此ノ国是ノ完遂 々東亜ノ安定ヲ確保シ、 一ケ国ノ多キニ及ビ、 |戦ノ大詔ヲ奉 誼ヲ結ビ、 帝国ガ以テ国交ノ要義ト為ス所ナリ。 政 皇軍 府 同憂具眼ノ士国民政府ヲ更新シテ帝国ハ 1 向フ所敵ナク、 支那事変ノ発生ヲ見ルニ至リタルガ、 吉 友好列国ノ国民政府ヲ承認スルモノ 戴シ茲ニ中外 眀 世界平和ニ貢献 今ヤ重慶政権ハ、 既ニ支那ハ、 徒ラニ外力ヲ恃ンデ、 「ニ宣明 スル ス 奥地ニ残存 ₍) 重要地点 然ルニ、 帝 国不

記 こ

何

名 御 壐 立

御

昭和十六年十二月八

日

シ以テ帝国ノ光栄ヲ保全セムコト

-ヲ期ス

-和ヲ確

祖

宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亜永遠 皇祖皇宗ノ神霊上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武 ツテ一切ノ障礙ヲ破砕スルノ外ナキナリ Ξ 平 信倚シ

像セラル 臣 日 ニ依レ 決裂ニ付テハ本大臣同様之ヲ深ク遺憾トス N ニ英国側カ印度兵等ヲ集結シ居ル旨ノ報道ヲ開キ及ヒ居リ 臣ハ昨夜来ノ情勢ニ付テハ詳知セス尤モ本朝モ泰国境付近 ニ於テ軍部ヲ抑制センコト ニ於テハ進テ之ヲ侵害スル何等ノ意図ナシ就テハ日本政府 大臣トノ会見ヲ意味ス)他国カ泰ノ独立及保全ヲ尊重スル 敷事態ヲ誘発スヘシ英国ハ過日モ申述ヘタル通リ 示 、マシタル 、由ニテ 、上ハ之ヲモ考慮ニ入レ情勢ヲ研 2方面ノ事態ハ平常ニアラスト認メラレ 為メ我艦船カ近海ヲ游弋シ居ルモノナル も ハ目下在泰帝国大使ヨリ情報ヲ取寄セ居ルニ付キ右接到 瓜セラレ N ハ日本船舶多数軍隊ヲ護衛シ「シャ モノ - 一部ハ泰領ニ他ハ馬来半島ニ向フモノ ル処若シ日本軍カ同地方ニ侵入スルニ於テハ由 ・度シト 三同 ト了解セラレ度シト述へマシタ処同 大使ハ平和ヲ擾乱スル分子ノ 趣旨ヲ述へ ヲ希望スト述ヘマシタ 辞 去致シマシタ 究スルコト 此 ヘシト考フ本大 ノ情勢ニ対処ス ル旨述へ尚情報 ム」湾ヲ西 ,捏造的 トスヘシト答 ナル 大使 /ノテ本大 (六日 ヤ ハ交渉 報 航 道ヲ ニ想 本 マ 中

> 昭和16年12月 8 H

462

宣戦の詔書

記 宣戦に関する政府声

崩

付

_ 右政府声明英訳 文

Ξ 一二月八日枢密院会議議事要録

米国および英国に対し宣戦布告の 件

____ 二月八日外務省公表

껸

五 日 右公表英訳文 米交渉経過

書

詔

ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス 天佑ヲ保有 シ万世一系 ノ皇祚 7 践 X ル大日本帝国 天皇ハ 昭

庶ハ各々其ノ本分ヲ尽シ億兆一心国家ノ総力ヲ挙 朕茲ニ米国及英国ニ対シテ戦ヲ宣ス朕カ陸海将兵 奮テ交戦ニ従事シ朕カ百僚有司 ハ励精職務ヲ奉行 ヘハ 全力ヲ ケテ征 シ 、朕カ衆 戦

目的ヲ達成スル ニ遺算ナカラムコトヲ期 セヨ

顕

皇祖考丕承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳 東亜ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄与スル ハ 丕 々措

抑

ナ

ル 々

263

262

An Imperial Rescript declaring war having been

265

Statement by the Imperial Japanese December 8th, 1941 Government

何 記二)

ナル発足ヲ期スベキヲ信ジテ疑ハザルモノナリ。 我等祖先ノ赫々タル史績ヲ仰ギ、 ナク、又怠ルコトナク、克ク竭シ克ク耐へ、 今ヤ皇国ノ隆替、東亜ノ興廃ハ此ノ一挙ニ懸レリ。 慮ヲ永遠ニ安ンジ奉ラムコトヲ ハ今次征戦ノ淵源ト使命トニ深ク思ヲ致シ、 ニ万遺憾ナキヲ誓 遺風ヲ顕彰シ、 Ę 難関ニ逢フヤ必ズ国家興隆ノ基ヲ啓キシ 進ンデ征戦 期 セザ 雄渾深遠ナル ノ目的ヲ完遂シ、 Ň ベカラズ。 苟モ驕ル 以テ我等祖先 皇謨ノ翼賛 以テ聖 全国 コト 民

民ガ、我ガ真意ヲ諒解シ、帝国ト共ニ、東亜ノ新天地ニ新テ共栄ノ楽ヲ頒タント冀念スルニ外ナラズ。帝国ハ之等住 至 国が南方諸地域ニ対シ、新ニ行動ヲ起スノ已ムヲ得ザル 英米ノ暴政ヲ排除シテ東亜ヲ明朗本然ノ姿ニ復シ、 進スルノ決意ハ、益々牢固タルモノアリ。而シテ、 ル 何等其ノ住民ニ対シ敵意ヲ有スルモノニアラズ。只 今次帝 相携へ Ξ

> makes an announcement to all the world graciously granted, the Japanese Government hereby

policy recognized neighbourly friendship, and sn farsighted Chinese leaders sharing the same views with points in China have now fallen into our hands, proved victorious wherever they august virtue of our sovereign, our Imperial forces intentions, and provoked a fact policy has been to carry out the aforesaid national world stability of East Asia and to contribute to the cause of Today, the Chungking Government, surviving China, with Unfortunately, the China Affair broke out, owing to the have established a new National Government of that China failed to comprehend Japan's It is the immutable policy of Japan to insure peace, by cultivating friendship with by while the guiding principle of its foreign which as many Japan has as which conflict. But under eleven friendly Powers. formed went. All important has already the all nations ties 'n been true and the the the of

恃ミテ帝国ノ真ノ国力ヲ悟ラズ、与国ト共ニ露ハニ 弄シテ東亜ノ明々白々タル現実ヲ認メズ、其ノ物的 脅威ヲ増大シ、 為ス可キヲ為シタリ。 ノ精神ヲ以テ事態ノ平和的解決ニ努メ、尽ス可キヲ尽シ、 以テ帝国ヲ屈従シ得ベシトナス。 然ルニ米国ハ、 徒ラニ架空ノ原則ヲ 武力 「勢力ヲ 1

嗾シ、

仏印ヲ脅威シ、

帝国ト泰国トノ親交ヲ裂カムガ為、

策動至ラザルナシ。

仍チ帝国ト之等南方諸邦ト

ノ間ニ共栄

+

ルヲ欲

セズ、百方支那事変ノ収結ヲ妨碍シ、

更ニ蘭

ED

「ヲ使

亜ヲ永久ニ隷属的地位ニ置カントスル頑迷ナル態度ヲ改

シテ無益ノ抗戦ヲ続クルニ過ギズ。然レドモ英米両国

ハ

東

Å

施シツツアルモノノ如ク、遂ニ無道ニモ、経済断交ノ挙ニシ。其ノ状恰モ帝国ヲ敵視シ帝国ニ対スル計画的攻撃ヲ実

、関係ヲ増進セムトスル自然的要求ヲ阻害スルニ寧日

ヲ調整シ、 家ノ総力ヲ挙ゲテ征戦ノ事ニ従ヒ、 方途トハ全ク失ハレ、 ニ芟除シ聖旨ニ応へ奉ルベキノ秋ナリ。 ニ堪エズ。我等臣民一億鉄石ノ団結ヲ以テ蹶起勇躍シ、国 戦ノ大詔ハ渙発セラレタリ。 攻撃ヲ加へ来レリ。事茲ニ至ル。遂ニ米国及英国ニ対シ宣 殆ニ瀕セリ。更ニ今日ニ至ツテ、 斯クテ平和的手段ニ依リ、 相携へテ太平洋ノ平和ヲ維持セムトスル 東亜ノ安定ト帝国ノ存立トハ方ニ危 米国並ニ其ノ与国ニ対 聖旨ヲ奉体シテ洵ニ恐懼感激 彼ハ我軍ニ対シテ、 以テ東亜 エノ禍根 ス 希望ト N ラ永久 直接 関係

惟フニ世界万邦ヲシテ各々其ノ処ヲ得 国ト盟約シテ、 ハ、固ヨリ渝ル所ナク、 ノ実ヲ挙ゲ、 トシテ日星ノ如シ。帝国ガ日満華三国ノ提携ニ依り、 進ンデ東亜興隆ノ基礎ヲ築カムト 世界平和 又帝国ト志向ヲ同ジウスル ノ基調ヲ画シ、 シムル 新秩序ノ ノ大詔 -スル 建設ニ邁 独伊両 ノ方針 ハ 共栄 炳

ヲ重ネ、

米国ト其ノ背後ニ在ル英国並ニ此等両国ニ付和ス

波及スルヲ防止セムコトヲ顧念シ、

叙上ノ如ク帝国

2

, 存 立

ラ

禍ノ

-東亜ノ安定トニ対スル脅威ノ激甚ナルモノアルニ拘

隠忍自重八ケ月ノ久シニ亘リ、

米国トノ間ニ外交交渉

帝国政府ハ、太平洋ノ平和ヲ維持シ、以テ全人類ニ戦

威ヲ加フルニ至レリ。

シテ帝国ノ四辺ニ武力ヲ増強シ、

ソレ自体黙過シ得ザル所ト

ス。

、帝国ノ存立ニ重大ナル脅然モ両国ハ更ニ与国ヲ誘引

ノ存立ニ重大ナル

経済断交ハ、武力ニ依ル挑戦ニ比ス可キ敵対行為ニシテ、 出ヅルニ至レリ。凡ソ交戦関係ニ在ラザル国家間ニ於ケル

ル諸邦

反省ヲ求メ、

帝国ノ生存ト権威ト

1

、許ス限

ŋ

Ħ.

remote interior, can do no more than continue its futile resistance. However, the United States of America and the British Empire, unwilling to alter their senseless policy of keeping East Asia permanently in a servile position, obstructed by all means the settlement of the China Affair.

266

Moreover, they instigated the Netherlands East Indies, menaced French Indo-China and resorted to all possible measures with a view to alienating Japan and Thailand. So busily engaged were these two Powers in frustrating Japan's natural aspiration to promote with these countries of the South the relationship of common prosperity, that it appeared they were about to open a planned attack upon us. Finally, they went so far as to adopt the outrageous measure of severing economic relations with Japan. Between non-belligerent Powers the rupture of economic relations constitutes a hostile action comparable to a challenge by armed force. Not

realities of East Asia. Blinded by its material strength utopian However, that could be tried, and did all that could be endeavoured toward a peaceful settlement. We tried all both the existence and prestige of our Empire, and we spirit of conciliation as far as it was compatible with Powers, reconsideration of their attitude, we showed the and also other countries under the influence of the two urged upon the United States, and Britain at its back, diplomatic negotiations with the United States. conducted patiently and prudently for eight long months spread of war-like preserve the peace of the Pacific East Asia, the menace to the existence of Japan and the stability of creating a grave menace to our existence. Despite such the increase of armed forces on all sides of Japan, Powers, inducing other countries to follow suit, caused principles, refused to recognize the American Government, Japanese disturbances Government, and to prevent the to all the toying anxious the world, plain done. with We to

eliminate forever the sources of evil in East Asia and to the prosecution of the war in order that we may of His Majesty, to stand up resolutely with a unity of and jeopardy. Even today they are directly attacking our relations with them by peaceful means. The stability of associate of the Pacific in co-operation with the United States and there exists any hope or formula to maintain the peace it could thereby compel Japan's submission. No longer Government increased military menace in the belief that conjunction with its associate Powers, Ħ will strong as iron, and devote the nation's total strength armed forces. Such being the situation, an Imperial Injunction. It is time for us, one hundred million subjects Government is filled with awe on receiving the Imperial Rescript declaring war on the United States of America East Asia and the existence of Japan are now in failed to see the British Powers the real power of Japan. Empire has been issued. through the adjustment the American of And our The Ξ.

thereby meet the august wishes of our sovereign

and share in the enjoyment of common prosperity with East Asia to its proper and underfiled state of existence with the tyranny of America and Britain and to restore the peoples of those regions. We only desire to do away be stressed that we harbour no hostile intention toward action in the various regions of the South, but it should of a new order, Japan is now obliged newly to take world peace and march foward toward the construction aspirations with Japan, we should mark a foundation for in alliance with Germany and Italy sharing the same firm and unshakable as ever is our national resolve that, foundation for the rise and progress of East Asia. And and collaboration of the three countries, and to lay the Japan, China and Manchoukuo through the co-operation immutable is our policy to realize common prosperity of nations to have each, its proper place in the world. And Imperial Rescript on Japan's There remains, glorious as the sun and stars, mission ð enable all the

ind forever at ease.	森山法制局長官
	外務省 山本「アメリカ」局長
	阪本欧亜局長、
十二月八日枢密院会議議事要録(松本条約局長手記)	松本条約局長
陸軍省 武藤軍務局長	アリ
海軍省 囧 軍務局長	原案満場一致可決セラル
初ニ海軍大臣ヨリ今朝来「マレー」方面香港方面「ハワ	◎本会議
」方面ニ於ケル米英軍トノ交戦状況ニ付報告アリ	同日午前十時宮中東溜間
議長─副議長ヲ委員長トシテ全顧問官ヲ委員トスル審査	天皇陛下御親臨
委員会ヲ即時開催審議促進方希望ス	石井顧問官=宣戦布告ノ時期ハ何時カ、米、英ニ責任ヲ転
条総理大臣 ━ 宣戦布告ノ理由ヲ説明ス	嫁セラレザル様注意ノ要アリ
<b>原、深井両顧問官ヨリ戦費ノ支弁、物資ノ関係等ニ付質</b>	総理大臣=即刻布告スルコト望マシ
アリ、大蔵大臣、総理大臣ヨリ答弁アリ	窪田顧問官=戦闘行為ハ既ニ始マレル様ナルガ大本営トノ
上顧問官―本件御諮詢ハ「宣戦布告ヲシテ良イカドウカ」	関係如何
ト云フ御尋ネナリヤ、即チ戦争開始ニ付テハ既ニ勅裁ア	総理大臣=十二月一日ノ御前会議ニテ英、米、蘭ニ対シ開
リタル次第ナリヤ	戦ニ決定セリ
理大臣=然リ	清水顧問官=「タイ」国ノ態度如何
(東郷外務大臣出席ス)	総理大臣=末ダ不明ナルモ共同防衛ノ方針ニテ交渉中ナリ
上、池田両顧問官ヨリ参考添付ノ詔書案文中米国トアル	清水顧問官=-蘭ニ対シテハ宣戦セザルヤ
米州ヲ指スモノトノ誤解ヲ与フトテ修正意見出デタルモ	総理大臣=蘭ニ対シテハ作戦ノ便宜上宣戦セズ
埋及条約局長ヨリ斯ル誤解ヲ生ズル ナキコトヲ弁明セ	南顧問官=独ノ態度如何
	総理大臣=大体参戦ノ模様ニテ目下交渉中
後ニ東郷外務大臣ヨリ開戦ニ到ル迄ノ外交経過ニ付報告	奈良顧問官=「ソ」連ノ態度如何

転

forward to a new beginning of life in a new East Asia. regions will understand Japan's true intentions and look them all. We are convinced that the peoples of these

campaign, should not act rashly nor be neglectful. But decline of East Asia, depend upon the present war. All worthy of the best traditions of our forefathers. through our industry and endurance we should prove our people, mindful of the origin and the mission of this The rise or fall of our Empire, and the progress or

should pledge ourselves opportunity of furthering our national fortune, those Η present sighted Imperial policy, and to attain the aims of the Looking up to the brilliant accomplishments Ш. campaign and to set thereby our sovereign's history who to assist in the noble and farturned every crisis into we an of

## A

序 言

268

アリテ、 テ起案) 定ハ既ニ昭和十六年十二月一日ノ御前会議ノ結果トシテ行 ナラザルガ、米国及英国ニ対シ宣戦ノ際ニハ戦争ノ意思決 官制第六条第十一号ノ事項中ニハ「宣戦ノ布告」ヲ含ムト 昭和十三年十二月枢密院官制改正ノ際決定ノ内規中ニハ同 フ上奏案ヲ御諮詢相成ルコトトナリ、 ハレ、枢密院ニハ「米国及英国ニ対シ宣戦ヲ布告ス」ト云 ニ宣戦ヲ布告スベキヤ否ヤヲ御諮詢相成ルモノナリヤ明カ トシテ上奏案ニ添付セラレタリ 右ハ戦争ノ意思決定ヲ御諮詢相成ルモノナリヤ単 (上奏案及詔書案ハ内閣ニ 宣戦ノ詔書案ハ参考

◎審査委員会

十二月八日午前七時四十分宮中東三ノ間

出席者 全顧問官、 米 英大使ト会見ノ為遅参ス) 全国務大臣(東郷外務大臣ハ

269

開

八 「ハル・ノート」受領から開戦

総

____ 問

菅 東

原イ最

総ハニ

最 1]

271

然

隊ハ平 セラル コトトセリ ンカ為来栖大使ヲ米国ニ急派シ野村 旋スヘキコトヲ要望シ尚本件交渉ニ付万全ノ努力ヲ払 英国其他ノ 於テハ直ニ之ヲ撤去スヘシトノ案ヲ得右案ニヨリ交渉ヲ 支那事変解決スルカ又ハ公正ナル東亜ノ平和確立ス 安確立ト共ニ撤去スヘク又仏印ニ派遣セラレ居ル軍 支間平和成立後一定地域ニ所要期間駐屯スヘク爾余 那事変ノ為メ支那ニ派遣セラレタル日本軍 ラルルコトニ異議ナキコト 通商上ノ無差別待遇原則ニ付テハ右原則カ全世界ニ適 国条約ニ関連スル自衛権問題ニ付テハ米国ニ於テ自 ル見地ヨリ当時交渉ノ主要問題タリシ三事項ニ付 続スルコトニ決シ公正ナル基礎ニ於テ妥結ヲ図ラントス 続行セリ此 ノ観念ヲ濫ニ拡大セサル旨明確ニスルコトヲ要求シ ルニ於テハ右カ支那ヲ含ム全太平洋地域ニ適 和成立ト同時ニ日支間協定ニ従ヒ撤去ヲ開始 諸国トモ同時ニ了解ノ成立方米国側ニ於テ斡 ノ間政府ハ日米交渉成立ノ際ハ関係事 トシ タル日本軍隊ノ一部ハ日三撤兵問題ニ付テハ支 大使ヲ援助 手隊ノ一部ハ セ 「項ニ付 シ ル ルシ治 ノ軍 涌 (<u>−</u>) <u>−</u> (二) 4 隊 衛 Ξ 一用 権 ル ハ ハ セ

Ξ 現内閣ニ於テ ハ 太平洋 ノ平和ヲ顧念スル為メ交渉ヲ継

結 シテ米国ニシテ右ノ態度ヲ固持スルニ於テハ本交渉 理念ヲ強硬ニ固執シ東亜ノ実情ヲ顧ミス之ヲ其儘支那其 カ国際関係処理ニ付独善的見解ニ立脚セル架空ノ原則 い極メ 他ニ適用センコトヲ主張シ居ルコトニ起因 2 ノ如ク両国ノ見解対立ヲ来シタル所以ノモ テ困難ナル状況ニアリタ í) スルモノニ ラ ン 米国 ノ妥 的

関ニ逢着スルニ至リ遂ニ停頓ノ儘十月中旬第三次近衛内 政府ノ見解ヲ更ニ明示センコトヲ要求シ交渉ハ之カ為難 和手段ニ依ルノ外太平洋ニ於ケル現状ノ不変更ナル諸原 権尊重印他国ノ内政不干渉印通商上ノ無差別待遇及四平 シテ固持シ来レル四原則即チ(一切ノ国家ノ領土保全主 ヲ重ネタルカ十月二日米国ハ予テ其ノ国際関係ノ基準ト 六日局面打開案ヲ提示シ次テ同二十五日ニ至リ之等我方 且前記六月案ヲ固持シテ譲歩セサリシニ依リ我方ハ九月 立スルニ非サレハ之ヲ実行ニ移シ難シトノ態度ヲ固 ノ主張ニ前記米国側六月案ヲ参酌セル新案ヲ提出シ交渉 (ノ適用ニ関スル帝国ノ意図並ニ前記三問題 ハ挂冠セリ 超ニ関シ帝国 **|執**シ

> 必要ナル所以ヲ申送リタリ之ニ対シ米国ハ主義上賛意ヲ 的圧迫ヲ加へ来レルカ帝国ハ依然平和解決ノ希望 更ニ具体的ナラシメタル修正案ノ提示アリ爾後交渉ハ同 ト共ニ危局救済ノ為ニハ一刻モ速カニ両国首脳者会合ノ レ八月近衛首相ヨリ「ルーズヴェルト」大統領ニ対シ 「メッセーヂ」ヲ以テ帝国政府ノ平和的意図ヲ開 、措置ヲ講スルヤ米国ハ帝国ニ対シ資産凍結ヲ行ヒ経済 然ルニ七月第三次近衛内閣設立後間モナク帝国カ仏国 ノ間ニ締結シタル議定書ニ基キ仏領印度支那共同防衛 「陳スル 三促サ

`` 表シタルモ交渉中ノ懸案特ニ三国条約問題、 案ヲ繞リ継続セラレタリ

隊駐留問題及国際通商無差別待遇問題ニ関シ先ツ合意成

在支日本軍

ルセラレ

日米交渉経過 又支那事変ニ関シテハ米国ノ容認スル基礎条件ヲ以テ日 方面 治的安定代比律賓中立化等ノ項目ヲ含ミ之ヲ太平洋全般ノ通商迅太平洋地域ニ於ケル経済活動以太平洋地域ノ政戦争ニ対スル態度回支那事変ニ対スル態度侧日米両国間 支和平ヲ仲介セント 自 同 ナリ本案ニハ日本政府ニ於テ受諾シ得サル幾多ノ点アリ 案ノ内容ハ⇔両国ノ抱懐スル国際観念及国家観念⇔欧州 四月中旬米国政府ヨリ非公式試案ノ提示アリタルカ右提 日米間ノ交渉ハ本年春頃ヨリ華盛頓ニ於テ開始 問題ニ関スル一般的協定ノ基礎タラシメントセルモノ |衛ニ名ヲ籍リテ欧州戦争ニ参入スル場合帝国カ太平洋 案中米国政府ハ日独伊三国同盟条約ニ関シテハ米国カ [ニ於テ米国ノ安全ヲ脅威セサルコトニ付保障ヲ求メ セリ依テ帝国政府ハ五月中旬三国条

> Η 処六月下旬米国政府ヨリ前期四月案ニ比シ米国ノ主張ヲ 求スル等ノ修正ヲ加ヘタル対案ヲ提出シ交渉ヲ重ネタル 告ニ聴従セサレハ重慶援助中止ヲ申入レアリ度キ旨ヲ要 ニ信頼シテ重慶ニ対シ和平ヲ勧告スヘク重慶ニ於テ右勧 ル旨ヲ明カニシ又支那事変ニ付テハ米国ハ近衛三原則 i支基本条約及日満華共同宣言ヲ了承シ我善隣友好政

策

約ニ付テハ我軍事援助義務ハ同条約規定ノ場合ニ発動

ス

270

出席者

審査委員会ト同ジ

総理大臣=「ソ」連ノ態度ハ慎重ナリ

鈴木委員長ノ審査報告ア

i) _、満場

____

致可決セラ

'n

何

記四)

(ホ) 事的、 両国政府 政治的、 ハ支那ニ於ケル治外法権 経済的ニ支持セス (租界及団匪

- (=) 両国政府ハ重慶政府ヲ除ク 如 何 ナ ル 政権ヲモ軍
- $(\cdot)$ 空及警察)ヲ撤収スヘシ 日本政府ハ支那及仏印ヨリー 切 ノ 軍 隊(陸、 海
  - テ特恵待遇ヲ排除シ平等ノ原則確保ニ努ム
    - 右協定締結国ハ仏印ニ於ケル貿易及経済関係 -於
      - へキ協定ノ締結ニ努ム
- (1) カ脅威サルル場合必要ナル措置ニ関シ即時協議 日米両国政府ハ日、米、 ノ間ニ仏印ノ領土主権ヲ尊重シ仏印 英、 支、 蘭、 ノ領土 泰国 亡主権 政 府 ス
- (1) 不可侵条約ノ締結ニ努ム 日米両国政府 ハ英、蘭、支、 蘇、 泰ト -共ニ多辺
- 日米両国政府ノ採ルヘキ措置トシテ

原 拠ノ原則ト改メ経済関係ニ於テハ主トシテ前記政治的 手続ニ依ル国際状勢改善ノ為メ国際協力及国際調停遵 中第四点ヲ紛争ノ防止及平和的解決並ニ平和的方法及 則 第三通商上ノ機会均等及平等待 過ノ 原 小則ヲ 敷 衍

テ 日米相互間ニ於テ実際ニ適用スへキ根本的原則トシ 政治関係ニ於テハ前述ノ四原則ヲ再述セルカ唯其ノ

二十六日国務長官ハ両大使ニ対シ二十日ノ我提案ニ付テ 米国政府ハ其ノ後モ前記諸代表ト協議ヲ重ネ居リ ロセリ即 シトテ今後 慎重研究ヲ加へ関係国トモ協議セルモ遺憾乍ラ同意シ Ŧ 2 交渉ノ基礎案トシテ大要左ノ如キ案ヲ提 ģ ív 力

Ξį 所アリ十一月二十二日国務長官ハ両大使ニ対シ南部仏 和 Э 時機未夕熟セスト思考スル旨ヲ述ヘタリ リノ撤兵ノミニテハ南太平洋方面ノ急迫セル情 然ルニ此ノ間米国政府ハ英豪蘭及重慶代表ト協議 スルニ足ラストスル旨並ニ大統領ノ所謂日支間 勢ヲ緩 1 紹 ス 印ル 介

平和成立ヲ妨害スルモノニシテ其ノ態度ニ矛盾アルコト平ノ紹介者タル米国カ依然援蔣行為ヲ継続セントスルハ第採用ヲ前提トスルモノナル旨ヲ述ヘ第四項ニ付大ナル日支間和平ノ「紹介者」タラントノ提案モ日本ノ平和政 7 指摘シ米国政府ノ反省ヲ要請セシメタリ

ハ

両国国交ノ

破綻ヲ回避スル為メ最善

ノ努力ヲ竭サ

シト

蔣行為ヲ停止

平和政 右ニ対

策採用ヲ確言スルニ非サレハ右第四項ヲ受諾シ援

スルコト不可能ナリト云ヒ又大統領ノ所謂

シ国務長官ハ帝国カ三国条約

ŀ

ノ関係ヲ

朔

カ

ニシ

用意アルコトヲ闡明ス

駐屯中ノ日本軍ハ之ヲ北部仏領印度支那ニ移駐スル 日本国政府ハ本了解成立セハ現ニ南部仏領印度支那ニ

1

ス

問 ヲ 除 居 国務長官ト会見ヲ重ネ交渉急速妥結ノ要アルコトヲ力説 ヲ 支那共同開発提案ハ支那国際管理ノ端緒トナル虞レ ヲ承認ストノ趣旨ヲ答フルト共ニ右共同宣言案ニ付テハ 付テハ帝国ハ同原則カ全世界ニ適用セラルル 案ヲ提出セリ依テ帝国政府ハ右ニ対シ通商無差別原則 ヲ行フコト等ヲ包含スル経済政策ニ関スル日米共同宣言 用スルコトヲ主張シ列国共同ノ下ニ支那ノ経済協同 望 I タ セル処大統領ハ支那問題ニ付テハ日支間和平ノ「紹介者」 シ右希望ノ実現ニ順応シテ支那ニ対シテモ同原則 ス 十一月十七日以来野村大使ハ来栖大使ト共ニ大統領及 'n 'n |スル旨反覆力説シ通商無差別原則ハ無条件ニ支那ニ適 題及支那問題ニ在ルコト明カト ル限リ日米交渉ハ至難ナルヲ以テ先ツ此ノ根本的困難 以テ受諾シ難キコトヲ述へ米国側ニ撤回ヲ求メタリ ルノ要ナカ モ難関 去スル必要アル旨ヲ強調シ両三回ニ亘リ論議ヲ重ネ ノ用意アリト述へ又国務長官ハ帝国カ独逸ト提携シ ハ依然トシテ三国条約、 N ヘク右ハ消滅若クハ死文トナル ナレ 国際通商無差別待遇 ルヲ以テ帝国政府 コトヲ希望 コト (ノ適用 アル 開 -ヲ 要 Ξ 発

> スル (五) (四) (三) (二) 平洋地域ニ武力的進出ヲ行ハサルコトヲ確約⊖、日米両国政府ハ孰レモ仏印以外ノ南東亜細 ル ニ復帰スヘシ米国政府ハ所要ノ石油ノ対日供給ヲ約ス〔、日米両国政府ハ相互ニ通商関係ヲ資産凍結前ノ状態 為メ十一月二十日左ノ新提案ヲ提出セリ フルカ如キ行動ニ出テサルヘシ ニ派遣セラレ居ル日本軍隊ヲ撤退スヘキ旨ヲ約 ニ於ケル公正ナル平和確立スル上ハ現ニ仏領印度 ノ獲得カ保障セラルル様相互ニ協力スルモノトス 日本国政府ハ日支間和平成立スルカ又ハ太平洋地域 米国政府ハ日支両国ノ和平ニ関スル努力ニ支障ヲ与 日米両国政府ハ蘭領印度ニ於テ其ノ必要トス 考慮ニ基キ枢要且緊急ノ問題ニ付公正 ナル妥結ヲ図 ス 亜 N 及 支那 物資

南 太

「ハル・ノート」受領から開戦 八

> $\Im$ (2)China and Japan. character of nations Japan respecting international relations and the European war Action toward a

- The attitudes of both Governments toward the
- peaceful settlement between
- (4)Commerce between both nations
- such terms as were acceptable to the United States the Japanese Government and the Chungking régime on offices for the initiation of peace negotiations between of self-defense. Again, as regards the China Affair, the latter should participate in the European war on the plea not to menace the security of the United States when the asked the Japanese Government to give an undertaking Japan, Germany and Italy, the American Government instance, with reference to the Tripartite Pact between points unacceptable to the Japanese Government. For Pacific area. But the proposal contained a number of general agreement concerning the questions of the entire American Government would undertake to use its good
- Pacific area.
- stabilization in the Pacific area
- Ξ Neutralization of the Philippine Islands
- The proposal was intended to serve as a basis for a
- 5 Economic activity  $\mathbf{f}$ both nations in the
- 6 The policies of both nations affecting political

- SUMMARY OF THE JAPANESE-AMERICAN

何

記五)

- NEGOTIATIONS
- ( December 8th, 1941. )

and proposal. items : the American Government submitted an informal draft Washington in spring of this year. In the middle of April, the United 1. Negotiations between the Governments of Japan It contained stipulations on the following States of America were begun at

Ξ

The concepts of the United States

and of

6 両国政府ハ互恵的最恵国待遇及通商障壁低減 措置ヲ慫慂スヘシ Ż

議定書ニ基ク権利ヲ含ム)ヲ抛棄シ他国ニモ同様

- 主義ニ基ク通商条約締結ヲ商議スヘシ(生糸 由品目ニ置ク) ハ 自
- 両国政府ハ相互ニ資産凍結令ヲ廃止ス
- (チ) () 供給ス 円弗為替安定ニ付協定シ両国夫々半額宛資金ヲ
- $(\mathbf{i})$ 本協定ノ根本目的即チ太平洋全地域ノ平和確保ニ 両国政府ハ第三国ト締結シ居ル 如何ナル協定モ
- 矛盾スルカ如ク解釈セラレサルコト -ニ 付 口同意ス
- (X) 以上ノ諸原則ヲ他国ニモ慫慂スル コト

ヲ提案セリ

領ハ両大使ニ対シ今猶日米交渉ノ妥結ヲ希望セサルニ非 セル 義方針カ一致セサル限リ結局無効ト思考スル旨ヲ述ヘタ 右ニ付両大使ハ其ノ不当ナルヲ指摘シ強硬ナル応酬ヲナ Ń 依テ帝国政府ハ米国ニ対シ十一月二十日ノ我方提案ハ モ暫定的方法ニ依リ局面打開ヲ計ル カ国務長官ハ譲歩ノ色ヲ示サス越エテ二十七日 ハ両国ノ根本主 大統

ヲ以テ別添

「対米覚書」ヲ以テ其ノ態度ヲ明カニセリ

六、従ツテ前記米国提案ニ対シ帝国政府ハ十二月七日付 ニヨレ 二日ニ至リ「ウェルズ」次官ハ大統領ノ命ナリトテ情報 ニ至レリ スルト共ニ輿論ヲ指導シ交渉決裂ノ場合ノ地固メヲ為ス 回答シタルカ此ノ間米国政府ハ対日包囲陣ヲ急速ニ増強 自然南部ニ於テモ部隊ノ移動カ行ハレタルモノナル旨ヲ 於テ一部兵力ノ増強ヲ行ヒタルモノナル処之ト関連シテ カ頻リニ蠢動シ居ルニ鑑ミ之ニ備ヘンカ為メ北部仏印ニ 国政府ハ右ハ最近仏印ト支那ト 居レリトテ右ニ関スル帝国ノ真意ヲ照会越シタリ依テ帝 ヲ得スト為シ東亜ノ現実ヲ無視セル新案ヲ提出シ殊ニ支 作成セラレタルモノナルニモ拘ラス米国カ之ニ同意スル 的問題ニ付更ニ商議ヲ進メントスル色ナク越エテ十二月 カ国務長官ハ従来ノ態度ヲ固執スルノミニテ交渉ノ本質 ムルモノナルニ付米国側ニ於テ反省センコトヲ要求セル |問題ニ関シ其ノ態度ヲ豹変セルハ米国ノ誠意ヲ疑ハシ ハ最近仏印方面ニ於テ日本軍隊ノ移動増強行ハレ ノ国境付近ニ於テ支那軍

最モ公正ナル基礎ニ於テ従来ノ彼我主張ヲ充分考慮ノ上

new counter-proposal was submitted by the American cease from aiding the Chungking régime. Negotiations to accept the American advice, the United States was to it was further stipulated that in case Chungking refused Japanese Government for the restoration of peace, and the Chungking régime to enter into negotiations with the premises provided that the American Government, accepting the said treaty, while with regard to the China Affair, it was military assistance would arise as stipulated under the was explicitly stated that Japan's obligation to render American proposal. Concerning the Tripartite Pact it counter-proposal in the middle of May, modifying the Government, which, as compared with its proposal of were continued further when in the latter part of June a Japan's Policy of neighborly friendship, would urge upon of Japan, Manchoukuo and China, and relying upon Sino-Japanese Basic Treaty and the Joint Declaration Accordingly, the Japanese Government sent a of the three Konoye Principles, the

> revolving round this June proposal. manner. Discussions were continued to be April, set forth American claims in a more concrete held,

not see its way to putting it into practice unless an Government stoutly maintained its stand that it could principle in the relations of the two countries. While accepting in the two Governments with a view to averting the crisis meeting without delay between the responsible heads of fully the peaceful intentions of Japan, and proposing a personal message to President Roosevelt, setting forth settlement, and in August premier Prince Konoye sent a applied economic pressure by freezing Japanese assets. and France, whereupon the American Government accordance with the Protocal concluded between Japan measures of joint defense of French Indo-China in Konoye But the Japanese Government still hoped for a peaceful 2. In July, soon after the formation of the Cabinet the Japanese the Konoye proposal, Government the American third took

Government submitted on September to make any concessions. and moreover, it held fast to its June proposal, refusing discriminatory treatment in international commerce; the stationing of Japanese troops in China, and the nonissues, especially on the questions of the Tripartite Pact, agreement of view had been first reached on the pending namely intentions proposal of June and incorporated Japanese claims September 25 which took into account the American followed by fundamental principles of principles long advocated by the United Negotiations were continued until October 2, when the American Government requested clarification of Japan's regarding yet another proposal submitted the application Accordingly, the Japanese international relations 6 a proposal, of the States as four on

(2)sovereignty of each and all nations Support of the principle of non-interference in Respect for the territorial integrity

and

the

(4)At the by peaceful means. Pacific except as the status quo may be altered Non-disturbance of the status quo same time, it demanded the Japanese Б the

ය

equality of commercial opportunity.

Support of the principle of equality, including

the internal affairs of other countries

negotiations struck an impasse. In the meantime three Konoye Cabinet resigned in the middle of October. Government to clarify further its views concerning the questions mentioned above. As a result, the the

long as the American Government persisted in that the real conditions of East Asia. It was evident that so application thereof in China and elsewhere, regardless of with international relations, to utopian principles based on selfish views for dealing because the American Government obstinately adhered between the two Governments was produced largely Such divergence of view and insisted upon the as above mentioned

277

Ξ

attitude, there was little chance of bringing negotiations to a successful conclusion.

China. E. negotiations-namely proposal concerning the three principal issues in the a view to effecting a settlement on an equitable basis, of the Pacific decided to continue the negotiation. With and (3) evacuation of troops from China and French Indodiscriminatory the Japanese Government formulated the following connection ω The present Cabinet in its solicitude for the peace treatment in international commerce with the (1) the right Tripartite Pact, of self-defense (2) non-

- The American Government undertakes not to enlarge unduly the meaning of "self-defense"
- (2) The Japanese Government recognizes the principle of non-discrimination in international commercial relations to be applied to all the Pacific area, including China, on the understanding that the said principle is to be

applied uniformly to the rest of the world.

278

ω equitable basis or the establishment of peace in East Asia on an either upon the settlement of the China Affair Indo-China will be withdrawn immediately between Japan and China. The troops in French peace and in accordance with the agreement troops will be withdrawn upon the conclusion of duration in specified areas, and the rest of the China Affair will be stationed for the necessary despatched to China in connection with the Japan Following the restoration of peace between and China, the Japanese troops

Negotiations were conducted on the basis of the above proposal. Meanwhile the Japanese Government requested the American Government to use its good offices, upon the conclusion of the Japanese-American negotiation, for the conclusion of a similar understanding with Great Britain and other countries

concerning relevant subjects. Moreover, in order to do the utmost in the negotiation, dispatched Ambassador Kurusu posthaste to Washington to assist Admiral Nomura.

commercial non-discrimination principle, Japan hoped hope that the said treaty would cease to exist or become of a Japanese-Amercan agreement, and expressed its ð with the realization of this principle throughout the would recognize its application to China in accordance discrimination in international commerce, the American a dead letter. for its application throughout the world and that Government replied to the effect that with regard to the jointly China, proposed the economic development of China Government, insisting on its unconditional application to repeatedly urged that there would be no need for Japan maintain the Tripartite Pact after the consummation On the other hand, the American Government by the Powers. To this proposal the Japanese As regards the principle of noniŧ

> world, and also that the American proposal for the joint international development of China was unacceptable to Japan as it would open the way for the joint international control of China. On these grounds, the Japanese Government requested the American Government to withdraw the proposal in question.

fundamental difficulty. Germany, would prove difficult as long as Japan co-operated with emphasized, Japan and Chungking, and the Secretary of prepared to act as an "introducer" meetings at which the President stated that he was negotiation. bringing about speedily an amicable conclusion of the and strongly urged upon the latter two the necessity of met the American President and the Secretary of State Nomura, together with Ambassador Kurusu, repeatedly 4 On November and it was Discussions were extended that, Japanese-American 17 Despite these discussions, necessary and thereafter of peace between to negotiations remove over Admiral ھ State this few Ħ

became clear that the difficulty lay as before in the questions of the Tripartite Pact, of the international commercial non-discriminatory treatment and of China. In order to avert the rupture of diplomatic relations between the two countries, the Japanese Government presented on November 20, the following new proposal calculated to achieve an equitable solution of the more essential and urgent questions.

- Both the Governments of Japan and the United States undertake not to make any armed advancement into any of the regions, excepting French Indo-China, in the South-eastern Asia and the Southern Pacific area.
- (2) The Governments of Japan and the United States shall cooperate with a view to securing the acquisition of those goods and commodities which the two countries need in the Netherlands East Indies.
- (3) The Governments of Japan and the United

States mutually undertake to restore their commercial relations to those prevailing prior to the freezing of the assets.

The Government of the United States shall supply Japan a required quantity of oil.

- (4) The Government of the United States undertakes not to indulge in measures and actions prejudicial to the endeavours for the restoration of general peace between Japan and China.
- (5) The Japanese Government undertakes to withdraw troops now stationed in French Indo-China upon either the restoration of peace between Japan and China or the establishment of an equitable peace in the Pacific area.

The Government of Japan declares that it is prepared to remove the Japanese troops now stationed in the southern part of French Indo-China to the northern part of the said

territory upon the conclusion of the present agreement.

an interference with the realization of peace, and that the United States, the peace introducer, would constitute continuation of aid to the Chiang Kai-shek regime by through reconsideration by the American Government, pointing adoption of a peaceful policy. Thereupon, the Japanese and that the President's offer to act as "introducer" of assurances regarding her adoption of a peaceful policy, clarified her relations with the Tripartite Pact and gave cease aiding the Chiang Kai-shek régime unless Japan Government to accept the item 4 of our proposal and State contended that it was impossible for the American negotiations were opened between Japan and Chungking out to the Sino-Japanese Government instructed the two Ambassadors to request Regarding the above proposal, the Secretary of "introduction" Secretary of State that, in case direct peace was predicated by the President, upon Japan's the

the American contention was therefore inconsistent.

5. Meanwhile, the American Government consulted with the representatives of Britain, Australia, the Netherlands and Chungking, and on November 22 the Secretary of State told our two Ambassadors that withdrawal of troops from southern French Indo-China alone would not be enough to ease the tense situation in the Southern Pacific and that he considered the time was not yet ripe for the so-called "introduction" of peace between Japan and Chungking by the President.

Subsequently, the American Government continued consultations with the representatives of the Powers above-referred to and on November 26 the Secretary of State presented to our Ambassadors, as a basis for future negotiations, a proposal to the following effect, stating that, although the American Government had carefully studied the Japanese proposal of the 20th and consulted with the countries concerned, they could not unfortunately bring themselves to agree to our proposal.

methods and processes." As regards economic relations, changed the item 4 to "the principle of reliance upon principles to be practically applied to mutual relations above-mentioned four principles as the fundamental reiterated, with reference to political relations, the equal treatment in commerce. principle concerning the equality of opportunity the American Government elaborated the third political for improvement of internationl conditions by peaceful prevention and pacific settlement of controversies and international co-operation and between Japan and the United States. A In the new proposal, American Government conciliation for However, and the it

(B) As measures to be adopted by the Governments of Japan and the United States it proposed as follows:

(i) The Government of the United States and the Government of Japan will endeavor to conclude a multilateral non-aggression pact among the

> British Empire, China, Japan, the Netherlands, the Soviet Union, Thailand and the United States.

threat in question. may be deemed necessary and advisable to meet the consulation with a view to taking such measures as integrity of Indo-China, to enter into immediate that there should develop a threat to the territorial integrity of French Indo-China and, in the event would pledge an agreement whereunder each of the Governments Japanese, the Netherlands and Thai Governments conclude among the American, British, Chinese, Ξ Both itself Governments to respect will the endeavor territorial đ

Such agreement would provide also that each of the Government party to the agreement would not seek or accept preferential treatment in its trade or economic relations with Indo-China and would use its influence to obtain for each of the signatories equality of treatment in trade and

commerce with French Indo-China.

(iii) The Government of Japan will withdraw all military, naval, air and police forces from China and from Indo—China.

 (iv) The Government of the United States and the Government of Japan will not support militarily, politically, economically—any Government or régime in China other than the National Government of the Republic of China with capital temporarily at Chungking.

(v) Both Governments will give up all extraterritorial rights in China, including rights and interests in and with regard to international settlements and concessions, and rights under the Boxer Protocol of 1901.

Both Governments will endeavor to obtain the agreement of the British and other Governments to give up extraterritorial rights in China, including rights international settlements and in concessions

and under the Boxer Protocol of 1901

the bind raw silk on the free list. including an undertaking by the United States to reduction of trade barriers by reciprocal States and Japan of a trade agreement, based upon negotiations for the conclusion between the United (vi) Government of The Government of the United States and most favored-nation Japan will enter both countries, treatment into and

(vii) The Government of the United States and the Government of Japan will, respectively, remove the freezing restrictions on Japanese funds in the United States and on American funds in Japan.

(viii) Both Governments will agree upon a plan for the stabilization of the dollar-yen rate, with the allocation of funds adequate for this purpose, half to be supplied by Japan and half by the United States.

(ix) Both Governments will agree that no agreement which either has concluded with any third powers shall be interpreted by it in such a way as to conflict with the fundamental purpose of this agreement, the establishment and preservation of peace throughout the Pacific area.

(x) Both Governments will use their influence to cause other Governments to adhere to and to give practical application to the basic political and economic principles set forth in this agreement.

Regarding the above proposal, our Ambassador refuted the American claims pointing out their unreasonableness. But the Secretary of State failed to show any sign of concession, and on November 27 the President told our two Ambassadors that, although he still hoped for an amicable conclusion of the Japanese-American negotiations, he considered that it would be futile to try to surmount the crisis by a modus vivendi so long as the fundamental policies of the two countries

were not in accord.

284

China. To this inquiry, the Japanese Government replied recently taking place movements and reinforcement of Japanese troops intentions, saying that, according to their information, inquiry that he was acting under Presidential order, made an the American Under-Secretary of State Welles, stating the American Government. On December 2, however, attitude with respect to the China question-a fact which Ξ. made a new proposal which entirely ignored the realities maintaining that it could not agree to this proposal, the most equitable basis, the American Government, made after fully considering the claims of both sides on despite the fact that our proposal of November 20 was led the Japanese Government to doubt the sincerity of reconsideration of the American Government, because, East Asia and in particular completely changed its The Japanese Government, therefore, requested ð our Government in the region of regarding French Indoour were true

negotiations advantage and thus prepared the ground with a view to against Japan troops in the Southern area. Meanwhile the American between French Indo-China as a precautionary measure meeting the situation arising from the rupture of the Government rapidly and that this naturally had resulted in movement of the Chungking forces in the neighborhood of the frontier that, in view of the recent marked actvities and led public reinforced opinion to the encircling its of front own the

6. The Japanese Government made clear their attitude regarding the above-mentioned American proposal in its Memorandum to the American Government under date of December 7, the full text of which is published separately.